

希望の大地の戯曲

# 北海道戯曲賞

平成30年度受賞作品集



主催／公益財団法人北海道文化財団  
後援／北海道 協力／公益財団法人北海道演劇財団、日本劇作家協会北海道支部  
助成／一般財団法人地域創造

北海道戯曲賞

平成30年度受賞作品集

公益財団法人北海道文化財団



HOKKAIDO  
ARTS FOUNDATION  
公益財団法人 北海道文化財団

希 望 の 大 地 の 戯 曲

# 北海道戯曲賞

平成30年度受賞作品集



主 催 / 公益財団法人北海道文化財団  
後 援 / 北海道 協 力 / 公益財団法人北海道演劇財団、日本劇作家協会北海道支部  
助 成 / 一般財団法人地域創造

## 目次

### ■大賞

「バージン・ブルース」

作・大池 容子 1

### ■優秀賞

「酒乱お雪」

作・伸 由樹生 41

「転職生」

作・本橋 龍 137

選 評

189

平成30年度「希望の大地の戯曲」「北海道戯曲賞」の概要

204

大賞

# バージン・ブルース

大池容子

## 登場人物

藤木博貴

赤石修二

彩子／闇原有太郎

式場係

## あらすじ

舞台は結婚式場の控え室。娘・彩子の式の準備に追われている、藤木博貴と赤石修二。彼らは二人とも、彩子の父親であるらしい。赤石に急かされて着替えを始める藤木。その胸には形の良い、大きなオッパイがある。「とっとと隠せ！」と怒鳴る赤石と、そのやり取りを慣れた様子で見つめる彩子。藤木は、花嫁姿の彩子を見て「お前、こうやって見るとそっくりだなあ……あいつがウェディングドレス着てるみたいで、なんか、おかしいな……」と言いながら椅子から崩れ落ちる。藤木の目に、今までの人生が走馬灯のように蘇る。

藤木と赤石は幼馴染みだった。子どもの頃からオッパイのある藤木は「出来損ない」と言われ、毎日のようにいじめられていたが、中学時代に出会った闇原有太郎という男に憧れるようになる。成績優秀で美しい、完璧な彼は「出来損ない」から最も遠い存在だった。闇原有生徒会長になり、藤木をいじめから救った。そして三人は、同じ大学に進むことになる。

闇原有は学生闘争でもリーダーシップを發揮する。藤木は変わらず闇原を尊敬していたが、赤石は反感を持ち始めていた。しかし、赤石と闇原が一度関係を持っていたことを藤木は知っている。やがて、ある時から闇原の様子がおかしくなる。藤木と赤石が構内に立てこもっていると、闇原は酒瓶を片手に現れ、「おれ、子どもができたんだ」と告白した。闇原有は、男なのに子どもを身籠ってしまったのだ。「おれも出来損ないだったんだ、完璧な人間じゃなかったんだ！」そう言い残して、彼は姿を消した。

数年が経ち、藤木は赤石を喫茶店に呼び出した。「しばらく、娘を預かってほしい」と言って連れてきた少女は、闇原そっくりの彩子だった。「こいつ、闇原のガキじゃないのか」と言う赤石に、藤木は観念して事実を伝える。闇原は尿道から彩子を産み、男性器が粉々に砕け散って死んでしまったのだ。そのことを聞かされた赤石は「わかった、お前がいない間、おれが面倒みてやる」と告げる。その日以来、藤木と赤石は二人で彩子を育てるようになる。彩子は父から生まれ、父と父に育てられた。「普通」の家族を知らずに育った彩子だが、それまでの人生を振り返ると、どこにでもある、ありふれた家族の思い出ばかりが蘇る。

そして彩子は、今日、結婚式を迎えた。しかし、そこに藤木の姿はない。赤石と二人で、バーজনロードを歩く彩子。

「お父さん、お父さん。今まで育ててくれてありがとう」

彩子のスピーチは、花嫁が父たちへ送る感謝の手紙であり、天国へ旅立った藤木に送る別れの言葉でもあった。

舞台上手に、巨大なクロゼット。

その中にはモーニングスーツ、学ランなどの衣装が掛けられている。

舞台下手奥に、白いテーブルクロスが掛けられた丸テーブル。

その上に灰皿と白い手袋がひとつ。丸テーブルの傍に二脚の椅子。

丸テーブルから少し離れたところにも、一脚の椅子がある。その上に、鞆が置いてある。鞆の下敷きになっている、白いネクタイ。

下手側に出入り口。客席の中央に花道。

開場中、劇場内の誘導係が観客に以下のアナウンスを行う。

誘導係

本日は『バーজন・ブルース』にご来場いただき、誠にありがとうございます。携帯電話、時計のアラーム等、音の鳴る電子機器は予め電源からお切りください。また、ご協力お願い申し上げます。……ありがとうございます。それでは開演まで、今しばらくお待ちくださいませ。

この誘導係は、式場係として劇中に登場する。

また、物語の進行と共に俳優によって舞台装置の配置が変えられ、舞台は様々な場所に変化する。

## 結婚式場・控え室（現在）

開演。

誰もいない結婚式場の控え室に、藤木博貴が入って来る。六十〜七十代ぐらいの男。礼服用の黒のズボンを履いているが、シャツは私服のままである。

クロゼットの中の服をかき分けて、なにかを探している様子。

そこへ、モーニングスーツを着た赤石修二が入って来る。六十〜七十代ぐらいの男。

赤石 おい。……まだかよ？

藤木 ……ん？

赤石 いや、もう始まるぞ。

藤木 うん、わかってるんだけどね……

赤石 なに。

藤木 ……ネクタイ知らない？

赤石 ……え？ 無いの？

藤木 ……うん……

赤石 無いことないでしょ、探せよ。ちゃんと、

探した、探した。さっきから探してるよ。

赤石 もっかい。思い出してみ。最初っから。

藤木

……最初に、こう……こっから出しただろ……。それで、ここにまとめて……それからこっちに行くて……（鞆の下敷きになったネクタイを見つけて）あった。ありました。

赤石

……あるじゃない。すぐあったよ。ありましたありました。ありましたよー。

赤石

わかったから。急げ。ハリアアップ。わかってるって。

赤石

なんでおれが逐一お前に指示しなきゃいけないの？

藤木

はいはい、ごめんごめん。

赤石

はー、もう……

藤木

なに。緊張してるの？

赤石

してませんよ。寝不足なの、それ、緊張で寝れなかったんじゃないの？

藤木

違っ！ お前が昨日、変なイビキかいてたせいで、一睡もできなかったの、こっちは。

赤石

えー？ うそだあ、ほんとですよ、でも、おれだって、ほとんど眠れなかったよ？

藤木

今、ちょっと横になりたいぐらいだもん。……休

赤石

……はいはい。……あら？ あらららら。なにになに、

藤木

ああ……どこ置いたっけな。なにを。

赤石

（テーブルの上の手袋を手に取り）ここ！ あるでしょ！ 見えてるでしょ！

藤木

いやいや、それは分かっているんだけど。もう一個……なんで別にした？ なんで分けたの？ ふた

赤石

つ一緒になってたでしょ？

藤木

なんでって言われてもなあ……

赤石

……もう！（立ち上がって手袋を探し始める）（再び着替えを始め）……ちょっと、こっちは見ないでね。

赤石

見ねえよ！

藤木

小学生の女子がプールで使う、体に巻くタオルを鞆

から取り出し、それを体に巻いて服を脱ぐ。タオルにはキティちゃんがプリントされている。

赤石 ……なに、それ？

藤木 これね、彩子が小学校の時使ってたやつ。水泳で。赤石 そうゆうことじゃなくて。つける必要があるかって話。

藤木 だって…見られちゃうじゃない？

赤石 見ねえつつってるだろ！

藤木 いやいや、誰か入ってきちゃうとき、アレでしょ？

赤石 (舌打ち)

•••

赤石 無いぞ、手袋、

藤木 無いことないでしょう。

赤石 ひとに探させといて、その言い草は無いんじゃない？

藤木 でもこれ(タオル)、やっぱ小っちゃいねえ。小っちゃかったんだなあ…あいつ。大きくなったなあ…。

赤石 気持ち悪いな。しみじみすんな、そんなモンで。

藤木 ちょっと泣けてきちゃったよ、おれ。

赤石 早いよ！あとにしてよ。

藤木 まさかなあ、こんな日が来るなんてなあ…。

赤石 早いって。せめてスピーチで泣け。

藤木 ……ああ…スピーチかあ。……あるのかな、そうゆうの？

赤石 まあ……あるんじゃないの、やっぱり。

藤木 お父さん、お母さん、今まで育ててくれてありがとう、ってやつか。

赤石 うちは、お父さん、お父さん、だけだな。

藤木 だけどやっぱり、プロだよ、こうゆう……式場の人ってゆうのは。普通おかしじゃない？うちみたいなのって。でも、顔色ひとつ変えないね、彼らは。まあ、複雑な事情のところもあるだろうからなあ、慣れてるんだな。

赤石 ねえ。その無駄話やめて、とっとと着替えてくれない？

藤木 はいはい、

ウエディングドレスを着て、スマートフォンとタバコの入ったポーチを持った彩子が入ってくる。二十〜三十代ぐらいに見える女。

藤木 おう、

赤石 お前、なにウロウロしてんだよ。

彩子 灰皿、あっち無かったんだもん、

れで。

彩子 そーだねえ。

藤木 ダメダメ！お前はねえ、風情がないよ、父親として。

赤石 ……なによ風情って。

藤木 なーんか、かっこつけちゃってさ。目に浮かぶよ、お前がバージンロード歩く姿が。こう、一見、ママになってるんだけど、情緒とゆうか風情が無いんだよなあ。その点、おれは……渋いぞー。哀愁漂うぞー。

藤木、そう言いながらキティちゃんのタオルを取る。上半身が露わになる。その体には、形の良い、大きなオツパイがある。

赤石、振り向いて、

赤石 おれだってなあ……！（藤木の露わになった胸を見て）……なんで取った！それ！

藤木 え？

赤石 なんで取った、キティちゃん！

藤木 だって彩子がキモいって言うから……

赤石 ビックリするだろ！取るときは取るって言えよ！

藤木 そんな細かいことまで報告しなきゃいけないの……？

赤石 それ着たまま吸うなよ！

彩子 えだって脱げないよ？

赤石 我慢しろ、タバコぐらい、

彩子 えー。

藤木 いいじゃないの、一服ぐらいさせてやっても、

赤石 お前は、黙ってさっさと着替える、

藤木 ……なんか、きついよなあ、今日……。

彩子 (藤木のタオルを見て)……なにそれ、

藤木 これか？懐かしいだろ？

彩子 え。キモい……。

藤木 あっそ、

赤石 おい。グズグズしてたら、もうお前抜きで始めるからな？

え？

藤木 結婚式。お前抜きでやってやるからな。

赤石 いやいやいや…おれがいないと始まらないでしょう。

藤木 う。(彩子に)なあ？

彩子 あー。

赤石 おれがお前の分も、ちゃんとお前とバージンロード歩いてやるから。(彩子に)なあ？ いいもんな、そ

と、言いながら、藤木、椅子に座る。

赤石 座るな、座るな！ ああもう、時間が無いんだよ！

藤木 疲れちゃったんだよ。やっぱり寝てないからかなあ。

赤石 寝てたっつってんだろ！ ガアガア、ガアガア。やかましくて眠れなかったんだぞ！

彩子 うるさい、うるさい、

藤木 (彩子に) なあ？ 今日うるさいよなあ、お父さん。

赤石 ……もう、さっさと隠せ。それ。

藤木 はいはい……

赤石 なののために着けたんだよ……

……

彩子 ……(タバコの煙を吐き出す)

赤石 ……お前も。なんか……もうちょっと、花嫁らしく

できないの？ 一生に一度のことなんだぞ？

彩子 え？

赤石 もうちょっとさあ、物思いにふけてみるだとか、

あるでしょう？ なにお前……平然と……

彩子 いいじゃん別に。色々思い出してるよ？ 今、

赤石 スマホいじりながら？

彩子 いじりながらも別に思い出したりできるから。

赤石 いや、だからね、そうゆうことじゃなくて。姿勢

彩子 ……は？

赤石 見たことあるか？ 花嫁がさあ、タバコ吸って、

それ……なんだ？ ラインか？ ラインとかチェック

しながらさあ。なんかこー、精気のない顔してるとこ。見たことあるか？

彩子 こーゆうもんだって。

赤石 普通、普通な？ こうゆう時の花嫁は、言葉少な

にしてるもんなんだよ。特に、父親とはゴチャゴ

チャ喋らないもんなんだ。控え室で、じっと座っ

て、鏡とか見てるもんなんだよ。そーゆうのが物

思いにふける、ってことなんだ。わかる？

彩子 知らないよ。てか、実物見たことあんの？

赤石 見たことあるとかないとか、そうゆうことを言っ

てるんじゃないんだよ。

彩子 さっきお父さんも、見たことあるかって言ってた

じゃん。

赤石 ほんっとにお前、可愛くないねえ……そんなんだ

からお前は、いつまでも、

彩子 (藤木の方を振り返り) あれ？ ……お父さん？

座ったままの藤木、動かない。

赤石 ……なにしてんだよ。着替えるよ。

……

赤石 ……おい。……寝てんのか？(藤木の体を揺する)

……おい。……おい！？

藤木 ……ああ……大声出すなよ。

赤石 ……びっくりしたあ。死んだかと思ったよ。

藤木 なんでよ。死なないよ。

赤石 急に動かなくなるなよ……

彩子 なに、ちょっと休む？

藤木 いや、いい、いい、

彩子 そ？

藤木 ふふ。……お前、やっぱり、こーやって見るとそっ

くりだなあ。

彩子 え？

藤木 いや、笑っちゃうけど……そっくりなんだよねえ、

あいつに。あいつがウェディングドレス着てるみ

たいで、なんか……おかしいよな……

と、言いながら、藤木、椅子から崩れ落ちていく。

赤石 ……あれ？ ……どした？ おい。……おい。

……ちょっと……え？ 待ってる！ すぐ戻って

くるから！

赤石、走り去る。

その場に立ち尽くしている彩子。

音楽。

客席に式場係が現れ、観客にアナウンスをする。

式場係

本日はご多用の中、ご参会くださいませ誠にあ

りがとうございます。携帯電話、時計のアラーム

等、音の鳴る電子機器は予め電源からお切りくだ

さいますよう、ご協力お願い申し上げます。

……ありがとうございます。それでは皆様、大変

お待たせいたしました。間もなくチャペル後方よ

り、新婦・彩子さんがお父様の赤石修二さまと、

……お父様の藤木博貴さま、お二人のエスコート

で入場いたします。

彩子、そのアナウンスを聞いて、慌てて客席の花道を通っ

て退場する。

式場係

(彩子が出て行ったのを見送って)  
……入場いたします！



……………(彩子が現れないので)  
……入場されないということで、ご準備が整うま  
で、お父様・藤木博貴さまの走馬灯を、ダイジェ  
ストでご覧いただきます。

藤木、目を覚まして、自分の走馬灯を眺めるように、舞台  
上を見回している。

式場係 (藤木に) どうぞ、

式場係、藤木をクローゼットの前に連れて行き、学ランを  
着せて学帽をかぶせる。

式場係も学帽をかぶり、生徒会長(金澤)を演じる。  
これから舞台上で起こることは、全て藤木の走馬灯である。

### 中学校・裏庭(過去)

式場係 悪かったな、こんなところに呼び出して。

藤木 いや……

式場係 藤木。おれはいつも、お前がクラスでいじめられ  
てるのを見てた。クラスメイトに毎日毎日殴られ  
て……そんな日々には耐え続けるお前を、おれは心  
を痛めながら見てたんだ。

藤木 金澤くん……。

式場係 だから藤木。生徒会長としてお前に言う。  
……この学園を辞めてくれ。

藤木 えっ! ど、どうして?

式場係 ……どうして……分かるだろ。君みたいな出  
来損ないは、この学園にふさわしくないんだ。

藤木 ええ?

式場係 エリートが集まるこの学園に、そんなオッパイを  
した奴がいるなんて……生徒会長としても、見過  
ごすわけにはいかないんだ。みんなの総意だよ。

藤木 ちょっと待ってよ、助けてよ、生徒会長でしょ?  
金澤くん……! (と、式場係に縋り付く)

式場係 ……汚い手で触るんじゃねえ!

生徒会長に扮した式場係、藤木を何度も殴り、蹴る。

藤木、その場に倒れる。

式場係 ……このオッパイ野郎!

と、吐き捨てて、式場係いなくなる。

うずくまったままの藤木。

周りを警戒しながら、学ラン姿の赤石が顔を出す。

赤石 ……おい。大丈夫か、

藤木 ああ、うん……なんとか……

赤石 ちょっと、見せてみる、

藤木 いいよ、平気だって、

赤石 いいから。見せてみる。

赤石、藤木の服を脱がせて、傷の具合を見てやる。

赤石 しっかり、毎日毎日……よく我慢できるな……。

藤木 いいんだ、もう慣れたから……

赤石 慣れたっつってもお前……

赤石が藤木の服を脱がせると、形の良いオッパイが現れる。

赤石 ……

赤石、我慢できずに藤木のオッパイを揉みしだく。

藤木 ああ修くん、修くん!

赤石 悪い。あるとつい、な……

藤木 もう何回も見てるでしょ? 我慢してよ。

赤石 悪い悪い。本能だよ。目の前にあったから。

藤木 最近張ってきて痛いんだからさあ……

言うから、

赤石 反抗しろよ、女のカッコなんかしたくないって。

藤木 ……まんざらでもなかったんだ、おれだって。

……だって、おれ……可愛かったでしょう？

……可愛かったんだよ、おれは！

赤石 ……たしかに……お前は可愛かった。ガキの頃の

お前はクラスの女子の誰よりも可愛かった。それが今じゃ……。なんだ！？ なんでこうなった！？

藤木 知らないよ！

赤石 なに食ったらお前……。お前ほんとに中学生か？

藤木 それはお互い様でしょ、

赤石 おれは……いるだろう、ギリギリ。こうゆうのも、

藤木 もういいよ。ほっといてよ。なんでそんなに、お

れに構うんだよ。もういいでしょ？ ホントの女

にモテてんだからさ。

赤石 いいや、おれは、この年にして女ってもんに愛想

が尽きたんだ。あいつらの目当ては、おれのこの

カラダなんだ。学級委員の佐々木も、陸上部の宮

下だってそうだ。あいつらの考えることはセッ

クスだけだ。

藤木 ……いいよなあ、お前は。おれ、こんなんじゃ一

生女とセックスなんかできないよ。やでしょ？

自分よりも巨乳の男とセックスするなんて。自信

なくしちゃうでしょ、こんなに大きくて形のいい

オッパイがあったら…。

赤石 だったら隠せ。ブラでもしとけ。

藤木 え？ 逆効果じゃない？

赤石 うるさい！ もう、好きにしろ、

藤木 ああ…。

赤石 ……で？ どうすんだよ、

赤石 いや、でも結構高いって聞くから…。

藤木 ブラのことじゃない。あいつらのこと。これから

中高六年間、いじめられ続けるって考えてみる？

赤石 いいのか、それで。

藤木 いいんだよ、もう…。

赤石 なに？

藤木 もういいんだって。納得してるから、おれ自身。

赤石 ……そりゃあ、いじめられるでしょう？ こんな

カラダの奴がいたら。いじめるなって方が、どう

かしてるよ。

藤木 諦めるなよ、お前、

赤石 ……あ？

藤木 おれはな、気付いたんだ。

赤石 ……なに？

藤木 いじめてくるあいつらのこと、他の、関係ないっ

て顔してる奴らのこと、おれはじっと見てた。授

業中も、休み時間も。息を潜めてあいつらのこと

を観察してたんだ。それで気付いた。みんな、ど

こかおかしなところがある、ってな。オッパイが

あるおれだけじゃない。二組のマドンナ、中川さ

んの足の指は六本あるし、四組の田山くんは満月

になると女を襲いたくてたまらなくなる。もちろ

ん、お前も、どこかおかしはずなんだ…。

赤石 おい、やめろよ、

藤木 まあまあ、お前のことはいい。……おれは六年か

けて、この学校にいる生徒全員のおかしなところ

を見つけてやる。お前たちも、おれとおなじ出

来損ないだろう、って言ってやるんだ。それがお

れの復讐だ。

赤石 おいおい、なんだそれ、

闇原 (声のみ)……驚いたな。

赤石 ……誰だ？

いつの間にか、高い場所から二人のことを見下ろしていた、

彩子そっくりな男・闇原有太郎。

闇原も学ラン姿である。

闇原 おれと同じことを考えてる奴がいるなんて、驚い

たぜ。

赤石 お前……三組の闇原か？

赤石 やめてくれよ、そんなつまらない名前で呼ぶのは。

闇原 そうだな……ブラック……おれのことは、ブラッ

クと呼んでくれ。(と、降りてくる)

赤石 はあ？ お前、闇原有太郎だろ？ 一昨日、生徒

会に入ったってゆう…。

赤石 嬉しいね、おれのことを知ってくれてるなんて。

闇原 だけどバーミリオン。その名はよしてくれ。次に

呼ぶ時は覚悟しな。おれは君の秘密だって握って

いるんだぜ？

赤石 あ？

闇原 女泣かせのバーミリオン。佐々木さんも宮下さん

も、君のカラダの秘密にゾッココンらしいじゃない

か、

赤石 なんだと……？

藤木 なあ、バーミリオンってなんだ？

闇原 いい質問だウィスタリア。おれたちは今からコー

ドネームで呼び合うんだ。

赤石 ややこしいな。覚えらんないよ、そんなの。

藤木 なあ。闇原有太郎って……お前、有ちゃんじゃな

いか？

闇原 ……えっ？

藤木

そうだ。有ちゃんだ。おれだよ、おれ。分かんないか、ほら……よく幼稚園でお人形ごっこしただろ？ こっち帰ってきてたんだな。……覚えてない？ 有ちゃんよくシヨンベン漏らして泣いてただろ、「泣き虫有ちゃん」って言われてさ、おれよく鼻水拭いてやったじゃない、シット！ その名を呼ぶなウイスタリア。おれはもう、過去の名は捨てたんだ。せめてもうちょっと短くしないか、いいか、烏合の衆。おれは特別な人間なんだ。知っての通りおれは君たちと同じ一年生。だけど一日、委員会の主要メンバーである書記に選ばれた。成績優秀、文武両道、美白美麗。おれは完璧な人間なんだ。

赤石

気に食わねえ奴だな……。

しかしラッキーだったな、ウイスタリア。君は目の付け所がいい。君が辛抱強く彼らを観察し続けたことで、交わることのない我々の人生が、初めて交差したのさ。ちなみに……おれはもう、ほとんどの生徒のおかしなところを、ここ(頭)にインプットしたぜ。

藤木

すげえな、ブラック。

闇原

ああ。しかし、ここで新たな疑問が生まれてしまっ

た。この学校に通う連中すべてに、おかしなところがあるとしたら……どうしておれはここにいる？

ひとつも欠点のない、完璧なおれが、どうしてこの学校にいるのか……わかるか、バーミリオン。

赤石

やめろバーミリオンって言うの、

闇原

恐ろしかったさ。もしかしたら、おれにも自分では気付いていない、とんでもない欠陥があるんじゃないかってな。……だけど違った。おれはある答えにたどり着いたんだ。

赤石

なんなんだよお前は……

闇原

おれがここにいるのは、この学校を支配するためなんだ。

赤石

……あ？

闇原

だって、そうとしか考えられない。ここにいら出来損ないを支配・統率するのがおれの役目。

赤石

……どう考えたってそうだ、違うか？

赤石

バカかお前、

闇原

なんだと？ おいもう一度言ってみろ。

赤石

どんだけバカなこと言ってるか自分で分かんねえのか？ 救いようのないバカだな。

藤木

やめろよ、バーミリオン！

赤石

バーミリオンって言うな！

闇原

……いいだろう。ならば、見てるがいい、一週間も経たないうちに、おれは一年にして生徒会のトップに上り詰めてみせる。そう、この学校の奴らの弱みを握るのは簡単なことなんだ。おれは書記に収まっているような器じゃない。それを分かってやるんだ。まもなく、おれは生徒会長と呼ばれて、この学校を支配する立場になるぜ。

赤石

……もう行こうぜ、藤木。

藤木

えっ。

赤石

時間の無駄だよ。こいつ、ただのバカだ。

藤木

や、でも、

闇原

バーミリオン！ このおれに楯突くとは、いい度胸だ。気に入ったぜ。

赤石

お前、それらしいこと言いたいだけだろ。

闇原

提案だ。お前ら、おれと組まないか？

赤石

は？

闇原

本来なら君たちみたいなの最下層の奴らに、こんなチャンスは巡ってこない。おれにつけば、お前たちにも生徒会でいいポストを与えてやるぞ。

赤石

……おれは君たちを救う、ヒーローなんだ。

闇原

……

赤石

考えてみる。生徒会に入れば、女たちの見る目が

闇原

変わるぞ。お前ら、尊敬されるってことが、どれ

闇原

例え……ウイスタリアが奴を呼び出し、学園を

赤石

辞めたくないと言えば、奴の頭に血がのぼるはず

さ。

赤石 ふ、藤木を囮にするってのか？！

闇原 (どこからかカメラを取り出し) なあに、現場を押さえればすぐに助けてやるさ。……どうだ、いい話だろう？

藤木 ……

闇原 写真がバラ撒かれれば、彼の評判はガタ落ち。會長なんか続けていられなくなる。そして空白となった會長の座につくのは、このおれだ。どうだ、手伝ってくれないか？

赤石 ……ううむ。

闇原 それだけで君たちは、その鬱屈とした日常から抜け出せるんだ。……いいか。僕は、君たちを救う、ヒーローだ。

藤木、顔を上げ、闇原に向かって大きく頷く。

音楽。

ある日の放課後、式場係を呼び出す藤木。

赤石と闇原は物陰から見ている。

式場係が現れ、藤木と話をするうちに、苛立つてくる。

式場係が藤木に手を上げた瞬間、闇原がカメラのシャッターを切る。

式場係 な、き、貴様……！

式場係、闇原に殴りかかるが、闇原はヒラリとかわして、式場係をねじ伏せる。

生徒会長、学校中の非難を浴びながら退場する。

藤木

(客席に) 宣言通り、ブラックは生徒会の長に上りつめ、中高六年間、生徒会長を務め上げました。そしてブラックといえるだけで、僕らにも生徒たちから羨望の眼差しが向けられるようになったのです。彼は、本当に僕のヒーローになりました。女の子として育てられたせいとか、僕はずっと、男らしいヒーローに憧れていました。七色仮面、エイトマン。憧れていたヒーローが目の前に現れたのです。

### 高校・放送室 (過去)

赤石 しっ！ 静かにしろ！ うるせえよ。

藤木 ああ、ごめん！

闇原 大丈夫、誰もいやしない。

赤石 しっかりし、いいのかよ？ 生徒会長がこんなところに忍び込んで。

闇原 なに、学校生活もう終わりだ。最後に思い出す

赤石 ……なあブラック？ この鍵が無きゃあ、放送室に忍び込むなんてことは不可能だったんだぜ。そんなとこ、分かっていてくれよ？

闇原 ああ、さすがバミリオンだ。(ポケットからなにかを取り出し) 取っておけ。

赤石 なんだ？

闇原 夕食のAセットの食券だ。

赤石 ……ちっ。しけてんなあ。……あのなあ、おれが、これを手に入れるためにどれだけ苦労したか、わかってるか？

闇原 わかってるさ。放送部顧問・松下直美。あの女からだろう？

赤石 知ってやがったか。

闇原 ああ。週二で密会を重ねていたことも知っているさ。よく我慢したな。あの女と一晩過ごすのは、なかなか勇気があるぜ。

赤石 そこまで分かっているんなら、もう少し報酬を弾んでくれてもいいんじゃないか？

闇原 そうだな、じゃあ……十枚綴りでどうだ？

赤石 ……よしとしよう！

闇原 ……なあ、ウイスタリア、バミリオン。君たち

赤石 ……は、とても寂しい。

闇原 ……は、とても寂しい。

赤石 ……は、とても寂しい。

闇原 ……は、とても寂しい。

赤石 ……は、とても寂しい。

藤木

……ああ、おれもさ……！

赤石

なんだよ改まって。

闇原

……おれは大学に行こうと思う。

藤木

え？

闇原

二本松大学医学部。おれはそこに行く。

藤木

医学部？

闇原

ああ。……たしかめたいことがあるんだ。

闇原、去る。

藤木、赤石、学ランを脱ぎ捨てる。

### 大学構内（過去）

バリエードが張られた大学構内に立てこもっている赤石と藤木。

ヘルメットをかぶって、ゲバ棒を持っている藤木。

その傍で煙草を吸っている、赤石。

赤石

……うるさいなあ、お前は。

グチグチ、グチグチ……。

藤木

聞いてくれ。おれはね、まず事実確認できればそれでいいの。昨日お前がどこにいたかって、それだけ、もっかい聞かせてくれよ。

裏切りたくないんだよ。ホントのこと言ってくれよ……

赤石

なに。おれよりもブラックを信じるってこと？ お前はなんかあったらブラックが、ブラックが、って言うけどな。これまで、ずーっとお前の面倒見てやったのは誰だ？ ブラックか？ おれか？

藤木

バーミリオンには感謝してるよ……。

赤石

どーすんだよ。ブラックのこと追っかけて大学まで入っちゃって。哲学科なんか出てどーすんだ。

藤木

お前だって哲学科だろ。

赤石

……あのねえ。おれは、お前のこと心配して付き合ってるの。おれ、人生の半分以上はお前の面倒見てやってるよ？ わかってる？ ……それをお前、昨日どこにいたかの、サボってたんじゃないかだの、グチグチ、グチグチ……

藤木

……だってお前は、デモの時も、十メートル歩いただけで飽きちゃってさ、全然知らない奴にヘルメットと角材押し付けて、黒乳首に行っただろう。

赤石

あー、もういい。この話おしまい、

藤木

え？

赤石

終わり終わり、うんざりなんだよ、もう、

藤木

バーミリオン、お前、本当にやる気あんのか？

赤石

……ああ？

赤石

だからあ、ずっと、ここにいたって言うてるでしょ？

藤木

本当か？ 本当はずっと、ここにいたか？

赤石

こんな大事な時に、サボってどっか行くわけないでしょう？

藤木

本当かよ……。

赤石

おう。……ちゃーんとここで、バリエードの警護、してましたよ？

藤木

なら、ブラックが言ってるのが嘘になるぞ。

赤石

じゃ、そうなんじゃないか？

藤木

そんな嘘ついてどうするんだよ。

赤石

なら他人の空似だよ！ いくらでもいるでしょ、おれみたいな学生なんか。

藤木

黒乳首に行く奴なんか、そういうないだろう、

赤石

そうかあ？ いいぞお、スナック・黒乳首。

藤木

なにがいいんだよ。あんなバアさんばっかのところ行って、なにが楽しいんだ？

赤石

わかってねえなあ。あの、枯れ木の窪みみたいな目ん玉にね……こう、忘れかけてた女の火が灯る瞬間があるんだよ。……ああ……たまねえ。

藤木

お前、一周回っておかしなところ行っちゃってないか？

赤石

ほっとけ、

藤木

なあバーミリオン、頼むよ。おれブラックのこと

藤木

この闘いはねえ、そんな、煙草吸ってお菓子食いながら、ダラダラやるようなことじゃないの。

赤石

大げさだねえ。センセイの数増やせとか、授業料下げるとか、しょうもないことしか主張してないじゃないの、

藤木

しょうもないことじゃない！

赤石

こんなバリエード張って、大学入れなくしちゃってさあ。サバエちゃんも言ってたぞ昨日、

藤木

え？

赤石

せっかく大学入ったのに、全然授業できなくなっで、可哀想ね、って。ほとんどの学生にとっちゃ、迷惑な話よね、って。

藤木

……おい、サバエちゃんって誰だよ。

赤石

黒乳首一番のベテラン、サバエちゃんだよ。御年六十六歳。

藤木

やっぱり行ったんじゃないか、黒乳首に！

赤石

……。

赤石

いい加減にしてくれよ。……あと六十六歳は女じゃねえよ。

藤木

……え？

赤石

あいつがおれのこと見たってことは、あいつもここにいなかった、ってことになる。

藤木

それは……

赤石

そうじゃないか、だろ？

藤木

いや、まあ、あいつにもそうゆう時だってあるだろう……。

赤石

ああ？

藤木

少しは休ませてやってもいいだろ。今まで、ずっと頑張ってきたんだから……。

赤石

なんでブラックには、そんなに甘いんだよ。

藤木

あいつはお前とは違うんだよ。

赤石

気持ちわりい。ブラック、ブラックって……お前ホモか。

藤木

……ふん。……ひとのこと言えんのか……。

赤石

……あ？

藤木

知ってたんだぞ。……先週、お前とブラックがどこに行ったか。……お前、ババアだけじゃなくて男もいけるんだな。

赤石

はあ？ ……なに言ってんだ、お前。

藤木

お前、円山町のホテルにブラックと行っただろ？

赤石

はっ、なんだそれ。冗談きついで、藤木。

藤木

おれは、お前の性癖にとやかく言うつもりはない

藤木

れよ。

藤木

ああ、いいだろう、

藤木

ちょっと待ってくれよブラック！ なにしてるんだよ。お前……こんな時に酒なんか飲んでる場合じゃないだろ？ どうしちやっただよ……。

藤木

なんだよ？ おれは、嫌いじゃないぜ、こうゆうの。やっとなコイツと腹割って話せるような気がする。

藤木

ブラック、どうした？ 何があった？

藤木

いいんだ、もう。なにもかも。すべてが、どうでも良くなったんだ。

藤木

ブラック……？

藤木

……なあ、覚えてるか、中学の時、初めておれたちが話をした日を。

藤木

え？

藤木

言っただろう？ あの日。学校にいるすべての生徒たちにおかしなところがあるって。……そして、おれにもなにか、自分では気づいていない恐ろしい欠陥があるんじゃないか、って。

藤木

ああ……覚えてるけど……

藤木

……やっとな分かったんだよ、おれのおかしなところが。くくく、笑っちゃうなあ！ 本当が一番おかしなのは、おれだったんだよ！ はははは、

藤木

よ。だけど、こんな大事な時に、ブラックを巻き込まないでくれよ。あいつは、この闘いに賭けるんだ。勝つために、全てを注いでるんだよ。邪魔しないでくれよ。

赤石

言っとくけどねえ。こんなことやっただって、無駄なんだよ。機動隊に突入されたら、こんなもん、すぐ終わりだよ？ いっくらバリケード張ったって、あいつらジュラルミンの楯なんか持つてるからね、一発だよ。一発。

藤木

……大学だって、機動隊は入れたがらないよ。ブラックもそう言ってた……

藤木

やあ、諸君。やってるかい、お？

藤木

……ブラック……？

藤木

毎日毎日、ご苦労様です。最後の最後まで、闘うぞー！ ……くくく、男の闘い……美しいねえ。かっこいいよ、お前ら。

藤木

ブラック、お前、飲んでるのか？

藤木

ふふ、少しばかりな。

藤木

なんだよ、珍しいじゃねえか。おい、おれにもく

藤木

待てよ。お前は、欠点のない、完璧なヒーローなんだろ？ だから学校の奴らを統率してたんだろ？

藤木

いいや、違う。……あつたんだ、やはり、おれにも。正常な人間とは違う、おかしなところがな……

藤木

え……？

藤木

……ふふふ。もういいんだ。なにもかも。この闘いも、おれの人生も、すべてがどうだっていい。

藤木

……なあ、藤木。赤石。……歌わないか。

藤木

突如、戸川純の『バージン・ブルース』が流れる。

藤木

クローゼットからマイクを取り出し、歌う。

藤木

え？

藤木

(客席の方を見て) ……おい、なんだ、あれ？

藤木

こっちに集まってくる……あれは……機動隊じゃないのか？

藤木

まさか。そんな……

藤木

まずいぞ、ほんとに突入されちゃう！

藤木

え？

赤石と藤木、機動隊を構内に入れないようにバリケードを  
押さえる。

闇原 (歌うのを止めて) ……ウイスタリア、バーミリ

オン……やっと分かったんだ、おれのおかしなと  
ころが。

藤木 は？

闇原 おれ……子どもが出来たんだ。

赤石 なんだと？

藤木 そののどこがおかしなところなんだよ、

闇原 ……このおれの腹の中に子どもがいるのさ。傑作

だ。男が妊娠するなんて。やっばり、おれも出来  
損ないだったんだ！ 正常な人間じゃなかったん  
だ！

藤木 ブラック……！

一瞬、藤木の走馬灯が途切れ、現在に戻る。

さつきまで闇原が立っていた場所に、彩子がいる。

彩子 ……お父さーん？

藤木 ああ……彩子か？

彩子 ……お父さん、なにしてんの？

藤木 はいませんでした。

赤石 ……え、え？

運動に参加した何人かは逮捕されましたが、おれ  
たち三人はどうかパクられずに済みました。た  
だ、ブラックは二度と大学に戻っては来ませんで  
した。……おれは、あの日のブラックが、これま  
で見た彼の中で一番人間らしいような、そんな気  
がするのです。

赤石 ちょ、ちょっと。ストップ。

藤木 なによ。

赤石 これって、おれの走馬灯だろ？

藤木 ああ、そうだけど？

赤石 なんてお前が喋ってるんだよ。取るなよ、おれの……

藤木 モノローグ。

赤石 なんだよ、いいじゃねえか。おれだって喋りたい  
んだよ。

藤木 えー。おかしくないかあ？

赤石 うるせえ。ここからはおれの番だ。(客席に) ……

おれたちが大学を卒業、というか、追い出された  
年は、高度経済成長の真っ只中。贅沢を言わなけ  
れば就職先はいくらでもありました。……おれは、  
小さな材木屋に就職し、営業先の經理の女の子を  
好きになりました。美人でもなく、ブスでもなく……

藤木 ああ……なにしてるんだっけなあ、

彩子 結婚式、もう始まっちゃうよ？

藤木 そうだそうだ、結婚式だったな。すっかり忘れて  
たよ。

彩子 えー、

藤木 ごめんごめん、

彩子 ……そろそろ起きてよ。バージンロード、歩いて  
くれるんでしょ？

藤木 ああ、そうだなあ……でも、もう起きらんないか  
もなあ。

彩子 え？

藤木 だってこれ、走馬灯見ちゃってるんだもんなあ。

赤石 おい、藤木！ 危ないぞ！

彩子 (客席にマイクで) 本日は、私たちのためにたく  
さんの方にお集まりいただき、ありがとうございます  
です。お父さん、お父さん。これまで、育ててく  
れてありがとう。お嫁に行っても、私はお父さん  
たちの娘です。

彩子、去る。

音楽がゆつくりと消えていく。

赤石 (客席に) ……あれ以来、ブラックの姿を見た者

唯一の取り柄と言えばオッパイが大きいことぐら  
いの、地味な女です。……彼女と結婚した翌年、  
突然、藤木から「会わないか」と電話が掛かって  
きたのです。

### 喫茶店 (過去)

赤石のモノローグの間、藤木と赤石はスーツに着替える。

藤木は喫茶店の椅子に座って、赤石が来るのを待っている。

赤石、店に入ってくる。

藤木 おう、こっちこっち。

赤石 おお……うわあ、お前変わんないねえ……。

藤木 そうか？ いやー、悪いね、急に。

赤石 や、まあ、いいんだけどさ……。何なんだよ、い  
きなり？

藤木 ふふ。そんなカッコしてると、お前もちょっとは  
マトモに見えるな。

赤石 うるせえ。ずっとマトモだよ、おれは。

藤木 ……アイスコヒーにしようかなあ……。

赤石 で？ ……なんだ、話ってるのは。

藤木 まあ、その前にバーミリオンも注文しろよ。

赤石 こんなところでバーミリオンって言うな。

藤木 ああ、ごめん。……でもほんと、久しぶりだなあ。

赤石 すっかり社会人になっちゃって……。なんか、そこは景気いいみたいじゃない、  
それでもないぜ。材木なんか今、売れないからね。資材置き場潰して、貸しビル業でも始めようか、って話になってるよ。

藤木 ああ……大変なんだな、色々。

赤石 (店の奥に) すいませーん。アイスコーヒーふたつ。

店の奥から、式場係扮する店員の声。

式場係 (声のみ) はい。

藤木 ……あー……最近、誰かと連絡取ったりしてるのか？ 大学の奴らとかさ、

赤石 いや、全然。まあ結婚したとか子どもが生まれたとかは、よく聞くけどね。忙しいでしょう、みんな。

藤木 そうみたいだねえ。

赤石 ブラックはあれからどこ行ったか分かんなくなっちゃったし……。お前、あいつのこと、なんか聞いてるか？

藤木 ……あー……いや？

がにな。

藤木 いや、まあ、おれのことはいいいよ……。

赤石 あ？

藤木 まあ、ちょっと、今からする話にも関係あるっていうかさ……。

赤石 ……あっそう。なら、そろそろ、要件、聞かせてくれよ。先に言っとくけど、金は無いぜ？ お姉ちゃんにいっぱい使っちゃってるから。

藤木 金のことじゃないよ……ちょっと、外に待たせてるから……待ってて、(と立ち上がる)

赤石 え？

藤木 彩子、おいで。(と、出口の方へ呼びかける)

幼稚園の帽子などをかぶった、幼い彩子が現れる。

赤石 な……？！

藤木 ほら彩子、「こんにちは」は？

彩子 ……。

藤木 ごめんね、おれに似て、ちょっとシャイなの。話ってるのは、この子のことなだけだよ。……なんていうか、その……何日か、この子、預かってくれないか？

赤石 ちょ、ちょっと待て……どういうことだ？

赤石 赤ん坊はさすがに墮ろしたんだろ？ まあ、男のケツから生まれた赤ん坊なんか、どんな人生送るか目に見えてるもんなあ。

式場係がコーヒーを運んでくる。

式場係 お待たせいたしました。

藤木 ありがとう、

式場係 ……

式場係、藤木の顔をじつと見る。

藤木 ……何か？

式場係 ……いえ、ごゆっくりどうぞ。

式場係 慌てて舞台奥のテーブルを拭くなどの作業を始める。

赤石 ……で？ お前は今どうなんだ？ ……相変わらず、まだ新品なわけ？

藤木 え？

赤石 女と、まだ一回もヤッてないのか？ ……さすがにお店のお姉ちゃんぐらいは、いったか？ さす

藤木 いや、恥ずかしい話だけど、女房に逃げられちゃって。困ってるんだよ。

赤石 によ……！？

藤木 いつもはね、隣近所に預けたりしてるんだけど。……どうしても頼める人がいなくてさあ。

赤石 いや、待て、女房つても気になるけど……このガキは何だ？

藤木 だから……おれの娘だよ。

赤石 はああ！？ 嘘つけよ！

藤木 いや、ホントだって。

赤石 お前がマトモに嫁さん貰ったり、ガキ作ったりできるわけないだろ！ そんなオッパイで！

藤木 ひどいな、お前……。

赤石 いや、待って……待ってくれ。ちょっと確認したいことが山ほどある！

藤木 うん？

赤石 こいつ、こいつの顔……どう見たって、ブラックそのものだ！ いくらなんでも、そっくりだ！

藤木 ……そおかなー？

赤石 とぼけんな！ こいつ、あん時ブラックが孕んだガキじゃねえのか。

藤木 いやいや、まさか。

赤石 なんでお前が育ててるんだ？ お前、まさかブラッ



クと……！！

藤木 違うよ！ おれは……何もしてない……。

赤石 おれ「は」って言うな！ ……おれだって、なんにもなかったんだから……。

藤木 なあ、頼むよ、二、三日でいいんだ。預かってくれよ。

赤石 無理に決まってるだろ！ 嫁さんに何て言えばいいんだ……！！

藤木 友達の子ども、預かったって言えばいいじゃないか。普通のことだろ？ なに、うろたえてるんだよ……。

赤石 うろたえてねえよ！

彩子 ……ねえ、やっぱり、いいよ。ウイスタリア。

藤木 うん？

彩子 わたし、お留守番ぐらい、一人でできるよ。

藤木 いや……でもなあ……。出張だから、おれ二、三日、いなくなっちゃうんだよ？

赤石 待て。今、ウイスタリアって言ったか？

彩子 だって、バーミリアン、なんか迷惑そうにしてるよ。

赤石 やめろ、その面でバーミリアンって呼ぶの……！！ 声から何までそっくりじゃねえか……。

彩子 ご飯だって自分でどうにかできるし、戸締りちゃん

藤木 お前……！！

赤石 目え覚ませよ。こいつ育てたって、お前の人生が救われることなんか無いんだよ……。こんなガキ、ブラックに突っ返してやれ！

・

藤木 ……死んだよ。ブラックは、

赤石 ……なに？

藤木 ……お前の言う通り……彩子は、ブラックが産んだ子だ。ただ、ケツから産まれたんじゃない。この子は……前から産まれたんだ。

赤石 なんだと？

藤木 壮絶な出産だったよ……後にも先にも見たことがない、あんな形に膨れ上がった男のアレは……。赤ん坊とはいえ、人間一人、あの穴を通して出てくるんだからな。出産の痛みに男が耐えられないってのが、あれでよく分かったよ……。

赤石 ま、待て、お前……立ち会ったのか！？

藤木 ああ。大学の付属病院にお願いしてな、極秘で入院してたんだ。おれもブラックも、覚悟はしてたよ。相当危険な出産になる、ってな。

赤石 ……。

藤木 陣痛が始まってから、一週間……やつのことで彩子が産まれたよ。……だけど、ブラックのペニ

んとするから大丈夫だよ。

藤木 彩子、お前が賢いのは分かってるよ。だけど、お前まだ五才なんだよ？ 五才の子ってのは、普通、二、三日も一人暮らしなんかできないんだよ。

彩子 彩子はできるよ。……彩子、欠点とか無い完璧な五才だから。

赤石 ブラックと同じようなこと言ってるじゃないか……！！ うるさいなあ。大声出すなよ、こんなところで。

赤石 大声出させてんのはお前らだ！ ……ああ、ちょっと待ってくれ……まさか、お前がここまでイカれてるとは思わなかったよ。

藤木 なんだよ、それ……。

赤石 いいか、どうゆうつもりか知らねえけどなあ、こんなガキ育てたって、こいつ、どうしようもねえ

藤木 人生送るに決まってるだろ。

赤石 なに？

藤木 ケツから生まれて、オッパイのあるお前に育てられて、マトモに育つわけないだろう……！！ 出張って言ってたけど、お前、何の仕事してるんだ？

赤石 ……どうせマトモな仕事になんか就いてねえんだろ？ カッコつけてんじゃねえよ。お前は出来損ないなんだ、そして、ブラックもおんなじように出来損ないだったんだ、いい加減、理解しろ！

スは……想像を絶する大きさに膨れ上がって、先っぽからこの子が飛び出すと同時に、粉々に砕け散った……。結局、出血が酷くて、ブラックは助からなかったんだ。

赤石 ……くそ……なんで、帝王切開にしなかった……！！

藤木 ……でも、あいつ、カッコ良かったぜ。死に際に、おれに言ったんだ。「……悲しむことはない。死

なんてものは、しばしの別れだ。なにも恐れることはない」ってな。……あいつは、まさしくヒー

赤石 ローだったよ、最後まで。そうか。……でも、いいのか。こいつの前で、そんな話……

藤木 いや、ショックを受けるだろうから隠しようと思っただけだね、彩子、全部覚えてるって言うからさ。

赤石 え？

彩子 当たり前だよ。彩子、赤ん坊の時から特別な子どもだったから。

藤木 ま……そうゆうことだ。……ブラックは、もうい

赤石 ない。あいつの最期を見届けた時に、決めたんだ。おれが代わりに、この子の父親になるうってな。

藤木 ……。

赤石 ……悪いな、こんな話、するつもりなかったんだ

けど。……ま、他、あたってみるよ。預かってくれそうなの。……忙しいのに、すまなかったな、……え……

赤石  
藤木  
行こう、彩子、うん、

藤木  
（式場係に）すみません、お会計。

藤木と彩子、立ち上がる。

式場係 ……久しぶりだなあ、藤木。

藤木 え？

式場係 覚えてないか。……おれは、よく覚えてるぜ？ お前たちのお陰で、おれは生徒会長の座を奪われたんだからな。

赤石 あ！ てめえ、中学ん時のいけすかねえ生徒会長！

藤木 あ……。

式場係 聞いたぜ？ お前、相変わらずらしいじゃねえか。どこ行ってもそのオッパイのせいでロクに仕事も続かねえって。そりゃそうだよなあ！ お前みたいな出来損ないの化物、好きで雇ってくれるよ。うなとこ、ねえもんなあ！

藤木 どうしてそれを……。

式場係 こーゆう店やってると、入ってくんだよ、そういう

う噂が。……だけど、知らなかったぜ。出来損ないが出来損ないのガキ抱えて、みじめたらしく生き恥さらしてるなんてな。

赤石 てめえ、ガキの前で言うことじゃねえだろ！

式場係 お前は……赤石だったか？ やめとけ、こんな出来損ないに付き合ってたって、時間の無駄だろ。お前も後悔してるんじゃないのか？ こんなオッパイ野郎とつるんだばかりに、どうせクソみたいなしょうもない人生送ってるんだろ？

赤石、式場係に殴りかかる。

藤木、それを止めに入る。

赤石 藤木！ 止めるな！ こいつ、一発殴らせろ！

藤木 いいんだ、バーミリオン、おれが……！

式場係 出来損ないのくせに！ お前らがおれの人生、めちゃくちゃにしがった……！

彩子、式場係にツカツカと近寄って、思いつきピンタを喰らわせる。

式場係 ……。

藤木 藤木 彩子……

藤木、去る。

### 藤木と彩子の家（過去）

白いハンカチで汗を拭いている彩子と、椅子に座って彩子の様子を見ている赤石。

藤木 ……すまなかったな、バーミリオン。

赤石 ああ……いや……

藤木 なんか、迷惑かけちゃったな……悪かったよ。

……行こう、彩子、

……待て！ ストップ！

藤木 え？

赤石 ……いい。……わかった。わかったよ……お前がいねえ間、そいつの面倒、見てやる……。

藤木 ……いいのか？

赤石 ああ。……でも、うちに預かるってのはダメだ。

……その、嫁さんに色々疑われちゃうからな。

藤木 だったら……？

赤石 仕事の帰りに、お前んち寄って、飯つくったりしてやるよ。どうだ？ 何なら、そいつが寝るまで、ちゃんと見てやる。いいだろ、それで。

藤木 ああ。

う噂が。……だけど、知らなかったぜ。出来損ないが出来損ないのガキ抱えて、みじめたらしく生き恥さらしてるなんてな。

赤石 てめえ、ガキの前で言うことじゃねえだろ！

式場係 お前は……赤石だったか？ やめとけ、こんな出来損ないに付き合ってたって、時間の無駄だろ。お前も後悔してるんじゃないのか？ こんなオッパイ野郎とつるんだばかりに、どうせクソみたいなしょうもない人生送ってるんだろ？

赤石、式場係に殴りかかる。

藤木、それを止めに入る。

赤石 藤木！ 止めるな！ こいつ、一発殴らせろ！

藤木 いいんだ、バーミリオン、おれが……！

式場係 出来損ないのくせに！ お前らがおれの人生、めちゃくちゃにしがった……！

彩子、式場係にツカツカと近寄って、思いつきピンタを喰らわせる。

式場係 ……。

藤木 藤木 彩子……

藤木、去る。

### 藤木と彩子の家（過去）

白いハンカチで汗を拭いている彩子と、椅子に座って彩子の様子を見ている赤石。

彩子 ……ねえ、バーミリオン。

赤石 なんだよ。

彩子 そろそろ、お家帰る時間じゃないの。

赤石 そうだけど……お前が眠くなるの待ってんだよ。さっさと布団入れ。

彩子 うーん……じゃあ、なんかお話し、してよ。

赤石 お？ お前も案外、子どもらしいところ、あるじゃないの。……何だ、何がいい？ 桃太郎か？ か

ちかちか山か？

彩子 うーん。

赤石 なんでもいいぞ、リクエストして。

彩子 じゃあ……バーミリオン、愛についてどう思う？

赤石 は？

彩子 奥さんのこと。ちゃんと愛してる？

赤石 ……お話して……それ……？

彩子 うん。

赤石 ……どうでもいいだろ、そんなこと。  
彩子 どうして？ 大事なことでしょ？ 愛し合っ  
赤石 ……うるせえ。とっとと寝ろ。  
彩子 え。  
赤石 ぼーっとした顔しやがって。眠いんだっ  
彩子 さっさと寝やがれ、  
赤石 眠くないもん、別に。  
彩子 嘘つけ。  
赤石 ……え、じゃあさあ、まだ出来るの？  
彩子 ……なにが。  
赤石 セックス。  
彩子 ……はあ？  
赤石 まだセックスできるの？  
彩子 当たり前だろ！ つうか、セックスとか言  
赤石 ガキのくせに。現役だ現役。三十代だぞ、まだ。  
彩子 ……（股間に触ろうとする）  
赤石 バカ！ なにしてる！  
彩子 確認。  
赤石 触るなバカ！  
彩子 だって、もう、すごい長さになってる  
赤石 ……どうしてそれを……？  
彩子 ウィスタリアから聞いたよ。

彩子 ……どうでもいいだろ、そんなこと。  
彩子 どうして？ 大事なことでしょ？ 愛し合っ  
赤石 ……うるせえ。とっとと寝ろ。  
彩子 え。  
赤石 ぼーっとした顔しやがって。眠いんだっ  
彩子 さっさと寝やがれ、  
赤石 眠くないもん、別に。  
彩子 嘘つけ。  
赤石 ……え、じゃあさあ、まだ出来るの？  
彩子 ……なにが。  
赤石 セックス。  
彩子 ……はあ？  
赤石 まだセックスできるの？  
彩子 当たり前だろ！ つうか、セックスとか言  
赤石 ガキのくせに。現役だ現役。三十代だぞ、まだ。  
彩子 ……（股間に触ろうとする）  
赤石 バカ！ なにしてる！  
彩子 確認。  
赤石 触るなバカ！  
彩子 だって、もう、すごい長さになってる  
赤石 ……どうしてそれを……？  
彩子 ウィスタリアから聞いたよ。

赤石 バカな。あいつは、知らないはずだ……この  
彩子 とは…。  
赤石 ううん。中学の時から知ってたって。……生徒全  
彩子 員のおかしなところ、探してたんでしょ？  
赤石 まさか。いや……しかし…。  
彩子 でも、そうなんですよ？  
赤石 ……そうさ。……きっと、世界最長だぜ、おれの  
赤石 チンコは。今や、殺人的な長さだぜ。  
彩子 一年に十センチは成長してる。しかし、あいつ、  
赤石 知ってたとはな……。おれは立ちションなんか、  
赤石 したことなかったし、水泳の授業は毎回バックレ  
赤石 てたんだが…。  
彩子 それ……どうなってるの……？  
赤石 右足に、こう、ぐるぐる巻きつけてんだよ。  
赤石 ええ。気持ち悪い。  
彩子 うるせえ。……まあ、女どもは喜ぶさ。でも、こっ  
赤石 ちは体力使うんだ。びったんびったんするからな。  
彩子 大変なんだねえ…。  
赤石 ふん。藤木のこと言える立場じゃねえ。鏡を見る  
赤石 度に思うんだ、おれも出来損ないの化けモンじゃ  
彩子 ねえか、って。最近じゃあ、これに群がってる  
赤石 嫁さんや女たちも、化けモンに見えてくる…。  
赤石 だから、いいんだ。愛なんか。化けモンは化けモ  
赤石 ンらしく、人目につかないとこで、孤独に生きて  
赤石 かなきゃいけないんだよ。  
彩子 ……ねえ。じゃあ、彩子、バミリオンの子ども  
赤石 になってあげてもいいよ。  
彩子 ……はあ？  
赤石 ブラックは、二人のヒーローだったんでしょ？  
彩子 だったら彩子、二人のヒロインになってあげるよ。  
赤石 彩子、ブラックの代わりにならないと……代わり  
赤石 に生まれてきたんだから…。  
赤石 なに言ってるんだ、お前？  
赤石 ……だめ？ バミリオンと、ウィスタリアと、  
赤石 ブラック。三人が、彩子のお父さんなの。  
赤石 お前なにを突然……なあ、なんか顔赤くねえか？  
赤石 お前。  
赤石 ……え？  
赤石 （彩子の額を触って）おい。……おい、おい、お  
赤石 い…。  
赤石 うん…。  
赤石 ……マジかよ……（どこかへ行こうとする）  
赤石 なに、どこ行くの？  
赤石 救急車……いや、タクシーでいいか。ちょっと電  
赤石 話借りるぞ、  
赤石 え？

赤石 バカな。あいつは、知らないはずだ……この  
彩子 とは…。  
赤石 ううん。中学の時から知ってたって。……生徒全  
彩子 員のおかしなところ、探してたんでしょ？  
赤石 まさか。いや……しかし…。  
彩子 でも、そうなんですよ？  
赤石 ……そうさ。……きっと、世界最長だぜ、おれの  
赤石 チンコは。今や、殺人的な長さだぜ。  
彩子 一年に十センチは成長してる。しかし、あいつ、  
赤石 知ってたとはな……。おれは立ちションなんか、  
赤石 したことなかったし、水泳の授業は毎回バックレ  
赤石 てたんだが…。  
彩子 それ……どうなってるの……？  
赤石 右足に、こう、ぐるぐる巻きつけてんだよ。  
赤石 ええ。気持ち悪い。  
彩子 うるせえ。……まあ、女どもは喜ぶさ。でも、こっ  
赤石 ちは体力使うんだ。びったんびったんするからな。  
彩子 大変なんだねえ…。  
赤石 ふん。藤木のこと言える立場じゃねえ。鏡を見る  
赤石 度に思うんだ、おれも出来損ないの化けモンじゃ  
彩子 ねえか、って。最近じゃあ、これに群がってる  
赤石 嫁さんや女たちも、化けモンに見えてくる…。  
赤石 だから、いいんだ。愛なんか。化けモンは化けモ  
赤石 ンらしく、人目につかないとこで、孤独に生きて  
赤石 かなきゃいけないんだよ。  
彩子 ……ねえ。じゃあ、彩子、バミリオンの子ども  
赤石 になってあげてもいいよ。  
彩子 ……はあ？  
赤石 あんまり好きじゃないから。  
赤石 はあ？  
赤石 ……だって、病院って、ひとが死んじゃうところ  
赤石 でしょ。  
赤石 ……違うよ……病院は、ちゃんと病気を治して  
赤石 れるところだ。  
赤石 いい。  
赤石 ……バミリオンがいてくれたら、大丈夫…。  
赤石 （客席に）彩子は、一週間、高熱を出し、その間  
赤石 おれは付きっ切りで看病しました。会社を休み、  
赤石 家にも帰らず、彩子の額の汗を拭いてやっ  
赤石 ……これまで付き合った、どの女にも抱いたこ  
赤石 との無かった感情が込み上げてくるような気が  
赤石 しました。……できることなら、代わってやりたい。  
赤石 ……なんて、どうしてそんなことを思ったのか。  
赤石 自分でも、よくわかりません。  
赤石 （客席に）やっこのことで熱が引くと、私は甘え  
赤石 ることを覚えてしまったのか、それとも、高熱で

脳細胞が死んでしまったのか……段々と普通の子  
どもらしくなっていました。

赤石 おいおい、お前も喋っちゃうの？

彩子 うん。……ダメ？

赤石 いや、これ藤木の走馬灯だから……お前まで入っ  
てきちゃうと、ややこしいことにならない？

彩子 だって長いんだもん。ちゃっちゃと済ませようよ。

藤木、お洒落な私服を着て現れる。

藤木 いや、ちゃっちゃと済ますなよ、おれの走馬灯。

赤石 (藤木の服を見て) お？ なんだよ、似合ってる  
じゃない、

彩子 (客席に) 普通の子どもになってしまった私は、  
それでもすくすくと育っていきました。

お父さんから生まれて、お父さんとお父さんに育  
てられて……。全然普通の家族じゃなかったけど、  
思い出すのは、どこにでもあるような、ありふれ  
た家族の思い出ばかりです。

ギターを抱えた式場係(黒のネクタイをしている)が現れ、  
三人に一礼する。

藤木と赤石と彩子、式場係のギターに合わせてビートルズ

彩子、立つ。

しかし、答えられない。

赤石 分かんねえのに、手エ挙げんよ！

藤木 お前が挙げて言ったからだろ！

赤石 彩子、六だ！ 六！ 答えは六だ！

藤木 お前が答えてどーすんだ。

彩子 ……。

藤木と彩子の家。

彩子 ウィスタリアもバーミليونも、もう学校来ない  
で！

赤石 えっ。なんでだよ。

彩子 だって、授業参観の時も変なことするし、運動会  
の時だって、すごい笑われたんだよ。

藤木 え？ 頑張っただろ、おれたち。

赤石 そうだよな？ あの二人三脚で、おれ、ちょっと  
筋肉痛になっちゃったよ。

彩子 おっさん二人でモタモタして。すごい恥ずかし  
かったもん。お前の家族、おかしいって言われた  
もん。

の『ガール』を歌う。

彩子 (歌うのを止めて) ウィスタリア、バーミليون、  
今度の土曜日、なにしてる？

藤木 土曜日？

彩子 授業参観、あるんだけど、

赤石 やだよ、授業参観なんか。

彩子 えー。来てよ。彩子、算数得意なんだよ。

赤石 この年になってまで学校なんか行きたくないよ。  
恥ずかしいじゃない。

以下、式場係の歌に合わせて、走馬灯が進行する。  
彩子は時間の経過と共に、次々に衣装を着替える。  
小学校の教室。

席に座っている彩子と、教室の後ろで授業参観にきている  
藤木、赤石。

彩子 (周りをキョロキョロしている)

赤石 なんだよ、こんな問題もわかんねえのかよ！

彩子 (赤石の方を振り返る)

赤石 彩子、彩子、手エ挙げる！

彩子 ……(手を挙げる)

藤木 あ、当てられたぞ。

赤石 まあ、それ言われちゃうとなあ……。

彩子 ウィスタリアもバーミليونも、もう嫌い。

藤木 彩子お。

赤石 なあ、いい加減、バーミليونって言うのやめな  
いか？

彩子 え？

赤石 なんか、そろそろ他の呼び方にしてくれよ。  
……じゃあ、なんて呼べばいいの。

彩子 ……だからまあ、赤石さんとか……  
えー。変だよ。それ。

藤木 お父さん。

赤石 ……え。

藤木 お父さん、でいいんじゃないか。  
……二人とも？

彩子 ああ、二人ともお父さん……ややこしいか。なら、  
おれのことばパパって言うてもいいしな、

赤石 えー。パパって感じじゃないなあ、  
どっちかって言うと、おれがパパだろ？

彩子 えなんで？

赤石 いや……別れた女房にもパパって、  
(遮って)でも、恥ずかしいよ。中学でお父さん

彩子 のこと、パパって呼んでる子なんか、いないよ？

彩子、いつの間にかセーラー服を着ている。

藤木 あれ？ お前、中学生になっちゃったの？

彩子 そうだよ。

藤木 なーんか、すぐ、おっきくなるなあ……。

彩子 そ？

藤木 もっと、ゆっくりやってもいいんじゃないの？

彩子 えー。だって、退屈しちゃうよ？ 聴いてる人、

藤木 え？

彩子 (客席に) 本日は、私たちのためにたくさんの方

にお集まりいただき、ありがとうございます。

藤木 ああ、そうか、これって……あれか。

赤石 おい、うるせえよ。静かに聞いてられねえのか。

藤木 悪い悪い、スピーチだったな、結婚式の。

赤石 ったく、死んでまでゴチャゴチャうるせえと、た

まったもんじゃないぜ。

藤木 え……？

数年後。藤木と彩子と赤石の家。

彩子 ねえねえ、明日、友だち連れて来てもいい？

藤木 ああ、いいよ。

彩子 うちで一緒にご飯食べてもらおうと思ってるんだ

数年後。藤木と彩子と赤石の家。旅先から帰ってきた三人。

藤木 よっこいしょ。ただいまー……。

彩子 ただいまー……。

赤石 おーい、彩子、風呂入れてくれえ。

彩子 えー。ひと休みさせてよお。

赤石 バカ。ずうっと運転してたんだから、ちょっとは

労われ。

彩子 私が運転するって言ったじゃん……。

赤石 あんなもん、乗ってられるか。なんでまっすぐし

か行けないんだよ。よく免許取れたな。

藤木 いやあ……気取った旅館もいいけど、やっぱり家

のソファが一番だなあ……。

彩子 ええー……。

赤石 そう、そう。でっかい風呂って、なんか落ち着か

ないんだよな。

彩子 連れてった甲斐、無いじゃん……。ボーナス全部

使ったのに……。

藤木 いいんだよ、おれたち、贅沢なんか似合わないか

ら。お前が結婚して、子ども産まれたら、色んな

とこ連れてってやれ。

彩子 えー。でも、怒るでしょ。お父さん。私が結婚す

るって言ったたら。

けど、ダメ？

藤木 まあ、大したもののは用意できないけど。

赤石 おう、誰だ？ 紗也香ちゃんか？ あの子、いい

よなあ。キツそうで。

彩子 キモ！……最悪。ロリコンじゃん。

赤石 十六超えたら全員女だよ。

彩子 キモい……。もう絶対、紗也香連れてこない……。

赤石 そりゃあないぜ。

彩子 お願いだから、変なことしないでね。康介君に変

な家族って思われたくないから。

藤木 康介君？

彩子 ……明日来る友達。

藤木 友達って……男か！？

彩子 そーだけど……。何人かと来るし。別に、そうゆ

うじゃないから。

藤木 なんだ、おんなじ高校の奴か？ どういうアレだ？

え？

彩子 部活の先輩だよ。うるさいなあ。

藤木 お父さん、聞いてないぞ。男の友達がいるなんて。

赤石 おい。お前、ちゃんとアレ着けてもらってるか？

彩子 避妊だけは絶対しろよ？

あー。ほんと最悪。

藤木 なにそれ？ 怒らない、怒らない。

彩子 うそだね。昔、連れて来るって言ったたら、すっご

い怒ってたもん。

赤石 ああ、そうだな、怒ってた。

藤木 えー。怒ってないよ。

彩子 ……え、じゃあ、会ってくれる？

藤木 なに？

彩子 ……今度、連れて来るから。お父さんたち、会っ

てくれる？

藤木 い、いるのか？

彩子 ほら、やっぱ怒った。

藤木 い、い、いや、怒ってないけど。言ってよお。

……お父さん、心の準備、全然できてないよ。

数十年前。夕方の公園。

赤石はいない。

さっきまで彩子がいた場所に、幼い頃の闇原が立っている。

学帽をかぶって短パンを履いた闇原、顔を覆って泣いてい

る。

闇原 ……藤木くん。

……

藤木 あれ？ お前……有ちゃんじゃないの？

闇原 ……。

藤木 なんだ…：また、いじめられて、泣いてんのか。大丈夫だよ。はは。鼻水出てるぞ。…：こんな昔のことまで思い出しちゃって…：。やっぱり、彩子見てると思いだすのかなあ。ほんと、そっくりなんだよ。お前の娘。…：お前に、見せてやりたかったなあ、あいつのウェディングドレス姿。…：。

藤木 泣くんじゃないよ。お前、かつこ良かったんだよ。最後まで。泣き虫有ちゃんって言われてたのが嘘みたいだ。お前、おれたちのヒーローだったんだよ。

闇原、につこりと笑って、歩き出す。

藤木 おい。どこ行くだよ、有ちゃん。…：おい。

闇原、笑顔で振り向く。

闇原 なアに。死なんてものは、しばしの別れだ。…：何も怖がることはない。

闇原、姿を消す。

藤木 ……うん…：…

赤石 無いことないでしょ、探せよ。ちゃんと、

藤木 探した、探した。さっきから探してるよ。

赤石 もっかい。思い出してみ。最初っから。

藤木 ……最初に、こう…：…こっから出しただろ…：。それで、ここにまとめて…：それからこっちに行っ

て…：あれえ？

赤石 ……ねえ、もう着けてるじゃない。

藤木 え？

赤石 ネクタイ。もう、してるでしょ。

藤木 ああ、ほんとだ。なんだあ。

赤石 なんだじゃないよ。なんでおれが逐一お前に指示

しなきゃいけないの？

藤木 はいはい、ごめんごめん。

喪服を着た彩子、現れる。

赤石 ……おう。

彩子 ……。

赤石 康介君は？

彩子 仕事終わったら、来てくれるって。

赤石 ああそう。…：しかし、こんな変な葬式、大丈夫

かね？

藤木 そうか…：そうだな。ま、おれも、すぐ、そっち行くよ。

…：

演奏を終えた式場係、去る。

藤木の走馬灯が、消えていく。

### 斎場・控え室（現在）

冒頭の結婚式場に似た場所。

藤木、クローゼットの中の服をかき分けて、なにかを探している様子。

そこへ、モーニングスーツに黒のネクタイを締めた赤石が入ってくる。

赤石 おい。…：まだかよ？

藤木 ……ん？

赤石 いや、もう始まるぞ。

藤木 うん、わかってるんだけどね…：

赤石 なに。

藤木 ……ネクタイ知らない？

赤石 ……え？ 無いの？

彩子 え？

赤石 いや、おれが喪主っておかしくないか？

彩子 うん。…：おかしい。

赤石 おかしいよな。

彩子 ……まあ、でも、いいんじゃない。

藤木 ねえねえ、

赤石 なんだよ。…：今、忙しいんだよ。お前のせいで。

藤木 ごめんごめん。右足出して、左足、だっけ？

赤石 違う、右足出して、揃えて、左足だよ。

藤木 ややこしいねえ。

赤石 ややこしくないだろ、全然。

藤木 こんなもったいぶって歩くの、ちょっと恥ずかし

いよなあ。

赤石 だったらお前はいいよ。おれ一人で歩いてやるから。

藤木 いやいや、そうゆう意味じゃなくてさあ。

赤石 だってお前、もう死んじやってるんだよ？

藤木 ……死んだって歩けるよ。付き合ってくれよ。

音楽。

赤石、藤木、彩子、客席の花道へ歩いていき、舞台上から姿を消す。

客席に式場係が現れ、観客にアナウンスをする。

式場係

皆様、大変お待たせいたしました。間もなく新婦・彩子さんが、お父様の赤石修二さまと、……お父様の藤木博貴さま、お二人のエスコートで入場いたします。

赤石、藤木、彩子、客席の花道を、ぎゅうぎゅうになりながら舞台の方へ歩いてくる。  
以下、歩きながら。

藤木

ああ……なんか……ちょっと泣けてきちゃったよ。

赤石

早いよ、あとにしてよ。

藤木

まさか、こんな日が来るなんてなあ……。

赤石

早いって、せめてスピーチで泣け。

彩子

うるさい、うるさい……

赤石

……せまいな、くそっ。

藤木

なあ、バーミリオン。いいのかなあ？

赤石

なにが。

藤木

出来損ないのおれたちが、こんなに幸せでいいの

赤石

かなあ。なんか、バチ当たったりしないかなあ……。

赤石

へっ。なんだよ、それ。

藤木、立ち止まる。

彩子

……あれ？ お父さん？

藤木

(鼻水や涙を拭いている) ごめん、やっぱりダメだ。ちょっと、休憩させて。

赤石

バカ。休憩なんか無えよ。ちゃっちゃとついてこい。

赤石と彩子、バージンロードの先で待つ、彩子の夫に一礼する。

赤石、彩子の手を取って、彩子の夫の手の上に重ねる。

赤石と藤木、彩子を見守る。

彩子

(客席に)……皆様、今日は、父のためにたくさんの方にお集まりいただき、ありがとうございます。多くの方に見送られて、父も、さぞかし喜んでることと思います。私には父が二人、いえ、三人おりました。三人のお父さんと一緒に、バージンロードを歩くことができたら、どんなに幸せだったでしょうか。……父ひとり、娘ひとりでバージンロードを歩いてみると、まるで、どこにもいる普通の家族のようで……なんだか、少し寂しく思います。父から生まれて、父と父に育てられて。そんな、普通じゃない家族の中で育った私は、

どこにでもいる、普通の男の人と……康介さんと、結婚します。イケメンでもなく、お金持ちでもなく、オッパイもなくおチンチンも長くない、普通の男の人です。普通の家族が、どうゆうものか、私には分からないけれど、きっと、幸せになってみせます。お父さん、お父さん、これまで育ててくれてありがとう。私は、これからずっと、お父さんたちの娘です。以上……親族代表、闇原彩子。

いつの間にか、藤木の姿は消えている。  
暗転。

優秀賞

# 酒乱お雪

伸 由樹生

大池容子

うさぎストライブ主宰

アトリエ春風舎芸術監督

劇作家・演出家

1986年生まれ、大阪府出身。

日本大学芸術学部演劇学科劇作コース卒業。

2010年、劇団青年団演出部に入団。

同年、うさぎストライブを結成し、現在までに23作品を発表。

その全ての公演で作・演出を担当する。

「どうせ死ぬのに」をテーマに、演劇の嘘を使って死と日常を地続きに描く作風が特徴。

2013年9月、芸劇eyes番外編・第2弾「God save the Queen」に参加し、地下鉄サリン事件を遠景に交差する人々の思いを描いた『メトロ』を上演。

2013年12月、アトリエ春風舎の芸術監督に就任。



陸奥雪子（お雪） 東北・下北半島の出身。  
 浅草六区ロック座の踊り子。  
 望郷の吞兵衛  
 佐藤織男（オリオ） 東北・浜の出身。  
 望郷の片道切符を持っている  
 青野杜子（青野） 東北・三陸沖の出身。  
 新宿刑務所の看守だというのが：  
 隅田 帝都・墨田区出身の江戸っ子。  
 うるわしのおかま。  
 オリオの会社の先輩  
 鹿部世一（ヨイチ） 北海道・函館市の出身。  
 オリオの会社の社長  
 主治医 幻の新宿総合病院の医師  
 幸三 浅草のバーの亭主  
 北上敬魯（セロ） 東北・花巻の出身。幸三の妻  
 鳩たち 上野の鳩たち。かわいいことが仕事

※オリオは佐藤織男というが、発音はオリオン座のそれである。

## 《第一部》

## 第一幕 上野ホーム

時代はさかのぼり、東京、上野駅のプラットフォーム。そこはかつて北海道・東北・北陸からの上京者の玄関口として栄えた上野駅であった。栄枯盛衰とは世のことで、数十年後はその機能を失いつつあるが……。  
 プラットフォームの人影のない、夜のことです。木製のベンチに腰を下ろした一人の若き上京青年オリオと、彼の会社の先輩で麗しの江戸っ子おかま、隅田との会話から始まります。しばらくは遠くに電車のなる音を聞いていたオリオも、なにやら物憂げにさみしく空を見ています。そうしてこう、語りだすのです。

オリオ そこに僕が聞いたのは、懐かしい訛りでした。

「ふるさとの 訛りなつかし 停車場の  
 人ごみの中に そを聴きにゆく」

―石川啄木の詩です。彼は岩手県南岩手郡日戸村、今の盛岡市日戸の出身です。彼もまた、東北から夜行特急にのってこの上野の地に降り立ったのでしょう。

…上野駅は北海道・東北・北陸からの新幹線の終

時代はさかのぼり、昭和の上野。上野駅は東北、北海道、北陸からの列車の終着駅として栄えていた。上野に住む若き青年、オリオは東北から上京してきた金の卵。日々労働に勤しむ真面目な青年であるオリオは、決して故郷へは帰らずパンチ穴の空いていない望郷の片道切符を大事に持ち続けていた。浅草六区で踊り子をしているお雪は青森は下北半島の出身、生まれながらの酒豪であるが、オリオと出会う。同郷である縁によって不思議な関係を作り上げてゆく。そして上野は時代とともに変わってゆく。いつまでも故郷に帰らない者を罪として刑務所へ収監しようとする謎の女看守。故郷に関する病「故郷病」なる病気を提唱する医師……。時代とともに上野で変わってゆくオリオとお雪の関係、そして徐々に明かされる台東区のまやかし。東京オリンピックを間近に控えた時代を舞台にした、時代錯誤のお話。

着駅として「北の玄関口」と呼ばれていました。特に出稼ぎ者や集団就職などにおいて、故郷から見慣れぬ大都会、東京に足を踏み出した北国の人々にとって、上野駅はただならぬ思い入れの詰まった駅であるはず。北からの終着駅、そして北へ行く唯一の始発駅であった上野駅には、北国出身者たちによる活気であふれていました。上野駅に來れば、故郷の国訛りが聞けるはずだ……。啄木の詩には上野駅によせる望郷の切実な想いが込められています。

…ああ、つないでござんなさい。星と星をつないで星座をつくるみたいに……。札幌駅から東北本線・いわて銀河鉄道線・青い森鉄道線・津軽海峡線・函館本線・室蘭本線・千歳本線……。そしてそれらをつなげると上野駅に到着していた寝台特別急行列車「北斗星」になるでしょう。青森方面へ向かう「津軽」「八甲田」「あけぼの」……！ 特急「やまびこ」「ひばり」、寝台列車「北陸」「ゆうづる」……！ 夢の12番ホーム……！

どれもこれも、上野駅における人間の歴史でした。東北人の訛りが、こうしてホームで目を閉じていると耳に聴こえてきます……。貧しさと奥羽山脈、襲い来る豪雪との中、それでも東京を目指した彼

らの訛りと吐息と足音が、こうして聴こえてきます…。

隅田 なに、オリオちゃん、帰りたくなつたの

オリオ 違うよ隅田さん。けっしてそれは後悔だとか孤独

だとかではないよ。「誰か故郷を思はざる…」

隅田 あたし、それ知ってる。青森の、確か三沢の詩人

オリオ じゃあこれはどうだい。「私は津軽の人である。

だから津軽のことを…」

隅田 それも青森の人だ。津軽の…

オリオ なるほど、正解。では「月は水銀 後夜の喪主

火山礫は夜の沈殿 火口の巨きな多ぐりを見ては

たれもみんな愕くはずだ 鉛筆のさやは光り 速

かに指の黒い影はうごき 唇を円くして立つてる

る私は たしかに気圏オペラの役者です」…

隅田 それはわかんないなあ

オリオ 岩手の人ですよ。花巻の人

隅田 わかった

オリオ 上野駅は行き止まりです。東北からの列車は上野

駅にしか停車しない。東京にいる東北人は誰もか

もみな、上野駅に少なからず一つや二つの因縁が

あるものです。上野は行き止まりの街です。北か

らの、行き止まりなのです…。ね、懐かしいでしょ。

こうしてホームで目をしっとり閉じていると、聴こえてくるんだ。列車の発着する音、短い夏の終りの音、故郷からひきずって音だけ持ってきた雪のシンシンと降る音、そして故郷の春の訪れの歌が…

隅田 や、オリオちゃん、それはあんた、いくら何でも

「郷愁」ってやつよ。懐かしむだけならいいけど、

勢い余って行きだけのチケット買って着の身着の

まま列車に乗り込まないでちょうだいよ。仕事が

残ってるんだから。今や、うちの会社にオリオちゃ

んがいなくなったら、速攻倒産なんだから

僕なんかを雇って下さった会社ですもの。きっと

僕がいなくなったら、女房に逃げられた亭主みた

いに、右往左往しながらカップ麺でもすすってちっ

とも仕事に手が入らなくなることでしょ。野球

中継見ながら、どうやって僕をお国から連れ戻す

か思考するだけで精一杯…

隅田 随分鮮明な予知なこと

オリオ とんでもない。僕がいなくなったら倒産するよう

な会社、一刻も早く潰れてしまえばいいんだ（少し訛って）

隅田 やっぱり、オリオちゃんムキになるといつも訛る

の

オリオ そうですか（口元をおさえて）

隅田 そうですよ。自分じゃ気が付かないかもしれない

けど、あたしみたいな生粋の江戸っ子にはすぐわか

かるよ。別に隠さなくていいじゃない

オリオ、ホーム椅子から立ち上がり、シャツのポケットから一枚の切符を取り出す

隅田 あ、やっぱりオリオちゃん列車に乗るつもりなん

じゃないの

オリオ これは、僕の望郷の片道切符だ（光にかざす）

隅田 （切符を奪い取りなだめるように）帰らないで。

本当にカップ麺生活になるから

オリオ 大丈夫、帰らないから。でも、返して下さい。こ

の切符は僕が上京してから初めて買った故郷への

行き切符なんです

隅田 （返して）でも、なんで使っていないのさ。パンチ

穴開いてないじゃない

オリオ 僕は上京してもう5年。こっちでの都会人的生活

にも慣れてきましたが、まだ一度も帰郷していま

せん

隅田 帰ってないの

オリオ はい

隅田 オリオちゃん年いくつだっけ

オリオ 19です。もうすぐ20

隅田 中卒だわ

オリオ 中卒で出稼ぎ、上野駅の金の卵。かわいそうな坊

やですか

隅田 卑屈にならないで

オリオ 卑屈に見えたらすいません。育ちのせいで卑屈に

なろうとなんて思ってませんから。そんなつもり

はないんです

隅田 でもオリオちゃん、すごく知的だけれど。頭もよ

くて端正で

オリオ 本当はすぐバカなんです

隅田 女の子にもてるでしょ。今は女性もだんだん強くなってるから、少し抜けてる男の人なんかモテルのよ

オリオ いいえ、全然。仕事ばっかで出会いなんか

隅田 あたしはどう？

オリオ 隅田さんには彼氏がいるじゃないか

隅田 あたし二股かけちゃう

オリオ やめてくださいよ。若い僕を悩ましくさせないでください

隅田 そうやって生真面目に悩むところ、やっぱり少しおバカなのね

オリオ からかったんだべか！

隅田 顔赤くしちゃって

オリオ 顔が白いから、すぐ赤くなるんだ

隅田 でもなんで、帰るつもりもないのに切符を買ったのさ

オリオ 上京して半年くらいたったころ、やっぱり僕はどうしても一度故郷に帰りたくなり、この切符を買いました。準急「ときわ」。上野駅始発、平駅終点の  
隅田 うんうん

オリオ そうして荷物をまとめて、切符を買って上野駅8

番、常磐線平駅行きのホームに立った時、なんだかな、と思ったんです。非常に感傷的になってしまったというか。僕がいつもの僕じゃなくなるよな。そんな、とてつもなく感傷的でセンチメンタルで、詩的で文学的な僕になってしまった  
隅田 初めて故郷に帰るってそんなもの

オリオ でも僕はなんだか、それが気持ち悪かった。普段の僕じゃないから。そんなおセンチな気分はむずがゆくて、それで結局、乗るはずの列車を見送ってしばらくしてその場を離れてしまいました。それ以来、何度か帰郷しようとする機会はありませんが、その度におセンチな気分に対する羞恥心とか、憎悪みたいなのが沸き上がってきて、それから5年たった今も、帰らずじまいです。5年もたつと、なんだかめんどくさくて帰る気も起きませんよ

隅田 感傷的な気分ってのも、望郷のおつなところなんじゃないの

オリオ いいや、あれは気味が悪い。なにが悪いって、僕が一番気味悪い

隅田 潔癖なんじゃないの

オリオ 上野に住んでいると、よく身をつままれることがあります

隅田 どうしてさ？

オリオ 上野駅から大音量で流れる列車の出発アナウンス。あまりにも音が大きいのんだし、天井のないこともあって上野中に響き渡る。僕はいつも、出発のアナウンスを聞くと飛び起きる。「さあ、オリオ。起きろ、お前の故郷へ向かう列車が出発するぞ」って…そう急かされているような気がして…。そうすると上野駅の出発アナウンスはいわゆる故郷からの呼び声で、それを上野中の、いや、台東区中、それどころじゃない、東京中の東北人に呼び掛けているんじゃないかしら。「さあ、帰ろう」って…。そうして呼び声に誘われた東北人たちが、上野駅まで亡霊のように行列して一斉に里へ帰っていく…。

隅田 オリオちゃん、考えすぎ

オリオ ということで僕はこの改札前で穴を開けられていない片道切符を、いつまでも持っているんです(切符をかかえて)

隅田 でももう使えないじゃないの。切符って、買ってから一日しか有効ではないんだから

オリオ そう思わないようにしています。この切符さえあれば、いつでも東北へとんぼ返りできるんだという、一種の安定剤です。望郷の魔法です  
隅田 帰らないで

オリオ 給料が今のままだと、ちょっと考えますね

隅田 ええ、そんなあ

オリオ 隅田さんがラーメン奢ってくれたら帰りません  
隅田 分かったよ、奢ります。かわいい会社の後輩ちゃんに、奢ってあげますよ

オリオ うわあ、隅田さん、優しいなあ

隅田 そうです、あたしの心はね、太平洋のようにおだやかよ

隅田 列車が通る音がある。二人、一瞬呆けたようにお互いを見て

隅田 …やっぱりオリオちゃん、北に帰りたくなっちゃったんじゃないの

オリオ そう見えますか

隅田 目がキュッとしてるもの

オリオ 僕、そういう自分の変化みたいなのに気が付かないんです

隅田 だからそうやっていつまでも、パンチ穴のあけてない東京の手垢のついた切符握りしめてんのよ  
オリオ 大人にならなきゃいけないんですけれど

隅田 二十歳になったからって言って、はいせーので大人になれますか

オリオ 僕それを心配してんです

一瞬、二人とも気まずそうに下を向く。すると列車の通過する音が遠くに小さく聴こえる。それとともに、海鳴りの音。

オリオ 太平洋の、黒潮と親潮がぶつかるのとこ分かりますか（真剣な顔で）

隅田 知ってるような、知らないような

オリオ 太平洋の、親潮と黒潮がぶつかるのとこ。東北地方沿岸、三陸沖や福島県沖なんてもいいいますけど。だからそこは漁業が盛んなんですよ

隅田 知らなかった

オリオ フィリピン付近から台湾などを北上し、日本列島南岸沿いに流れる暖流、黒潮は塩分が高く栄養素が低いのでプランクトンがあまり育ちません。それゆえ透明度が高く、サンマやイワシ、マグロなどが獲れます。ベーリング海から千島列島沖を通じて北海道から南下する寒流、黒潮は酸素や栄養のある塩に満ち、プランクトンも豊富です。それゆえ「魚を育てる親なる海」ということで親潮と呼ばれているそうです。そしてこの暖流と寒流がぶつかる境目がいわゆる「潮目」でプランクトンが

豊富で多くの魚が集まってくるんです。それが僕の故郷の浜沖の話で

隅田 そうなの

オリオ 親潮の中で泳いだら親が見つかるだろうかと空想していました

隅田 やめなよ

オリオ 冗談です

隅田 ほんとに

オリオ それだから僕、太平洋の地平線を眺めながら育ってきたんですけど

隅田 それはいいね

オリオ いつも空想していました。太平洋地平線の向こう側のことを。多分それはアメリカです。でも太平洋って広すぎて、僕の視野の180度くらいを覆っていました。瞼の裏に透かせば海の向こうが見えてくる、なんて神話にもほどがある。地平線に目を凝らして、自分の目の前にある海は黒潮だろうか、親潮だろうか、それとも黒潮と親潮が混ざった潮なのか、悶々と考えながら、太平洋の地平線に目を透かして瞼の裏に、浜の風を受けていたものです

隅田 そうして見えてきたものは！

オリオ 荒れ狂う、海の潮目！（切符を天にかざして）

列車の通過する地響きに似た音と、大きな海鳴りの音。すると駅のホームの後ろに立っている白いヴェールをまとったお雪！ 列車の轟音の中、暗転

## 第二幕 雪の中

オリオの家。殺風景だがまとまりがある。小さい石炭ストーブがある。小さい部屋である。真ん中には玄関扉。小窓が下手に一つ、大窓が上手に一つ。小さな座リテーブルが置いてある。オリオが本を読んでいる。するとドンドン！ という大きなドアノック。

オリオ なんなんだ。こんな時間に

女 あけてください……

オリオ 誰ですか、あんた。こんな時間に非常識だ

女 寒いだよ

オリオ そこの居酒屋でも行きなさい

女 その居酒屋から出てきたのよ

オリオ でも僕はあんたをあげません

女 どうして

オリオ だって、こんな時間に民家、アパートたくさんあ

も何もないでしょ。酔っ払ってたってひきずってでも帰るなさいよ

女 そんなひどいこと言わないでさあ、お願いよお  
オリオ いやです、それに酔っぱらってるみたいだし

女 それじゃ、あたし、海峡に身投げしちゃうんだから

オリオ やめてください、死ぬ理由を僕にしないでください

女 飛び込んでやる

オリオ わかりました、何か悩み事があるんですね。そういうことなら、人助けってことでいれてあげますよ

女 すまないね

オリオ、ドアを開けて女を家に入れる。女、真冬だというのに赤いヒールに素足、半そでの赤いワンピースを着ている。相当酔っているらしく、足元はおぼつかない☆

オリオ なんちゅう格好してるんだ

女 ちょっと、洗面器

オリオ わ、待ってください、そこで吐かないでくださいよ

女 洗面器ください

オリオ (洗面器を持ってきて) はいはい  
女 おえええ(吐く)

オリオ (女の背をさすりながら) どれだけ呑んできたんだ、まったく

女 おえええ  
オリオ はいはい、よく吐いておきなさい

女 ありがとうね  
オリオ 一期一会です(毛布を取りに行く)

女 (毛布をかけられ少し落ち着いて) おらったら阿呆だから、ある分呑じまうんだ

オリオ ああ、懐かしいなあ、その訛り。本当はあなたなんか家にあげるつもりなかったけど、同じ東北出身だと分かると、同郷のよしみってやつですかね。いやあ、土地の縁ってのは因果なものだな

女 助かった。オコタないの

オリオ 安月給の独身の家に、そんなものあると思いますか。僕だってキリキリ勤務してんです。ストーブあるだけでもいい家にあずかったなと満足してください。それか、狙って僕の家に入り込んだのなら、そんなことで不満を漏らさないことです

女 あなたの家を狙ってたわけじゃない、っていう証拠になり申したでしょう。いい家にあずかりました(お辞儀して)

オリオ なんてそんな恰好してんです。こんな寒いのに

女 浅草のさ、職場の近くにあるバーでさ、いつもみたいに一人で呑んでただけども、体が火照ってきて、羽織ってたものなんでもかんでも脱ぎ捨てちゃったのよ。いつもは脱ぎ捨てたところで店の旦那が回収してとっておいてくれただけでさ、あ、その店の旦那ってのはあたしのショーよく見てくれたんだけど。あ、そうそう、あたし浅草六区のロック座で踊り子やってんのね。そいでさ、昨日女房に逃げられたらしくて機嫌悪くてさ、そこであたしが「そりゃこんな冴えない亭主だもの、逆に今まで家に収まったのが不思議だわ」て酔った勢いで言ったもんだから怒っちゃって。こんな冬空の中に放り出されちゃったの。服は店に置いてきちゃった

オリオ よくわかりませんが、あなたが悪いんじゃないですか。それに、酔っ払うにしても何杯呑んできたんですか。酒臭くてたまりません。日本酒？

女 樽で

オリオ その冗談、東北人には通用しませんからね

女 冗談じゃないんだもの

オリオ 知ってますよ、酒豪が多い東北だ

女 あたしおっかあのアルコールの羊水につかって産

女 おめとー！  
オリオ (時計の秒針の音とともに) 5、4、3、2、1…  
女 おめでとー！  
オリオ ありがとうございます。まったく、誕生日の直前になんて災難だ  
女 (どこからか酒瓶を出して) それじゃ、景気づけにいっちょ呑むか！  
オリオ どこから出して来たんですかそれ！  
女 店からかっぱらってきたんだ。でかしたろう。会津の地酒だよ。はい、呑め！  
オリオ やめてくださいよ！ 分かりました！ 祝杯にあ

ずかりますから

女 一気に呑むんだよ！ ビビってんのか！ なじよした…

オリオ もう、酔っ払ってんだから！

女 おらあ、呑め！

オリオ ぐっ…（女に酒瓶を口に突っ込まれる）げほっ…

女 （一瞬で雰囲気変わり照明さして）あたしはお雪…

下北の霊場恐山の元、極寒に生まれてからずっと酔っ払って生きてきたんだ。酒を呑むと体があつたまるから、寒い下北を生きていくのにはあたしは欠かせなかった。親もいない、バアもない、友達もいなければ甘い恋もない。あたしはそんな人生を変えたい、終わらせたくないと思を決して、ラジオでしばらく東京の言葉を覚えた。地元の人訛りが消えかけた頃、隣の家の酒屋のジジイから金と酒をいっぱいもらって、いろんな鉄道乗り継いで青森駅から特急乗ってようやくたどり着いた終点、行き止まりが北の果て「上野駅」！ それでこの地へ足を踏み出して、何か新しい、ワクワクするような素敵な人生起こるんじゃないかと、そう思っ

て、今日まで生きてきたんだ。東京はあたしの希望、あたしの人生の終着点…

オリオ ごほっ…（と身を崩す。照明戻る）

お雪

あたしはお雪。青森から線路つたって東京へ渡ってきた渡り鳥、雪国の怨念だよ（とオリオから酒瓶を奪って自分も呑む）

オリオ そっかあ、おまえ、お雪っていうのかあ…（呂律が回ってない）

お雪 ハハハ！ 本当に、あれだけでも酔っ払ってんの！ お前、東北のくせして酒に弱いのか

オリオ うるさいうるさいうるさい…

お雪 お前もう喋んじやないよ

オリオ 俺な、オリオづうんだ

お雪 どうして、オリオっていうのさ（二人とも酔っ払っていてべろべろで）

オリオ それはなあ、冬に生まれて…冬の、冬の、寒い日に生まれてえ

お雪 冬なんていつも寒いよお

オリオ 冬の、冬の、凍るように寒い日に生まれでえ…その日があんまりにも寒かったもんでえ

お雪 うんうん

オリオ （朦朧としてお雪の膝上に寝転がる）その日があまりにも寒かったもんでえ、夜の空は澄んでいて冬の星が鮮明に、星屑の一つ一つまでもがくっきり、何万光年という星空が、冬空の中に永遠に広がって…

お雪 そういう時は…こう！（酒瓶をもう一個取り出し

オリオ うええ…（お雪に口に突っ込まれるまま呑む）

お雪 ほらほら、もつと呑め…あつたかくなるでしょ

オリオ ワヤー…もうだめだ…（毛布にくるまって体育座りして）

お雪 本当に下戸なのね。ねえ、あたしも毛布入れてよお

オリオ （急に怒り出して）お前！ お前なあ！ 急に人

お雪 悪かったわよお！ でも寒いから毛布入れてった

オリオ しょうがないなあ！（毛布をあげる）

オリオ、しばらくすると思ひ出したようにポツリと歌いだす。

お雪 （空を見上げる）うんうん

オリオ そんな中に、冬の星座を見つけたんですよ。都会でもよく見えるが、あのオリオン座オリオン座がすごく綺麗で…だから俺は、オリオなんです…

冬のとても寒い日に生まれたから、オリオン座でオリオ…

お雪 上の名前も教えとくれよ

オリオ 佐藤、佐藤織男…。織姫の織に男って書いて…。

これは僕の母親が僕を産んで空を見ると、オリオン座が一等光ってたもんでつけてくれた名前なんだ。産後の肥立ちが悪くて母はすぐ死んでしまったけれど…。生涯の忘れ形見、この身に刻まれた母の祈りの三文字…。

お雪 ヤイヤー。そっだから由来が…

オリオ あ、下北弁…

お雪 うわあってー意味だよお。あと、津軽の方ではワイハーとか、ワヤーとかって言うよ

オリオ はははは…ワイハー

お雪 もう、やだよお

オリオ ははは、今夜も寒いなあ

お雪 下北よりは、寒くないよお。あそこは地獄だよお。

オリオ 地獄の寒さだ

オリオ 寒いねえ、寒い

オリオ

りも高いところへ…。夢と希望を抱いて上京して以来、がむしゃらに働いてきた。

「お店の仕事は辛いけど、胸にやでっかい夢がある。」

上野駅の金の卵は、この国の発展を支える希望です。それでもたまに、こうして故郷の国訛りを聞くと、希望も夢なんかも捨てて故郷へ帰りたいたい気持ちになってくる。

お雪 帰りゃあいいじゃないの

オリオ 上野公園の野口英世像もあるでしょう。我が故郷の英雄、野口英世。「志を得ざれば再びこの地を踏まず」…。志を果たすまでは二度と故郷へ帰らないぞと、僕はそういった人になりたい

お雪 そういつて、ただ怠惰になってんじゃないの。電車賃ケチってさ

オリオ 何を、僕はすでに買ってあります。いつか、いつ

しかは分かりませんが、いつかは乗る予定の、故郷往きの切符を！ いつしかこの切符の右隅に、改札錠で穴開けてもらうんです。そうしてそのいつか乗る予定の列車は、出発時間になると上野中に響き渡るほどの音量でアナウンスをするのです。

「さあ、国へ帰ろう！」と

お雪 じゃああたしの分の切符も買ってよ。そしたら

嫌でも帰りたくなつかも。あたし金ないんだ

オリオ いいでしょう。いいですとも。東京好きのあなたにも望郷の心は灯るとみた。買って差し上げますよ

お雪 約束したな。下北往きの切符を買ってくると、

口約束したな

オリオ 契約書、書きましようか？

いいえ、結構。その代わり、あたし忘れないからね。その口約束。冬空にオリオン座輝くたびに思い出すんだから…。

(空に指で沿革をなぞって)オリオン座はプロレマイオスの星座。いわゆるトレミーの48星座の一つ、その由来はギリシャ神話にあります。α星のベテルギウス、平家星。β星のリゲル、源氏星。γ星のベラトリックスは女戦士の名を持ちます。δ星のミンタカ。ε星のアルニラム。ζ星のアルニタク。またはκ星のサイフ、λ星のメイサ。その神話は前世より伝説として人々に信仰に近いものをもたらししてきました。海の神、ポセイドンの息子で屈強な青年、オリオンはその傲慢さゆえ、猛毒を持つ蠍に刺し殺されます。それゆえオリオン座は蠍を恐れ、オリオンを刺し殺し、夏の星座となった蠍座が沈んだころ、つまり真冬の

空に輝くこととなったのです…。そして夏の蠍座

の、毒を持ったS字型の針先は、冬のオリオンの方に向いているのです…。アンタレス、アクラブ、ジュバ、サルガス、ギルタブ、シャウラ、レサト、グラフィアス…。それらは、星にまつわる物語でした…。

### 第三幕 人間所屬論

舞台には簡易的な出店のセット。隅田が丸椅子に座っている。オリオにピンスポ。独白が始まる。

オリオ あれから一か月が経ちました。お雪さんの素性は

オリオ、とつくに寝てしまっている。お雪、空を見上げる。照明だんだん青暗くなっていく。星空のようにあちこちでランプがピカピカと点滅する。列車の音が鳴り響く。宇宙のような美しい世界が広がる。そこへ舞台上方に設置された小窓に、車掌の服を着て帽子を深くかぶった一人の女が不気味に顔だけをのぞかせる。凜とした声で。

不気味な女 月は水銀 後夜の喪主 火山礫は夜の沈殿

火口の巨きな糸ぐりを見ては たれもみんな愕く

はずだ 鉛筆のさやは光り 速かに指の黒い影は

うごき 唇を円くして立つてゐる私は たしかに

気圏オペラの役者です…

カラカラン、リンリン、とまるで結晶同士がぶつかり合うような不思議な音が反響する。女、窓を閉め消える。暗転。

寝てしまします。そんな僕を、お雪さんは東北人のくせに、と罵るのですが僕は人が変わったように「うるせー東北だろうが弱いもんは弱いんだ」と怒鳴ります。翌日の二日酔いはひどく、頭痛や胸やけ、胃炎で半日寝込みます。そんな僕を横目に、お雪さんはどこかへフラフラと旅立って行き、発泡酒を一瓶買ってきてグビグビ飲み干し、半分ほどいったところでトイレに駆け込み一つ、二つ

吐いて、さらに一分後収まった様子で二日酔いの僕の目の前に参上し、座って三つ指ついて「お世話になりました」としずしすした様子で頭を下げ、玄関扉からまたフラフラと出てゆきます（再現しながら）。毎回それを見せられますから僕は感心して、よくあんなにご自愛できない人がいるものだな、と思います。なんだかそれはそれで楽しい感じもしたので、僕は今度お雪さんが来たら、少しは憎まれ口叩かず、優しくしてやろうと思いました。あの人も、口に出さないだけですごく寂しい人なのです：

独白終えると照明灯り、オリオはラーメン屋のセットのイスに座る。店のラジオが首都高速道路の渋滞情報を流している。

隅田 ラーメン伸びちゃう。せっかくの奢りなのに、おいしく食べてよ

オリオ ありがとうございます。いや、仕事終わりの麺類はいいですね

隅田 とほほ、給料日前なのに思わぬ災難

オリオ 後輩のことを災害呼びするのはやめてください

隅田 災害も災害。台風、地震、雷、火事：

オリオ リオちゃんが：

隅田 今までの僕なんだったんですか

隅田 堅物

オリオ 真面目とってください

隅田 くそ真面目

オリオ 真面目なのはいいことです。だから仕事だってうまくゆくんだ

そこへ背後から足音もなく一人の男が現れる。二人の間に割り込んで

ヨイチ 仕事がうまくゆくたって？

隅田 あら、社長

オリオ ヨイチさん

ヨイチ 偶然だな。だがオリオ、真面目だけではうまくゆかないこともあるぞ。（ラジオを少し聞いて）

：初めてオリンピックがまもなく東京へやってくる。あの世界の！ オリンピックが、だ。俺たちはキリキリ働くのだ。真面目に！ キリキリと！

オリオ では僕故郷に帰ります

ヨイチ （一転してみじめにすがりついて）だめ、だめ、それは社長が許さない

オリオ 給料上げてください

オリオ ほら、伸びますよ

隅田 あら、いけない（何口か麺をすすり）そういえば、オリオちゃんはもうお酒呑めるんだっけ

オリオ 呑めますよ。ひと月前に二十歳になりました

隅田 一応大人になったのね

オリオ どんどん老いてくんどうな

隅田 何言ってるの。そんな若い内から、年老いること考えちゃいけません。そしたら、もうお酒は呑んだの

オリオ ええ、まあ：儀式的に

隅田 で、どうなの、やっぱり酒豪

オリオ 全くの下戸です。一杯呑んだだけでもうへべレケ、起きてられません。瞼が勝手に閉じようとするもの

隅田 あたしより弱い

オリオ でも、酔っぱらってる間は、なんだか不思議な気持ちです。すごく阿呆になった気分だ。普段だったらできないような、人を怒鳴るなんてこともできるし、喧嘩腰になったり、言わないようなことを言ってしまうんだもの。言ってしまった後でも、まあ処分は素面の僕に任せようなんて思って、それで次の日後悔するんだ

隅田 結構破天荒な酔い方するのね。なんだか意外。オ

ヨイチ したたかだなあ。まあいい。俺もラーメン食おう。札幌ラーメンにしよう

隅田 お味噌好きなんですか

ヨイチ バカ言え。なんだ。醤油ラーメンと言ったならお前は「お醤油が好きなんですか」と言うのか。と

んこつラーメンと言ったならお前は「豚さんが好きなんですか」と言うのか、え？

オリオ ヨイチさんは屁理屈が多いんだ

ヨイチ 俺が札幌ラーメンを好む理由はただ一つ！

：何物にも代えがたい、望郷の味だからだ

オリオ ヨイチさんって札幌出身なんですか

ヨイチ いいや、函館だ

隅田 札幌じゃないじゃない

ヨイチ うるさい！ おだまりなさい。おだまりなさい。じゃあなんだ、宇都宮餃子を日光市の奴が故郷の味と言ったらお前は「宇都宮市じゃないじゃない」と言うのか。それとも明石焼きを神戸市の奴が故郷の味と言ったらお前は「明石市じゃないじゃない」と言うのか。え？（ラーメン運ばれてくる）

オリオ やめてくださいよ、その屁理屈とか揚げ足取りとか。聞いてムカムカしてくるんです

ヨイチ なんだオリオ、お前は俺と同じ土地の縁じゃないか。非道なことを言うな



隅田 東北と北海道だもの、同じ土地とは違うんじゃないの

オリオ いいや、同じですよ（オリオ、隅田と肩を組む）  
隅田 なんだいお前、さっきから社長の味方したり敵に  
なったり

ヨイチ そうだ、同じだ。土地の縁ほど強いものはないからな。同じ土地の中学校の縁がどれほど強いか、市立中学の南と北で異なるだけで学校間で紛争のようなものが起こるだろう。それほど土地というものには大切な縁なのだ。あれと同じだ

オリオ ヨイチさんも僕も、同じ上野駅の上京者です。僕は8番ホーム、ヨイチさんは12番ホーム。ホームは違えど、同じ駅で都会に夢を馳せた仲間です  
ヨイチ そーだオリオ、なんだいお前泣けること言ってるじゃないか

ヨイチ、嬉々とする。店のラジオから「あゝ上野駅」が流れてくる。それに合わせて二人、肩を組みながらだんだんと楽し気に歌い出す。

〜どこかに故郷の 香をのせて  
入る列車の なつかしさ  
上野は俺らの 心の駅だ

オリオ 感だので押しつぶされてしまうんだ。そして、所属しないことは自分が社会からの枠組みを外れ、いつの間にか社会の歯車のセットから抜け出し、何かとんでもない方向へ向かっているのじゃないかしらと、と怯えたりもする

オリオ なるほどお（興味なさそうにラーメンをすすりながら）

ヨイチ （劇的に）そしてそれらの所属、というものは困難なことに、自分で手に入れなければならない。大学の○○学部にも所属して、○○社の営業課にも所属しています、○○町にも所属し町内会費を払っています…涙ぐましい数々の努力によってのみ、所属は得られ社会の組織の末端を担うことができる。しかし、だ。全くの努力なしに自動的に、そして永久的な所属というものがある…

オリオ 家族、ですか  
ヨイチ （急に幼じみて突っかかり）バカもん、家族親族なんて死んでしまえば無しだ無し。血の縁なんて幻、儚いものよ。―それはだ、（一呼吸おいて）故郷だ。地元だ、出身地だ。ベクトルは様々だがな。他町村にいけば自分の街、県外に出れば自分の県、海外に出れば自分の国、宇宙に出れば自分の星、というように所属地域の表現方法にも色が

くじけちゃならない人生が  
あの日ここから始まった…

ヨイチ 俺は北海道は函館市の出身だ。こういう寒い日に、温かい味噌ラーメンを食べていると思ひ出す…。向こうにいたころもこうして、寒い日に家族と、友人と、食べたものだなあと

オリオ 分かんないです  
ヨイチ 望郷の味、望郷の味噌ラーメン！ そうして一口すすれば（すする）、思い出す故郷のことを…。

人々の中にある、三大欲求だとかでしゃばり症だとか自己顕示欲だとか、そういったものはまた別の、望郷とは人間の根源的欲求なのではないだろうか。己の所在、己の出発点、それから離れると必ず沸き起こる、己のスタート、すなわち、故郷への愁愛…

オリオ 分かんないです  
ヨイチ オリオ！ ああ、オリオ、人は誰しも自分の所属無しには生きていけないだろう

オリオ それは分かります  
ヨイチ （劇的に）仕事だとか町内ボランティアだとかはたまた学校の部活動に至るまで、とにかくそういった何物かへの所属意識がないと、孤独感だの疎外

ある。どうだ、オリオ、お前はテテナシゴ、ハハナシゴだったな。そんなお前にびったりな見解じゃないか。人は誰しも努力なしに所属は与えられない。社会の枠組みやレールには乗れない。しかしそんな人間にも無力にも平等に与えられる所属…。題して、俺の考えた「人間所属論」！

オリオ いやあ、おいしかった  
ヨイチ 聞いてなかった、お前、聞いてなかった。

オリオ お前は話分かるやつだと思ってたのに（子供っぽく怒って）

オリオ 論文出したらいんじゃないですか、こんなところで社長やってないで  
ヨイチ バカもん。俺だって上野駅の金の卵だ。なんのために就職列車にのって上京してきたと思うんだ。勤労だ。「あゝ上野駅」は労働賛歌なのだ。俺は働くのだ

隅田 さすが、社長  
ヨイチ しっ、静かに、（照明変わって）台東区には魔物が住んでいる

オリオ なんの魔物です  
ヨイチ 今も北からの上京者が、ホームですすり泣く声が聞こえてくる

オリオ 冷めますよ、ラーメン。「所属論」はいいが、今

のご時世に必要なのは、どうやって地方に金を集めるかだ

ヨイチ ほお、オリオ、お前は社会学よりも経済学のほうがいいがお好きらしい

オリオ 経済学も社会学も、文化学も民俗学も観光学も、都市から飛び出していかなきゃ文句は言えねえ  
ヨイチ 都市から飛ばずしては、一体どこの鳥だというんだ

隅田 ねえあたし、全然分かんないなあ  
ヨイチ お前は何学だ

隅田 何学？ うーん、一応大学では文学部だったけど違う。お前の学んできたことを言ってるんじゃない。お前自身、お前という存在は何学だ

隅田 哲学みたいなこと言われても

ヨイチ いいか、鳥は飛ぶとき、飛行学だの生物学だの、運動学だのによって飛ぶ。ではお前は、何学によって飛ぶんだ？

オリオ まあまあヨイチさん。ラーメン屋で語る学門は脂っこくていけないですから。次の機会にしましょう

ヨイチ おつ、皆さん聞いて下さるか。  
俺の「人間所屬論」！（客席の方に向かって話しかける）

オリオ 変な絡みはやめてください（ヨイチをいなめて）

ヨイチ （客席に向かって啖呵をきるように）俺は見た！

函館山の頂上で、文明が、人類が、学術が、都市に自殺ネズミの様に行軍して集まり、それぞれ所屬を成しているさまを！俺は見た！函館山の頂上で、豪雪に喘ぎながらも己の所在を探す古い民族のことを！俺は見た！函館山の頂上で、

上野駅の哀しみの12番ホームを！

オリオ では哀しみの12番ホームは、いつあなたの函館山に姿を現したというんだ！

ヨイチ 空にオリオン座輝く、真冬の寒い日のことだった！

列車が通りぬける音がし、一気に停電のように暗転。しばらく列車の轟音響く。

## 《第二部》

### 幕間 鳩I

鳩の裝飾をした男たちがポツ、ポツ、ポツと鳴きながら豆を拾っている。BGMに「鳩ぼつぼ」のオルゴールが、たまに歪みながら流れている。鳩2と鳩3が餌の取り合いで喧嘩を始めたりするころ、鳩1が語りだす

鳩1 今日も今日とて

鳩2 上野の街は晴れ渡る

鳩3 隣の浅草は今何時？

鳩4 浅草時間で午後6時

鳩5 下谷の街は？

鳩4 下谷時間で午後1時

鳩1 なんて同じ台東区でも

鳩2 時間が違うのさ

鳩3 それは所屬が違うからさ

鳩1 所屬ってなんだ

鳩3 浅草には浅草っていうグループで

鳩4 下谷には下谷っていうグループなんだ

鳩2 総括すると同じ台東区なのに

鳩4 そんなの知るか

鳩5 だから上野から浅草まで、下谷かっぱ通りを

鳩4 まっすぐ歩いて行くにしても

鳩3 まったったの数十分だけさ

鳩2 上野を午前10時に出たら

鳩5 浅草に着いたら午後5時さ

鳩1 7時間もかかるのかい

鳩2 そうだよ

鳩1 そうしたら、上野から東北にまで、新幹線で行く

のは一体どんなにかかるんだろう

せいぜい4時間、5時間

新幹線でかっ飛ばせば

そのくらいだろう

北の玄関口、上野駅

鳩1 上野は行き止まりなのさ

鳩2 行き止まりなのさ

鳩3 上野から先へは行けない

鳩4 東京駅の巨大なトラフィックネットワーク

鳩5 あれとは違うんだ

鳩2 見給えよ。あの空虚なコンコースを

鳩3 上野は、まさに上野だけの時間が流れている

鳩4 どんどん変化していく時代の流れに

鳩5 あのコンコースだけが黙って老いてゆく

金の卵

集団就職

鳩3 上野駅の心の風景

鳩4 石碑まであるのだから

鳩5 上野駅が北国の民にとってどれほどの存在であっ

たか

わかるかいな

鳩2 上野—東京ライン？

鳩3 地方から東京へ通勤しよう！

鳩4 バカ、それは未来の話だ  
 鳩5 言ったらう、このコンコースだけが老いてゆくと  
 鳩1 つまり  
 鳩2 この話は、老いてゆくコンコースの中でのみ展開  
 している  
 鳩3 老いたお話なのさ  
 鳩4 いつまでも北の行き止まりが上野なわけなからう  
 鳩5 いつまでも上野が東北人だけの駅なわけなからう  
 鳩1 東京駅、品川駅  
 鳩2 上野には外国人観光客  
 鳩3 我々鳩もかわいがってもらうのさ  
 鳩4 だからこの話は老いている…

一つ短い列車の轟音。そして照明暗くなる。先ほどまでの  
 陽気さを打ち消して

鳩5 1982年、昭和57年の東北新幹線開業によって、  
 上野は玄関口としての文化が衰退していきます  
 鳩1 東北新幹線、上越新幹線の開業により、東北地方  
 や新潟地方に向かう上野始発の特急「はつかり」  
 在来特急「やまびこ」「ひばり」「とき」などが姿  
 を消しました

鳩2 在来線の長距離特急・急行が多く廃止されたこと、

鳩1 古い上野駅に取り残されている  
 鳩2 亡霊なのだ  
 鳩3 だから急行「まつしま」「はつかり」「はくつる」  
 鳩4 全て幻想、台東区のみまかしなのだ  
 鳩5 上野時間の中にいる彼らは気づいていない  
 鳩1 かわいそう、ポーツ！  
 —— 列車のベルの音

鳩3 …また列車が出るぞ  
 鳩4 あれはどこ行きの  
 鳩2 あれは岩手まで行くね。盛岡まで  
 鳩1 ポーツ、ポーツ  
 鳩2 こら、簡単に鳴くんじゃない  
 鳩3 そうやってすぐに鳴くと  
 鳩4 観光客がすぐ餌をくれる  
 鳩5 上野の鳩として  
 鳩3 品と芸がない  
 鳩2 さあ、今日も（鳩たち、空を見上げて）  
 鳩たち 故郷の足音が、上野駅に

人々の足音。暗転

1991年平成3年に新幹線が上野駅から東京駅  
 まで延伸すると、東北新幹線、上越新幹線の多く  
 が東京駅始発・終着になり、ただの通過駅になっ  
 てしまいました

鳩3 さらに2015年平成27年に3月14日には水戸・  
 いわき行きの「スーパーひたち」などの特急は  
 「ひたち」「ときわ」に名前を変え、上野駅終着か  
 ら品川駅終着と変わりました。そして上野駅は東  
 北の終着駅から通過駅に、だんだんその力を失っ  
 ていきました

列車の轟音。そして照明戻る。

鳩1 全ては昔の栄光…。むかしむかしの話なのさ  
 鳩2 むかしの話に気が付いていないのさ  
 鳩3 かわいそう、ポーツ！  
 鳩4 かわいそう、ポーツ！  
 鳩5 しっ、黙っている  
 鳩1 まだ始まったばかりなのだから  
 鳩2 彼らの中の時間は上野時間  
 鳩3 スカイツリーが立っても  
 鳩4 二度目の東京オリンピックが始まっても  
 鳩5 彼らはまだ

#### 第四幕 恐山のマリア

オリオの部屋に舞台は移る。オリオがピンスポの中、独白  
 をしている。

オリオ あれからまた数か月がたちました。冬が去って春、  
 夏と過ぎました。相も変わらず、お雪さんは夜中  
 に襲撃にやってきます。お雪さんは酒瓶を小脇に  
 抱えて出来上がった状態で家の玄関扉を、初めの  
 方こそドンドンドンドン乱暴に叩いて開けさせて  
 いましたが、今となるとお雪さんのやってくる千  
 鳥足音で僕は何かに感づき、ドアをあらかじめ開  
 けておくのです。するとお雪さんは様々な様子  
 で家が上がります。上機嫌な時は鼻歌を歌いなが  
 ら、抱き着いてきたりなんかして僕は大層迷惑そ  
 うな顔をする、というのが恒例行事ですし、機嫌  
 が悪い時はドン、ドンと壁や開けたドアに肩をぶ  
 つけながら狂ったような怒ったような、恨み節の  
 ような上目遣いで僕をギロリとにらみつけ、頭の  
 てっぺんから酒をかぶり、そのまま突っ伏して寝  
 てしまうのです。そしてオイオイ、アパート中  
 に響き渡るような大声で、泣きだすのです。僕

はそんなお雪さんの、酒をかぶったアルコール臭い黒髪をタオルで拭いてやり、ぶつけて傷んだ肩をさすってやります。ついに僕はこの前軟膏を買いました。次の日の朝、正気を取り戻したお雪さんの肩に塗ってやるためです。…なんの恨みか、北国の怨念か、下北半島にいた頃は、豪雪に紛れてその言葉を大声で荒れ狂う吹雪に向かって叫ぶことができたのでしょうか、この密集都市、東京ではどんな些細なことも大声で叫ぶことはできません。僕はそれをよくわかっていましたから、お雪さんの恨み節を、ずっと、ずっと、青森の吹雪の中に聞いていたような気がします。(何かに耳をすませて) ずっとずっと、吹雪の中に聞いていたような気がします。そんな秋のことです

そこへガン！ と鉄製の作に何かがぶつかる音がする。ピンスポ終わり、オリオ、何かに気が付いたように玄関扉を開ける。すると乱暴に肩を玄関にぶつからせ、お雪が入ってくる。髪は乱れ、手には一升瓶、そしてなぜか右手から血が出ている。どかっと入り込んできて座り込む☆

オリオ また、そんなになるまで呑んできたんですか。なにがあんたをそうさせているんだか…あ、お雪さ

えーと、上野駅から急行「八甲田」で…確か…(木柵から時刻表のような紙を取り出す) JR上野駅、12番ホームです。青森駅に止まりますから…。あ、常磐線だと8番ホームから急行「まつしま」…

お雪 …「八甲田」？ 「まつしま」？ そんな列車、上野駅にあっただかしら

オリオ …え…(少し間を置く) じゃあ、あんたは何に乗って東京へ来たんですか…

お雪 はやぶさ…

オリオ はやぶさ…？

(鳩たち、窓から顔をのぞかせる。チクタク、と時計の音だけが聞こえる)

お雪 オリオ、あんた夢でも見てるんじゃないの

オリオ …夢をみるつもりはなかったんですけど(鳩帰る)

お雪 …夢を見るなら寝てからにおしよ。あたし、故郷には帰りたくない

オリオ そうですか、でも毎日毎日、物価の高い東京で呑み続けるのも大変じゃないですか。一度帰って、酒でも大量にかっぱらってけるといい。今の季節、まだそんなに寒くないでしょう

お雪 (下を向いてグスッと泣き出す)

オリオ よしよし(背中をさすって)、何か、いけないこ

ん！ 血が出ているじゃないか

お雪 店で、瓶割ってきたのよ(くすぶって)

オリオ 待っててください、今軟膏塗ってあげますから(手を取り上げてじっと見て軟膏を取りに行く)

お雪 (小さくグスッと泣き出す)

オリオ いやだなあ、泣かないでくださいよ。今軟膏塗ってあげますから。そんな深い傷じゃなさそうだから、レディーなんだから、大切な体もってご自愛くださいよ。まったく、大人しく呑んでくればいいものを…

お雪の手を取り上げ、片膝ついて治療をする。濡らしたタオルで血を拭き、軟膏を塗る。

オリオ …はい、できましたよ。今日はもうお休みなさい。

今布団敷きますからね

お雪 (無言でラップ飲みで酒を呑む)

オリオ お雪さん、あんたそんな調子で狂ったように飲酒していると、本当に早死にしちまいますよ。どうです、一度故郷へ戻ってみてはいかがですかあ、ほら、僕は忘れてませんよ。いつか言いましたよね、切符買ったげるって。切符代なら僕が出しますから、それで養生してくるといい。下北半島へは…

とがあっただんですか

するとお雪、いきなり背中をさすっていたオリオを突き飛ばし、酒をぶつける。オリオ、しばらく放心状態である。お雪立ち上がって身を震わせる。そしてウツ、ウツと嗚咽を漏らし泣き出す

オリオ (放心していたが少し落ち着いて) …お雪さん、今あなたは落ち着くべきだ。大丈夫、怒ってませんから。少し僕も、驚いただけです。僕も決して菩薩じゃないが、怒ってませんよ。ただ少し、なんだその、驚いてるんです。だから大丈夫です。菩薩じゃない僕が怒ってないのですから、お天道様が怒っていらっしやるわけはありません。どうか心を沈めてください

お雪、ハツとしていきなり酒瓶を床で叩き割って、その破片を自分の首元に持っていく。

オリオ お雪さん！ それは僕怒りますよ！(腕を挿んで止めに入って)

お雪 離せ、オリオ！ あたしは死ぬんだ。死んで、下北の恐山様のとこに行くんだ

オリオ 何があったんですか。僕は自分のせいでも人が死んでほしくない

お雪 あなたのせいじゃないもの

オリオ とにかく落ち着いて下さい！

お雪 これが落ち着けるかってんだ！

オリオ お願います

お雪 ふざけるな！ あんたは知らんぷりしてればいいんだ！

オリオ ではなんで俺の家に来たんだ！

お雪 (ひるんで) それは…

オリオ、お雪の持つ破片を取り上げ、床の瓶の破片をてきぱきと片付ける。お雪、崩れ落ちて、客席の方を力なく向いて震える声で

お雪 あたしつられたんだあ(小さな声で)

オリオ …嘘でしょう？(信じられない、といった風に)

お雪 嘘じゃないわよ

オリオ 本当に、恋人なんかいたんですか…？

お雪 いた！ いたわよお！ ひどいわ、下北恐山の地獄の女だって、恋くらいするものよ

オリオ そして、どこのごいつです(お雪に向き合って座って)

オリオ それは理由づけをして未練を断ち切ろうとしてるのですか

お雪 恋をするなら色の白い、デリケートな、茹で上げた素麺を水でしめたみたい、しゃんとした男。あたしがとても適当な女だから、相手にはしゃかりきでいてほしい。それでいて酒呑みかわして吐きながら愛の言葉を交わせるような

オリオ そんなことで未練が断ち切れるとは思えません  
お雪 こんちくしょう、とんでもなく憎いの、よくも北国の女の繊細な胸をこんなに痛めつけてくれたなど、憎くて憎くてたまらないのに。愛した男の幸せを願わずにはいけない…。日本一の霊山、あの世の入り口、恐山のふもとの女の怨念は、地獄煉獄天国、三千世界を回り回って何度生まれ変わっても断ち切れるものではないと…

オリオ 酔っ払いの戯言につきあってられっか

お雪 話聞いてくれてたんじゃないの

オリオ 酔っ払ってきてんだ

お雪 (客席に向かって叫ぶように) 自分がみじめで恥ずかしくって、それで男が憎くて、でも愛さずにはいられない。太平洋、尻屋の岬も驚いて波荒れるほどの女の情念ってやつは、親潮に乗って太平洋、津軽海峡下北のお雪、あたしは恐山の産ま

お雪 女房に逃げられた、ロック座近くのバーの亭主。前言ったじゃない

オリオ あれまあ

お雪 女房が戻ってきたんだと

オリオ なんと数奇な運命だ。だから通い詰めてたのかうわぁーん！(突き伏して泣き出す)

オリオ ああ、お雪さん、泣かないでください。雪国の娘がそっだからことで涙なんか流しちゃいけませんだって、あの人はあたしのファンだったんだ。あたしがロック座で踊ってるのを見て、ずっと応援してくれていたんだ。それで、浅草と一緒に骨をうずめようなんて甘い言葉吐きやがって。女の怨念を知れって言うんだ

オリオ 僕もいやですよ、そんな、いつも僕の元へ襲撃する前に女房に逃げられた男なんぞと甘い恋をして

お雪 いたなんて(酔っ払いフラフラします。呂律も回らない)

お雪 あたし、でも決めてたんだ。恋をするなら決して色黒の男にするまいと

オリオ その男は色黒だったんですか？

お雪 決してお天道様に照らされた太陽の国の色黒の男にすまいと。だけど実際恋をしたのは太陽にこんがり焼かれた、色の黒い男だった

オリオ れ子。仏様のおひざ元で、アルコールで身を燃やす極寒のお雪、本州最北端の、みじめ子だよ！

お雪 シン、と静寂。しかしオリオの様子がおかしい。心臓を抑えて苦し気な表情である。

お雪 ど、どうしたのさ…

オリオ くっ…(と苦し気に悶える)

お雪 まいったね…。あたしこういう時はなんもしてやれないんだよ

オリオ うう…

お雪 どうしたのさあ、救急車？

オリオ だ、大丈夫です…生まれてからずっとなんです持病かい

オリオ 不治の

お雪 それは、すぐに死ぬようなものなのかい

オリオ いえ、うまく付き合えば寿命を全うできます。いわば、所属病のようなものです

お雪 所属病？

オリオ うまく言うとか郷病

お雪 故郷病

オリオ (照明変わって) 僕の出身は福島のはん沖だと言いました

お雪 ええ

オリオ 僕の故郷の浜は、東北の大災害、やませの影響地域です（青い照明）やませっていうのは、主に東北地方の太平洋側に、夏から秋にかけて吹く冷たく湿った風です。寒流の親潮の上を吹いているため冷たく、稲作に大きな影響を及ぼします。日照時間や気温の低下をもたらし、いわゆる「冷害」というものです。江戸時代にはやませの長期化でコメがとれず、東北地方の飢饉の原因になりました

お雪 あまり意識したことは

オリオ そうです。やませには影響地域があります。北海道のやませの地域では元々稲作は行われず畜産業や畑作が中心でしたし、青森県や三陸海岸でも同様に牧畜・畑作が中心であり、関東地方の影響地域でも畑作であったり、また関東自体には到達回数が少なかったため被害はあまりありませんでした。被害が大きいのは稲作地である岩手県の北上盆地、宮城県の仙台平野、そして福島県の浜通りです

お雪 お前の故郷にも

オリオ やませが、やませが僕に吹き付けるんです。毎年、冷たくつきささる風が、やませが、太平洋を視野

お雪 （オリオの手を掴む。手を引っ込めて）冷たい！僕の平均体温は20℃いきません。やませが続くと低体温になるんです

お雪 どうして、そんな冷たい体で今まで生きてきたの僕からすると、どうしてあんな寒い下北半島であなたみたいな人が生きてこれたのか、不思議です

お雪 そういつつもりで言ったわけでは

オリオ あんな石炭ストーブじゃ足りんだろうに

お雪 だからって黒いダイヤです

お雪 黒いダイヤ？

オリオ 石炭は黒いダイヤって呼ばれてんです。こんな東京の発展だって、僕んとこの炭鉱所が支えているんだ。そして僕はまいっちゃってます。お雪さん、あなたに出会ってからというもの、その病はどんな症状が重くなっけいき、心臓の痛みだけだったものがひどくなると体中が震えだすんです。こう、ガタガタと。体やら唇やら。まるで東京にいなながら、故郷の雪の中にいるようだ

お雪 なんでもあたしのせいにするのはおよしよ

オリオ しかもその震えはあなたと一緒にしか現れないんだ。あなたが僕の家を押しかけ、一緒に酒を煽るようになってから。僕の心臓が、あなたの

180度にして眺めている僕の体内に寄生して、

僕の心臓に、吹き付けるんです。でもこれも、ここに生まれた定めだとして、運命だとして僕はこの身にやませを含ませて生きてきました。そうするとね、しばらく生きています、心臓に積もったやませがたまに暴れ出します。冷たい氷が心臓を貫くような、そんな痛みがたまに襲ってくるんです。痛みも数十分たつと治るので心配はしていません。お医者様にも行きましたが、まず出身地を聞かれます。そして僕が福島県の出身だと伝えると、納得したように大首振って「それはやませですね、気象用語としてはフェーン現象の性質を有する乾燥した風を意味します。それがあなたの心臓で吹きすさぶことを、病状とします」と。

つまり僕の病名は心臓病でも心不全でも心筋梗塞でもなく、「フェーン現象の性質を有する乾燥した風である、東北地方太平洋に影響をもたらす湿り気のある冷風やませが心臓の中で吹きすさぶ」病です

お雪 難しい

オリオ きちんと知ってください。東北出身者にしか見られない、珍しい不治の病です。そしてほら、だから僕の手を触ってみてください

お雪 故郷に呼応して…

オリオ あたしに故郷を重ねないでちょうだい。いいや、あなたの背後には立派なお山が見える。雪に覆われた地獄、下北半島の雪山が！僕の心臓の故郷、やませと、あなたの背中の中の故郷、雪山が、こうして因果な上野の地で出会っちゃったから！

お雪 だからってこんなにひどい因果はないわ。あたしの心は今、故郷の冬よりも大雪が吹き荒れているもの

オリオ

お雪さん、こんな僕のフェーン現象のような冷たい心臓に免じて自分にひどいことだけはやめてください。そんなひどい男なんて太平洋に沈めてしまえばいい。それでも気が済まないのなら、前世分の記憶まで飛ばしてしまおうくらい呑んで、呑んで、忘れてしましましょう。そういつた力強さが、お雪さん、あなたの阿呆さじゃなかったんですか。あなたの生まれ故郷の雪山は、あなたの心のお膝元じゃなかったんですか。だってだって、ああ、俺は見えますよ、（お雪、仏頂面する）そんな顔しても無駄だ。俺は見えたんだ。あなたが初めてとっかかって来た、あの寒い雪の日に、あなたの背後に見たんだ、お雪さん。（立ち上がってお雪

の肩に手を添え、客席を指さす。お雪も客席を見る(ああなたの背後に、キリスト教のマリア様の後光じゃないが、恐山の仏様の御心が、ああなたの背後に見えた！)

強い音楽と照明。声明のようなものも聴こえてくる。舞台後ろに次々と卒塔婆が立ち上がる。風が強く吹いている。

お雪 東へ向かうこと三十余日、霊山あり。その地に仏道をひろめよ！(正面を向いてキツとして)

オリオ 霊場恐山はあの世に最も近い場所です。きっとお雪さん、ああなたもあの世に一番近いんだ。だからあんなに大酒呑んで早死にしようとしてるんじゃないかしら

お雪 そっだからことは

オリオ ほら、お雪さん、山門が見えてきた(指さして)

お雪 山門を超えると角塔婆が並んで

オリオ ほら、スキの穂先が結ばれている

お雪 鬼を転ばせるために結んであるのよ。恐山には地獄があるの

オリオ 無間地獄、重罪地獄、賭博地獄、金掘地獄：(舞台後ろに次々とこれらの文字が書かれた札が立ち上がる。これは実際に恐山に存在する札である)

お雪 あたしはただの酒呑みだよ

オリオ 僕はなんだか、ああなたの背後に恐山を見てからなんだか神格化しているような気がします

お雪 およしよ、恥ずかしい、久しぶりに酔いが覚めてしまう

オリオ あなたはお雪、酒乱のお雪、本州最北端のみじめ子。それでいてフランス・ルルドのベルナデッタ、秋田のカトリック修道会のマリア様が涙を流したり、青森県のキリストの墓だったりするんだ

お雪 あまり宗教的のなしは得意じゃないの

オリオ 僕にとってお雪さんはルルドの聖母出現と同じくらしいの奇跡だということですよ

お雪 嬉しいこと言ってくれるじゃない

オリオ あの寒い冬の日、僕に「外」との親和性をもたらしてくれた

お雪 また難しいの

オリオ そういう意味では宗教と同じですよ

お雪 やめてよ、宗教と野球と政治の話は

オリオ 学術的な話です。信仰的なものではなく。中心があつて、さらに周縁があります。そこに外部からのイレギュラーが加わる事、これがいわゆる宗教的な奇跡だということですよ

お雪 あたしが宗教だっての

お雪 地獄を抜けると、目の前に釜臥山、そして澄みきった極楽浜！

オリオ ああ、俺は見える、お雪さんの背後に、霊山のご加護が！

お雪 人は死んだら、お山さ行くのよって、ずっと言われて生きてきたわ

オリオ 下北地方の根強い言い伝えです

お雪 だからあたしの後ろに恐山が

オリオ そうかもしれない(白く軽い布地をお雪の頭にかける) マリア様が頭からかけてるでしょう。あれ、マリアヴェールっていうらしいですよ

お雪 あら、青森にはキリストの墓もあるのよ

オリオ らしいですよ

お雪 青森では私は、仏様とマリア様どちらをとればいいのか

オリオ 青森の下北半島をとるか、フランスのルルドをとるかという論点です

お雪 でも東北弁のイントネーションはフランス語に似ているというし

オリオ ではああなたは青森とフランスをかければいい。ルルドでベルナデッタの目の前に現れ、そこに奇跡の治癒泉をもたらすように、恐山でイタコとなつてこの世とあの世をつなぐように

オリオ 酒乱教です。それか阿呆教

お雪 あたしにびったり

オリオ ルドルフ・オットー

お雪 「聖なるもの」

オリオ エミール・デュルケム

お雪 「自殺論」

オリオ それもありますが

お雪 「聖俗二元論」

オリオ それです。聖概念は善にも悪にも、また俗にもなるといふことです。この論は批判もありますが。

お雪 またはミルチャ・エリアーデ。それかメジュゴリエの聖母出現(お雪のそばに立っていたが身を崩して心臓を痛める)

お雪 大丈夫かい(オリオの手を握る。それはまるで聖母マリアがオリオの手を取っているようである)

オリオ ああ、僕は東京に来てとんでもない人に出会ったみたいだ

お雪 やませなんて、あたしが吹き飛ばしてあげるよ。

お雪 こんな冷たい手をして、雪の中だつてこんな冷たくならないよ。だから私が、こんな酒呑みだけどさ。あたしは、お雪、酒乱のお雪。さあ、あたしが来たよ。浅草から下谷を歩いて上野のああなたの元まで、青森のお墓がフランスのルルドで聖俗論

がエミール・デュルケム：よくわかなくなっちゃった。あんたが変なこと話し始めるから

オリオ やませは親潮海流の上を吹いてんです。僕はこんなところでも、親なしっ子なんですわね。やませの病に親潮の上空、そして患者が親なしっ子の僕だなんて、皮肉にもほどがある

お雪 (凜として) じゃあ、あんたの故郷の、心臓のやませに誓いなさい。いつかその親潮をかっさばいて、黒潮と三陸沖でぶつかって御覧なさいと。そして、この、私の酒乱のお雪が、あんたの心を浄土につれていきましょうよと。それでいながらルルドのような聖母像を保ちつつ、あんたの不治の病を奇跡の力で治してあげましょうよと

照明変わる。オリオ、近くの卒塔婆を持ち出して勇敢に抱える。お雪、まさに聖母さんからの風格を持ち合わせたはずんでいる。荒れ狂う吹雪の音が聞こえてくる。

## 第五幕 新宿総合病院

オリオ お雪さん、どうです、未練は  
お雪 まだちょっとへこたれてんの  
オリオ そんなこと言って、僕は情を燃やしてませ  
お雪 青い坊やが、百年酔ってから言いな!

だんだんと勇ましくなつてゆく。そこに先ほどまでの陰鬱さはない。お雪、ヴェールを美しくまといながら聖母のような酒瓶を高く掲げてキツと客席をにらみ、オリオはその横で卒塔婆を構えて

オリオ さあ、お雪さん、見えてきましたか、太平洋のやませが  
お雪 ああ、鮮明に見えるよ、猛吹雪の中に冷たく厳しく吹いている  
オリオ あんたはお雪、阿呆の聖職者、恐山の聖母、酒乱のお雪だ!

カツと眩しい照明が舞台を覆う。二人、ボーリングしてそのままゆっくり暗転。暗転の中、吹雪と音楽、高鳴る。

オリオの部屋。お雪は机の上で酒宴を開いている。オリオは何やら嬉しそうにお雪の対面で新聞を読んでいる。  
お雪 へ赤いリンゴに唇よせて:  
オリオ へだまって見ている 青い空

お雪 へリンゴは何も言わないけれど

オリオ へリンゴの気持ちはよくわかる

お雪 へリンゴ可愛や 可愛やリンゴ:

オリオ 秋が去って冬、冬が去ってまた春のことです

お雪 リンゴは津軽だよ。青森と一言にいても地域差があるんだ。方言も、津軽地方と南部地方と下北地方であらかた違う(それぞれの地理的位置を空中に描きながら説明する)

オリオ 福島でもそうですね、山の方が雪の多く降る会津地方、真ん中が新幹線の通っている仲通り地方、海の方が温暖な気候でやませの吹く浜通り地方(同じく地理的位置を空中に描きながら)

お雪 へ可愛やリンゴ:よっこいしよ(胡坐をかいて)

オリオ サトウハチロー作詞、いいですね。そうだ、お雪さん、花見にでも行きませんか。浅草まで桜見歩いて。隅田川で酒でも呑みましょうよ

お雪 ねえ、オリオ、あんたが上機嫌なのって

オリオ はい、上機嫌ですが

お雪 それは結構だったって

オリオ はい、それは結構だけんちよも

お雪 あたしがロック座の舞台降りたからでしょ

オリオ 浅草に恨みはありません

お雪 あたしは別に嫌で舞台立ってたわけじゃないのよ

オリオ 職業に貴賤なしですもの

お雪 じゃあもう一度舞台に立つと言ったら?

オリオ 少し考えさせてください

お雪 あんたうぶすぎなのよ

オリオ そっだからことは

お雪 あがめたてまつってくれんじやないの

オリオ そりゃあ、もう

お雪 酒持ってこい

オリオ へい

お雪 :お雪ちゃん、今のは言い方が悪かった。お酒とってくださる?(可愛らしく)

オリオ やめてくださいよ。あんたにしおらしさなんて似合いませんもん

お雪 あたし図に乗るわよ

オリオ どうぞどうぞ。傲岸不遜で愛らしく、ニンマリと微笑んでいる女性ほどステキなものはありません

(酒瓶を渡して)

お雪 本場に坊やなんだから

オリオ ははは:(困ったように照れて)

お雪 (一口酒を呑んで上機嫌に)

へ可愛いあの子とシネマを出れば

肩にささやく こぬか雨

かたい約束 かわして通る



田原町から 雷門

あぁ 浅草のこぬか雨

歌っている間、鳩たちが窓や玄関扉からのぞくようにお雪を見ています。ゆらゆらと楽し気に左右に揺れている。そして歌い終わるとじゅつと消える。

オリオ お、「浅草の唄」。確かそれもサトウハチロー作詞でしたよね

お雪 浅草六区はあたしの第二の故郷。上野駅で東京に降り立って、浅草まで散歩がてら歩いていたら時、どこからか聴こえてきた歌。大好きな東京、大好きな浅草…

オリオ 悪いですね。いつも上野まで通わせて。でも、そうやってどんどん第一の故郷を忘れていくんでしょう

お雪 僕はいつでも持っていますからね、望郷の片道切符（ズボンから切符を取り出して）

お雪 そんなことより、炊事洗濯掃除におつかい  
オリオ どうやら僕は尻にしかれるタイプのようだ  
お雪 その尻が好きなのはどのくらいのつだい

オリオ そういう話はやめてください（そっぽを向いてその場から離れようとする）

便所で隠れてしているみたいで…

お雪 そんなことありましたっけ

オリオ ありましたよ、ありました！

お雪 可愛いあの子とシネマを出れば…

オリオ そうですね。それもそうですけど、やはり上野の

僕は

お雪 なんだっていうの

オリオ …っつよいばかりが 男じゃないと

いつか教えてくれた人

どこのどなたか知らないけれど

鳩と一緒に歌ってた

あぁ 浅草のその唄を…

二人向き合っていたが、しばらくして勢いよく抱きしめ合う。すると寸発入れず玄関扉を叩く音がする。二人慌てて離れて

オリオ はい、誰でしょう

ヨイチ 函館出身の俺と言えば

オリオ ヨイチさん、どうしたんですか。こんな休日に

ヨイチ 開けてくれ

オリオ ちょっとお…（お雪を一瞬見て）嫌ですね

ヨイチ 社長だぞ、俺は

お雪 へぁぁ 浅草の…（と口ずさんで離れようとする

オリオの足をいたずらに掴む）

オリオ あぁ、お雪さん（とお雪の前に膝を折る）  
お雪 どうだ、あたしと出会って変わったか（顔を近づけて）

オリオ 変わりましたとも（顔を見つめて）僕が以前、呑めない酒をあんたに煽られて、すきっ腹で呑んだもんだから、すぐ酔っぱらって吐きそうだった時ありましたっけ。便所へ駆け込んで、気持ちが悪いですので吐こう、吐こうとしていても、なかなか吐くことができず苦しんでいた。その時、あんたがフラッシュとやってきて、「お雪さんも吐きにきたのかしら」、いつまでも上手く吐けない、酒の吐き方を知らない赤ん坊の自分を恥ずかしく呪わしく思ったりもしていました。するとあんたはいきなり、僕の髪の毛を後ろへ遠慮なしにひつつかんで引き、僕の口の中へこう、指を2、3本ガッツと入れてこじ開けると喉の奥にまで指を喰いこませました。そして引っ掻き回すと、すぐにすんなり酒を吐くことができて…。喉の奥にあんたのやわっこい細く白い指が当たって、胸が一つドクンと大きく鳴りました。あの時のあんたと僕、なにか、他人には見せられない抒情的な内緒ごとを

オリオ 知ってます

ヨイチ 開けてくれ

オリオ ちょっとお…（お雪を見て）無理です

ヨイチ 開けてください（べそかいて）

オリオ なんてかかっていうと、その、今あなたが家に入る

ことで雰囲気が悪くなんです

ヨイチ あんたって

オリオ 雰囲気が悪くなんです

ヨイチ 俺が雰囲気を悪くする原因だということか。え？

そうしたら会議室の雰囲気も、会社の雰囲気も、

はたまた函館市の雰囲気も俺が悪くするっていう

のか。ひどい。なんてこと言うんだ

オリオ そういうわけではないんですけれど

ヨイチ だったら入れてくれ、隅田も来る

オリオ それも困ります。何が楽しくて野郎二人を家に入

れなくてはならないんだ

ヨイチ なんだい、オリオ。まるで野郎以外のお嬢様が、

家の中にいるような言い方じゃないか。そしてそ

のお嬢様のお作り上げになられたいい雰囲気も、

俺という野郎が入室することでイレギュラーとな

り壊すような。まるで宗教に酷似した話だが

勝手な憶測ですよ。大体、僕がそんなお嬢様と出

会うことがあるとお思いですか。こんな真面目な

仕事人間なのに

ヨイチ 最近遅刻が多いと営業課でも噂だぞ

オリオ そんなことはありません

ヨイチ とにかく、ここを開けないと、明日からお前のデスク！ え？ ディスクだ、ディスク。少し碎けて言うてデスク。日本語に直すと机。もっとわかりやすく言うとお仕事。お前のお仕事はないええ〜…（お雪をちらっと見て）

お雪 （何か解決策を表すようなジャスチャーをするが全く意味不明で分からない）

オリオ …分かりました…。ヨイチさん、どうぞ…（鍵を開ける）

ヨイチ、風呂敷に包まれた重箱を持ってガラの悪いように登場する。

ヨイチ …おうおう、やっぱりお嬢さんいるじゃないか。かわいらしい

お雪 （じっと正座してを見つめる）

ヨイチ 遅刻の原因はこれか

オリオ いや、本当に違います

お雪 （さっと頭を下げて）お初にお目にかかります。私、お雪と申します。故郷の青森は下北半島、恐

山の麓の出身で…

ヨイチ おっ、青森の？ 恐山ってあれでしょ？ 日本三大霊山。水子供養とか口寄せの巫女、イタコさんのいる…。行ったことはないけれど、よくテレビで見ますもん。お？ オリオ、お前部屋に女性連れ込むまで大人になったのか（ニヤニヤとして）いえ、そういうわけでは…（お雪をちらっと見て）分かったわよう…。あ、じゃあそれでいいです。イタコさんです。出張口寄せです。そういったわけで、このお部屋にいるんです。（オリオの方を向いて）これでいい？

オリオ （お雪の肩を掴み内緒話の様に）いや、お雪さん、それは無理があります。もっといろいろ、うまいこと言って下さい

お雪 浅草六区の踊り子だって正直にいいやいいのかい。それかオリオちゃんのネンゴロだとか…。（心配そうな顔で）そんなにあたしのこと恥ずかしい？ 違うんですけど、なんというか、若さなりの羞恥心です。ヨイチさんは、僕の会社の社長だけど、それと同時に親みたいなんです。若い時は親に恋人を知られるのが、恥ずかしいでしょう？ それです…。分かりました。それでいきましょう。後は任せますよ。思慮分別、ちゃんとしてください

お雪 いね、お雪ちゃん（子供に言うように）

マカシトキ

ヨイチ へえ…。今はそんなことも。時代に合わせたサービスですな。なんだ、変な詮索をお許しください（親近感がわいたのか、くだけたように）

オリオ ……

お雪 まあ、大体そんなことでいいですよ（だいぶ投げやりに）

ヨイチ そうですか、青森からわざわざ。いやね、僕も北海道の出身なんですよ。函館。青森とも地理的に近いってのもあって、なんだか急に親近感わいちゃいますよ。いやね、私が急に押しかけてきたのはほかでもなくて。（オリオを引き寄せて）こいつ誘って花見にでも行こうと思っただけですよ。ほら、こんなお重箱にお弁当詰めて。これ全部俺が作ったんですわ。隅田が好きそうなものから、オリオが好きそうなものからたくさん詰めて。でも帰りますわ。今、隅田が酒買ってきてるんですけど…

お雪 酒（興味をそそられて）

ヨイチ はい、酒です

隅田 買ってきましたよ。結構多めだけど、ヨイチさん呑むでしょ…あら

ヨイチ 静かにしろ隅田。こちら、お雪さん。青森のイタ

コさんなんですと

隅田 タコ？

ヨイチ いわゆる神様にお仕える巫女さんで、死者や祖霊と生者をつなぐ神秘的な存在だ

隅田 最近のタコはすごいね

ヨイチ ああ、すごい方だ

隅田 茹でたりしたらやっぱり罰が当たるのかしらうーん、さすがの巫女様もやはり生身だからな。茹でたらだめだろう

隅田 生身ってことは、お刺身とかかしら

ヨイチ お刺身だろうな

オリオ タコタコ言うのは止めてください。刺身にするなんておぞましいこと、もってのほかだ。隅田さん、こちら、お雪さんです

隅田 タコだったらお酒に合うのに（と酒瓶の2つ3つ入った重そうな風呂敷2つを床に置く）

お雪 お酒ですね  
隅田 イタコさん、お刺身になるかい？

お雪 （酒瓶の風呂敷から目を離さず）ここで宴会なさってはいかがでしょうか。わたくしなら構いませんから

ヨイチ しかし、それじゃあお仕事の邪魔でしょう

隅田 花見でもなし

お雪 いいえ、全然：

オリオ またそんなこと言ってる。あなたは単純に呑みたいだけじゃないですか

ヨイチ まあ、どうだ、隅田。一つ乗ってみるか。目的は酒を呑んでちょっと豪華な飯を囲んで食うことだ。桜なんぞ、毎年見れる。この白雪のようなお嬢さんというお花もまた、鑑賞に堪える美しさだ

隅田 社長がそういうなら

オリオ それで僕のデスクが保証されるのなら

ヨイチ そし、決まりだ

4人、テーブルを囲んで座る。ヨイチが重箱の準備やらなにやらをする。お雪、酒瓶を一本失敬して己の懐に隠す。全員席について

ヨイチ そういえばオリオ、お前はイタコさんをなんの目的で呼んだのだ

オリオ え

ヨイチ だってそうだろう。誰か、交信してほしい死者がいるから呼んだのだろう。一体だれと一言交わしたくて呼んだのだ

オリオ それは…（お雪の方を見るがお雪は酒をぐびぐび呑んでいる）

隅田 分かった、親御さんじゃないの。里親じゃなくて、

本当の親御さん

オリオ なんと

ヨイチ なんだ、そうだったのか。デリケート、デリケート、おデリケート（わざとらしく反復する）な部分に口出してしまったな。悪い悪い

隅田 それで、イタコさん

お雪 お雪です（酒を呑みながら）

ヨイチ お雪さん、どうです。俺らも、その降霊術を見学してはいけないかしら

隅田 経文を読んで、死者を自分の体におろしてしまうらしいじゃないの。死んだ人とお話ができるなんて…

ヨイチ で、お雪さん。俺ら、興味あります。お酒ならいくらでもお分けしますから、世にも不思議なものをこの目で見てみたいものだ。世間には「自分は

この目で見た者しか信じない」などという輩がいるが、俺はそういった輩への反抗心を持っているのです。「お前の目は見たいものしか見ないのだ」と一言言ってやりたいものです。お雪さん、俺ら信じさせてください

オリオ それは困りますよ、お雪さん困ってるじゃないですか

ヨイチ 聖母マリアをこの目で見た、という南フランスの少女ベルナデッタは、決してその「見た」行為を信じないということはなかった。実質、彼女のマリアを見た場所は「ルルドの泉」として聖地に認定され、ベルナデッタは聖人となった。全ては「信じること」だ。外部からのイレギュラーを受けた内部が、初めて外部と親和性を持つのだ

オリオ ヨイチさんはあれだけ「人間所屬論」を唱えておきながら、今度は宗教学で飛ぶおつもりですか

ヨイチ トリは飛ぶとき飛行で飛ぶがー…

お雪 （ヨイチを遮って）いいですよ

オリオ お雪さん！

お雪 はい！ お雪は今、酔っ払っています！（酒瓶を抱きかかえて）

オリオ そうは言っても、僕が嫌です。お雪さん、無茶はやめてください。僕はもう心臓が破裂しそうですよ

お雪 女だもの、土壇場の一つや二つは見事にかわして見せなきゃ

オリオ あんた酔っ払って面白そうなことしたいだけじゃないですか

お雪 悪いか悪いか。あたしゃ面白いことして生きたいんだ

オリオ （穏やかにニコニコとして）それは結構です。素晴らしい生き方です。（急に声を荒げて）しかし

あなたは恐山の聖母でこそあれ、イタコでもなんでもない。本職の方に恨まれるようなことはしないでください

オリオ、立ち上がりお雪の元へかけよって説得しようとするがお雪、それをすり抜けて立ち上がりヴェールを取り出すと自分の頭へ、マリアヴェールのようにかける。そして酒瓶を小脇に抱えたまま、手を合わせる。すりすり、手を合わせて呪文のようなものを唱える。照明、お雪に降り注ぎ神秘的な雰囲気を出している

お雪 セイシュ、ドブロク、シヨウコウシュ、アワモリ、

マッコリ、ソジュ、サト、バーボン、ウイスキー、チチャ、クワス、トノト、ビール、モルトウイスキー、アクアビット、グラッパ、テキーラ、カシヤツ

オリオ お雪さん、まさか、本当にやる気ですか…

ヨイチ （オリオの方を掴んでいなめて）黙ってる。集中してるんだ

隅田 お前の親御さんが今現れるんだ。もっと慎重な面持ちで待っていなさいよ

お雪はまるで本気である。すると照明の色が変わり、BG Mも変化する。お雪、手を合わせたままで目をつむり、静かに語りだす

お雪 ……オリオ、オリオかい？

オリオ お雪さん、大丈夫ですか。何か、変な気はしませんかい

お雪 オリオ、だね。いやあ、また会えるとは、なあ  
(下北訛りで)

オリオ お雪さん、もう中断していいですよ。分かりました。僕たちの仲を正直に話しましょう。もうこんな嘘は終わりにしましょう

隅田 ちょっと、オリオちゃん黙ってて

お雪 さっけねごと。元気がいい、オリオ。今日は、かっちゃんが来たよ。今までまんず、かもらいねっきゃ、かっちゃん、つみつくったどなあ

隅田 何を言ってるかさっぱりだ

オリオ どうということもない、元気がいい、オリオ。今日は、母さんが来たよ。今まで、本当にかまってあげられなくてごめんね。母さん、苦労させたね  
すごいすごい

隅田

ヨイチ でも、なぜ浜出身のオリオの母親が下北弁なんだ

りつかれたようにキツと睨み大声で叫ぶ

お雪 親潮海流の荒波の中さ！

すると吹雪の荒れる大きな音！

オリオ 親潮だって！ う… (心臓を抱えて苦しみ出す)

ヨイチ どうした、オリオ！

隅田 オリオちゃん！

オリオ うう…やませが…やませが、僕の中で、吹きすさんで…

お雪 親潮上空を吹きすさぶやませが、オリオ、お前の心にも吹いているのかい？

オリオ ……母さん、母さんは親潮の中にいるんだね……そうしたら、僕の視野180度を、母さんは覆っているということだ！ そうして、僕の中のやませを、母さん、取り巻いているんだろ！ (苦しみながらお雪を指さして)

お雪 (すっかり何かが憑依したよう) 母と海、海と古里はどれも同じ意味を持つ。どれもこれも、置いてきたものたちだ。古い里と書いて古里だなんて、故人に郷と書いて故郷だなんて、それでもオリオ、母さんを古い母にするつもりなんだね？

オリオ イタコの口を介すると、例え外人でも下北弁になるといいます

お雪 なはしおごりでしたんけたがりだして、人様さ迷惑かけねよに

オリオ お前は頑固者で神経質だから、人様に迷惑をかけるように

お雪 かっちゃんはオリオのことば、いづでもかづでもおやみじや

オリオ 母さんはオリオのこと、いつでも心配してるよ

ヨイチ よかったじゃないか

隅田 そうしたら、何かオリオちゃんの方から言いたいことはないの。せっかくこうしてお母さんとお話できているんだから

オリオ お雪さん、お雪さん。…お雪さん、どうやら演技ではないんですか(恐れおののいて)

ヨイチ しっかりしろ、オリオ。ほら、なにか質問をしてごらん

お雪 (オリオの方を向いて) オリオ、かっちゃんだよ。なじょしてそっだからおびえて…

オリオ (怯えて)……母さんは、今どこにいるんだい？

オリオ、怯え切っているが勇気を振り絞って問いかける。するとお雪、大声で笑いだす。照明変わってお雪、何かにと

親潮海流を胸の中に押しつぶして、古い海の流れをいつまでも痛がって持ち続けているんだらう。お前の痛みは、古く古いし、置き忘れてきた者たちからの呼び声さ！ 新しい里なんざ持てると思っちゃいけないよ。さあ、オリオ、帰っておいで。上野駅のアナウンスとともに、風に吹かれて帰っておいで！

オリオ 母さん！ 母さん！ (絶叫する)

すると照明パツと変わり、お雪、崩れ落ちるように倒れる。隅田が駆け付けて上半身を起こす。ペチペチと頬を叩いてお雪を起こそうとする。照明戻る。

オリオ (苦しみ続ける)

ヨイチ オリオ、大丈夫か。救急車か。病院行くか

オリオ 大丈夫です…

お雪 (我に戻って) ちょっと…オリオ、どうしたんだい…

隅田 オリオちゃん、持病かなんかあるの？

お雪 オリオは：「フェーン現象の性質を有する乾燥した風である、東北地方太平洋に影響をもたらす湿り気のある冷風やませが心臓の中で吹きすさぶ」病なんです

隅田 もう少し簡単に言うとう？  
 お雪 やませ病です。または故郷病、所属病  
 ヨイチ (ハッとして) 所属病だって？ 俺の「人間所属論」か？  
 お雪 手をさすってあげてください。きつととても冷たいですから  
 ヨイチ 手か？(オリオの手を触って) なんだこれは！  
 冷たい！ まるで氷のようだ  
 隅田 あたしちょっと、なにか温かいものでも買ってくるわ  
 ヨイチ 俺もついて行こう。お雪さん、少しの間頼む  
 隅田とヨイチ、机の上の物などを持って出ていく。お雪、急いでオリオの手をつかんで

お雪 ねえ、あたし。才能あんのかも  
 オリオ そうですね…すごいですよ。あれ本当なんですか？  
 お雪 最初は酔った勢いだったんだけど…  
 オリオ さすがお雪さんだ。だから言ったでしょう。あなたは恐山の聖母だと。僕の言ったこともあながち間違いないでしょう  
 お雪 ね、とっさについた嘘だけど、なんとか奇跡だね  
 オリオ それより、先ほどの話が気になる

オリオ …それは…  
 お雪 あんただって、分かっているはずよ。故郷の田舎よりも、東京の方が楽しいもんだって。人生明るくなるもんだって。だったら、忘れる勇氣も、捨てる勇氣も、必要よ  
 オリオ …(切符をお雪から取り返しズボンのポケットに戻す。静かにお雪を抱きしめる)  
 お雪 ね、いいでしょ？ あたし浅草から上野に引っ越すからさあ。いつまでも押しかけ妻みたいなことさせないでよ。二人で酔狂に生きていこうよ。いつまでも引きずってるとのよ  
 オリオ 二人で？  
 お雪 うん  
 オリオ 本当ですか  
 お雪 うん  
 お雪 それは、僕のこと、本当に愛してくれるってことですか  
 そうよ  
 オリオ そりゃあ、僕はお雪さんのこと愛してますけど  
 お雪 面と向かって言わないでよ、恥ずかしい  
 オリオ 女の人はすぐこうだ。言わないと怒るくせに、言くと恥ずかしがる

お雪 そのままの意味さ。お前の母さんはこう言ったろう？ 「お前は古い里に縛られている。早く捨てなさい」と  
 オリオ そう捉えましたか。僕にはまるで「古い里を捨てたらお前には天罰が下るぞ」くらいに聞こえましたよ。とんでもない脅しだ  
 お雪 母のいうことなんか、未成年でもなし、きいちゃいけませんよ。まったく、たまにこうやって心配させんだから  
 オリオ ははは…いつもはお雪さんの心配ばかりしてんだから、たまには心配してくださいよ  
 お雪 心配してるよお。雪国生まれの短命な薄幸青年なんじゃないかって  
 オリオ …  
 お雪 あたし、もう二度と故郷の話しないわ  
 オリオ どうして  
 お雪 故郷なんて、思い出すだけ苦痛よ。あんただって、故郷を忘れてしまえば、そんな病気治るかもしれない。いやむしろ、故郷を忘れることでしかその病は治せないのよ。いつまでも、(オリオのズボンのポケットから切符を取り出して)パンチ穴あいてない切符握りしめて…上野駅から飛び出そうとする素振りばかりで、結局飛び出さないの。こ

お雪 あたしだってもういい歳なのよ。あんたはまだまだ若いでしょうけど、重荷だっていうならどうぞお考えなさって。若くていい男には、同じく若くて美しさ有り余る女をあてがうものだと相場が決まっているんですもの。あたしがイレギュラーなのよ。中心があってさらに周縁があります。そこに入ってしまった、宗教でいうところの、聖なるものによる俗への干渉があたしなんですもの…。この場合、どっちも俗だけど  
 オリオ 何言ってるんですか。そういった言い訳で、若い男にプラス3以上の年齢の女がつくと世間の人はすぐ引き離そうとする。大体、あんただっていっほど年寄りじゃないでしょう  
 お雪 女の賞味期限は乳製品よりも早いの  
 オリオ 人間に賞味期限などあるもんですか。そういった考えは、世間にしてもあんたがするのはおよしなさい。ワイドショーやゴシップ雑誌の読みすぎです  
 お雪 若い内はそうやって言えんのよ。まったく生まれたてみたいな肌しやがって…。ねえ、そんな知人に行きあったような関係でもないんだからさあ。あなたの身体中にあるお星さまの数、あたしはキチンと正確に知っているのよ。あなた、自分では

数えたことないでしょう

オリオ 僕だって把握してます。(誇らしげに) 17個

お雪 嘘おっしゃい。それか数え間違ひ。18個です

オリオ 1個はどこに

お雪 あんたの、そのクリクリのお目々：右目の中よ。

ほら、ここ、瞳孔！(指さしていたずらっ子のように) なんちゃってね。自分の目ん玉にあるお星さままでは数えられなかったのね

オリオ …それはお星さまじゃありませんよ

お雪 だから冗談ですもの。お茶目

オリオ 僕、そうしたら、あんたのためだったら：。ええ、

あんたのためだったらなんでも捨てます。親も故郷も：

お雪 あたしは、もう嫌だったんだ。いつまでも、下北

のみじめ子のお雪を引きずるのは。吹雪の中の下北を思い出すと、いつまでも自分がみじめな気がする。だけど東京は素晴らしい(嬉しそうに)。

今までの人生のしがらみが、東京に来ることで初めっからになって：。明日も明るい朝が来るんだって。生まれ変わろうと思えば何度でも生まれ変わることができると。見てごらん、オリオ！

お雪、客席を指さす。ガタンゴトン…と電車の通過する音

が聴こえる。照明暗くなり、星のようにキラキラと電球が光る。

お雪 上野の駅に光る、あれは山手線。向こうは常磐線。

そしてこっちは銀座線。あっちは京浜東北線で、向こうが宇都宮線、日比谷線：。全てつなぐの。すると、見てごらんさい！ 都会の大空に浮かぶ大星座！ 帝都の発展を支えるなんてすばらしく、美しい光景なんですよ！

すると玄関扉を荒々しくノックする音。お雪が急いでドアを開けに行く。すると看守服を着た一人の女が立っている。ズカズカと部屋に立ち入ってきて

青野 みなさん、どうもこんにちは。わたくし、新宿刑務所からやってきました、看守の青野と申します。

どうぞ、お見知りおきを

オリオ なんだって、刑務所の人がこんなところに

青野 あなた方を、刑務所へ収監するためです

なんだって。僕たちは一般市民です。なにかしらの犯罪を働いたこともなければ、かかわったこともございません。第一、刑務所にいれるのなら逮捕状なり、捜査令状なりなんなりを提示してく

オリオ …さっきの話を聞いていたとしか思えない。しかし、故郷を忘れるも忘れないも、まったく個人の自由のはずだ。あたりまえのこととして

青野 いいえ、罪です。己の根源たる故郷を忘れる、ましてや捨てるなどということは、人間の成す所業

ではありません。あまりにも非礼だ

オリオ だからといって、あなたに指図されるおぼえはない(睨む)。大体、なぜ故郷を忘れた者が新宿に収監されるのか

青野 新宿は、故郷を捨てた者の巣窟です。我々はそれを取り締まらなければならぬ、と行動し始めたのです。(声高らかに) 新宿とは、どういった字を書きますか。：。そう、「新しい宿」と書きます。

新宿は、故郷を捨てた者にとっての新しい宿、古き里に対しての新しい宿なわけで、新しい故郷であるのです。上野と新宿、どちらが故郷にとって親しきか：聡明なオリオさん、あなたにはわかるはずです。そういったわけで、我々はあなた方を故郷を捨てた者と認定し、新宿へ収監してしまおうと考えたわけですよ

オリオ 故郷を捨てることは悪ではない

青野 お雪さん、あなたはどうかお考えですか。故郷について、故郷の青森の地について、どうかお考えなの

青野 青野 青野

オリオ 横暴にもほどがある

青野 新宿刑務所は空想上の刑務所だからです

オリオ 空想上の？

青野 ええ、または形而上の、メタフィジカルの

オリオ つまり、新宿刑務所は実際には存在しないということですか

青野 正解です

オリオ 頭がおかしい。狂人だ

青野 いいえ、確かに新宿刑務所は空想上の刑務所です。しかし、その精神というものは存在します。刑務所が成り立つのですから、刑務所に収監される罪人たちがいるわけです。新宿刑務所に収監される人々の罪はこうです。「忘故郷罪」！(ドン…)

オリオ 忘故郷罪？

青野 略して「忘郷罪」なんてもいいですが、故郷を望む方の「望郷」とは違います。とどのつまり、故郷を忘れて東京で生活している者に科される罪です。あなた方はその罪により新宿刑務所への収監をお願いします

ですか

お雪 (少し黙って考えて) …あたしには、なにも言えないです。だって東京ってすごいよ。何もかもが新鮮で、都会的で、夜も眠らないの。故郷と比べるとどうしても…

青野 オリオさん、これが「忘郷罪」の実態です。なんと罪深いことか。己の根源も忘れ、このようにうつつを抜かすとは。故郷を見つめて、故郷のために心置き、生きるべきなのです

オリオ そっだからこと、あなたに指図されることではありませんよ。僕は故郷を忘れちゃいませんし、誇りにだって思ってます

お雪 あたしのために故郷を捨ててくれるんじゃないかったの？(え、という顔で)

オリオ 捨てますよ、捨てます。でも、なんていうか、それでいたって、やはり、忘れる事のできる部分と忘れる事のできない部分があるというか…(髪をかいて難しそうに)

青野 どうなんですか、すっかり捨ててしまうのと、心の中に故郷を描き続けるのでは罪状の程も変わってきます

お雪 ねえ、さっき言ったじゃない。あたしのために捨ててくれるって。すっかり忘れてしまおうって

お雪 の男への未練など捨てきれちゃおらんのだろう  
お雪 あんたはあたしのこと愛してくれんじゃないか

オリオ 愛してますよ。そりゃあもう。でも、やはり僕は、それでもこの切符を捨てずにいられるのと同じように、故郷のことをなんだかんだいって断ち切れないでいるんだ

お雪 そんな切符捨てきってよ!

オリオ いやです。あなたに僕の故郷をその目で見てもらうまでは!

しん…、と静まる。

オリオ 逆に、僕もいつかお雪さんの故郷を、この目で見たいと思っただけです。愛している人がいるなら、その人が、僕と出会うまでの半生をどんなところで過ごしていたのか、知りたいのは当たり前じゃないですか。僕はこの目で見てみたい。下北半島の断崖を。恐山の硫黄のにおいを、私の姿を。故郷を一切捨てるという事は、自分の人生のあらゆるかたを捨てるのと同じことです。その覚悟が、お雪さん、あなたにできているのなら僕はあなたを止めません。しかし僕には、その覚悟がいま

オリオ 言いましたとも! でも、…それと相反して、こ

うしてこんな意味の分からん奴に故郷を捨てたやつだのなんだの言いたい放題言われると、そりゃあ否定したくなりますよ!

お雪 捨てきれないってことじゃない!

オリオ んー!(頭をかきむしり) 違うんです! 捨てるんですよ僕は! でも、こんな、僕の故郷のことを、浜のことも太平洋のことも、人の情けも知らん奴に、故郷を、故郷を捨てようしている僕のことをけなされたのが我慢ならんです! じゃああんたは、自分の故郷のことをいろいろけなされても黙っていられるというんですか!

お雪 ええ、あたしはなんの未練もありませんから…(少し沈む)

オリオ いいや、あんた少し声が沈みましたね。嘘ですよ、それは。いつも酔っ払って、考えないようにしてるだけです。分かってますよ、あんたの癖だのなんだのくらい

お雪 嘘よ、あたしのことなんか興味ないくせに  
オリオ 大体、僕が切符買ったら故郷に帰るって、その心づもりだと口約束したじゃないですか! まったく(呆れて)むしろ言い返してやりたいくらいですよ。僕の気持ちなんか知らず、どうせまだあ

青野 ちできていない。だからお雪さん、どうか煮え切らない僕を許して下さい。故郷をたち切れぬ僕を許して下さい。人生を捨てきれぬ僕を許して下さい

青野 お考えがいろいろおありなのでしょうが、お二方は故郷を忘れようとうつつを抜かしていることに変わりはありません。完全に捨ててしまわないことには私も目を瞑りましょう。しかし罪が多少軽くなった程度です。さあ、収監いたします

オリオ そんな!

青野 あなた方を、空想上の刑務所、新宿刑務所へ強制収監させていただきます!

照明、赤く光る。青野、オリオを羽交い絞めにしようとする。いがみ合っているとふと青野のポケットからなにやらカードのようなものが落ちる。照明一転して落ち着く。

お雪 (拾って) 新宿総合病院…?

オリオ 新宿総合病院? お雪さん、それは何のカードですか(羽交い絞めにされながら)

お雪 病院の診察券よ。「青野杜子」…

すると部屋の大窓がバツと開けられそこにバイクに乗りエ

ンジン音をふかした白衣の男が現れる。バイクの後ろには隅田とヨイチも乗っている。照明再び赤く光る。

**主治医** その女は新宿総合病院から逃げ出した患者です！

彼女は重い病に侵されているのです！ 自らの故郷を根源的な所属と認めず、新たな地、東京は新宿に本当の所属を求めた結果、己の内部の故郷と外部の所属が軋轢を起こし、体内で二律背反を起こすという、恐ろしい病なのです！

**隅田** オリオちゃん！ お雪ちゃん！ 大丈夫？

**ヨイチ** 俺の人間所属論だ！ ハッハァ！ 俺の学問が医療になったぞ！

**オリオ** 患者ですって？（青野を引きはがして）それよりあなたは誰なんだ

**青野** やめなさい！ 私は、あなたを収監しなければならぬのです！（暴れる）

**お雪** （べしっ）と青野の頬を軽くひっぱたく）

**青野** うう…

**オリオ** 引っぱりたい…

**お雪** （少し困惑して）こうでもしないと、止められないでしょ。男はダメよ、女は女がしょっぱくのよ

男がバイクを持って部屋の中に入ってくる。ヨイチと隅田

は青野を抑えている。

**オリオ** バイクは置いてきてください！

**主治医** （聞かず）彼女は！ 自分の所属に嘘をついている！ 己の故郷と所属の分離を進める内に、このような症状になってしまったのです。彼女の出身は、宮城の三陸沖でした。就職のために上京してきた彼女は、東京に地元にはない魅力を感じました。本来はその魅力と己の所属をうまくバランスを保たせて生きてゆくのですが、彼女はそのバランスをとることができなかった。どうせあんな故郷、忘れてしまっても構わないと、三陸の景色を埋没し、新宿に所属を求めたのです

**オリオ** バイクを置いてきてください

**お雪** 本来、己の真の、最深部の所属は故郷であるはずなのに、その所属を偽りの故郷、新宿に求めたことで体内バランスが取れなくなってしまったと

**主治医** （劇的に）そうです！ しかし故郷を忘れたところまではよかったです。東京は彼女を歓迎しました。しかし、この症状を引き起こしたのは彼女自身です

**お雪** なぜ、自ら故郷を捨てたのに  
**オリオ** （男の匂いを嗅いで）あっ、こいつ酔っ払ってや

がる。酒臭い

**主治医** そうなのです！ 自ら故郷を捨てたのに、なぜ自ら所属の病を引き起こしたのか…。（放心状態の青野を支えて劇的に）それはやはり、彼女の心の、本当の奥底の奥底…最深部という表現なんかじゃ足りないくらい奥底、理性や幻覚や無自覚やらも超越した心の、人間の本来持つコスモ的な最深部に、故郷の幻影が消えていなかったということです！

ドン…と深刻な空気。

**主治医** …三陸沖の親潮幻想とでも言いましょうか。奥羽山脈の神話体験とでも言いましょうか

**オリオ** 神話体験…

**主治医** 結局彼女も、捨てきれぬ、親潮内の母への幻想のようなものを故郷に置いてきてしまっていたんです。東京は彼女を抱擁しつつ、彼女の中の故郷は東京とキリキリキリキリ、軋轢を起こしていた。ある日それが、爆発してしまったのです。いわゆるこれも「故郷病」の一種です。治療法はただ一つ、彼女の心の深淵の故郷と、外部の所属の新宿を、一致させることです。新宿総合病院で治療を

続けていましたが、今日未明に抜け出してしまっ  
て…。ようやく見つかったところです。私は彼女の主治医です

**オリオ** 故郷病…。彼女の病名は？

**主治医** 「忘故郷病」！

ドン…。

**主治医** 故郷を忘れると書いて「忘故郷病」です。略して「忘郷病」なんてでもいいですが、故郷を望む方の「望郷」とは違います。とどのつまり、故郷を忘れて東京で生活している者がかかる病ということ  
です

**お雪** こいつがさっき「忘郷罪」なんて言ってたけど

**主治医** 故郷にまつわる病気は、罪も同様です

**ヨイチ** 故郷を忘れることは罪だということか

**オリオ** （声を荒げて）冗談じゃない！ 僕も故郷病なんです。心臓にやませを抱えています

**主治医** なんと

**オリオ** （掴みかかって）しかし僕の場合は、僕と同化してしまいたい故郷が、僕の体内に吹き荒れるためにおこる病です。それが罪だなんて、口が裂けても言ってもほしくない！



場が静まる。

オリオ バイクを外に出せ！

主治医 …お騒がせしました。青野さん、帰りましょう。

また、治療の日々が始まりまますから

オリオ 酔っ払ってんじゃねえ！

主治医 大丈夫です。今日はもう手術ありませんから

オリオ 勤務中に酒を呑むな！

主治医 こわい…青野さん、帰りましょう

青野 故郷には帰さないで！

主治医 大丈夫ですよ、新宿に帰るだけです

ヨイチ 聞いたかオリオ！ アハハハハ！ 俺の学問が、

ついに医療に用いられたぞ！（オリオの方へやってきて）

オリオ よかったですね、ヨイチさん。今度こそ社長やめますか？

ヨイチ バカ言え、俺は一生社長だ！ 勤労万歳！ 俺だって上野駅の金の卵だ！

オリオ （お雪に近づいて）お雪さん！

お雪 なぁに？

オリオ お雪さん、僕はね、今度こそあなたにあげたいものが！

事は良くない方向に進んでいる）

主治医

（バイクにまたがりエンジンを一つふかし）オリオさん！ その故郷病はいつかあなたを殺すだろう！ いつでも新宿総合病院にいらっしやい！

私が主治医になって差し上げますよ！

青野

（突如笑い出して）アハハハハ！

オリオ

（髪をかき乱して）出ていけ！ みんなして出ていけえ！ 俺の故郷から出ていけえ！

ヨイチ

ああ、なんと気の狂った学問だ！ なんと気の狂った飛行学なんだ！

幸三

さあ、お雪、こちらへおいで

お雪

幸三さん…！（窓に近づき、幸三の手を取る）

オリオ

（悔しさをあらわにしながら、なりふり構わず）お雪さん、あなた言ったじゃないですか。僕のと愛してるって…。僕と2人で故郷を捨てて、上野で生きてくれるって！ 本心を言うとは僕はロックの舞台になんか、戻ってほしくないんだ！ お雪さん！ あなたそうやって一生、僕の元から離れるつもりでしょう！

お雪

ごめんね、オリオ。あたしあなたのことも好きよ。それでも、あなたが故郷のこと捨てきれないように、あたしも幸三さんのこと捨てきれないの！（幸三に手を取られて大窓から飛び出そうとフチ

主治医 （思いついたように振り返って）オリオさん！

きつとあなたはいつか、その病でー！

幸三 お雪！

すると勢いよく部屋の大窓（先ほどのバイクが現れた窓）を開けてお雪の慕い人、バーの主人の幸三が現れる。

主治医 誰だお前は！

お雪 （嬉しそうに）幸三さん…！

オリオ お雪さん…（肩を掴んで）誰なんです、あの人

幸三 （じっと前を見て声に抑揚をつけず、まるで幽霊のように）

お雪、俺が悪かったよ。女房とはもう、完全に縁を切ったよ

お雪 本当？（心底嬉しそうに）

幸三 お雪、また俺のところに来てくれるかい？ 俺は、

ロックの舞台で輝いていたお前が好きなんだ。俺のために、浅草ロックの舞台にまた立ってってくれるかい？

お雪

ええ、もちろんよ！ やっぱ戻ってきてくれたのね！ あたし、あなたのためならなんだってするわ！ あたし、あなたのこと、愛してるもの！（照明赤くなる。BGMおどろおどろしく鳴って

に足をかける）

オリオ お雪さん！ …お雪さん！ お雪さん！（お雪に

近づこうとする）

隅田 オリオちゃん！（止めに入る）

すると主治医と青野の乗ったバイクが荒々しくエンジンの唼りをあげる。ヨイチと隅田、オリオのことを掴んでバイクに轢かれぬように体を押さえてその場から離れる。

お雪 幸三さん！ あたし、また立つわ。ロックの舞台

に！ あなたが望むなら！

幸三 お雪、浅草に帰ろう。山の女のお前に、こんな浜

の男は似合わない

オリオ お雪さん！ ああ、お雪さん！ ああ！（悲痛に絶叫するがヨイチと隅田に体を抑えられている）

すると一瞬の暗転、切り替え。お雪の服はロック座のステージ衣装に変化している。照明は怪しく煌びやかに妖艶に光り、主治医のバイクはイルミネーション電球が点灯する。サックス奏者やギター奏者がお雪の周りに控える。帽子を深くかぶり、まるで幽霊のようにゆらゆらと揺らめいている。

オリオ お雪さぁん——！

オリオの絶叫とともにすぐに暗転。しばらくの静寂。天井のイルミネーションだけがチカチカと点灯、光っている。デカダンスな雰囲気の中、お雪だけを薄く赤い怪しい照明がピンスポしている。低く地底からジンタのように「浅草の唄」が流れてくる。

へ池に映るは 六区の灯り

忘れられない 宵の灯よ

泣くなサックスよ 泣かすなギター

明日も明るい 朝が来る

あぁ 浅草の 良い灯り：

《第三部》

幕間 鳩Ⅱ

鳩たちがまた餌をつついていてる。

「東京の灯よいつまでも」の歌が歪みながら流れている。

鳩1 なぁ、鳩

鳩2 なんだい、鳩

鳩3 二度目の東京オリンピックも、いよいよ近づいて

鳩4 不安も懸念も

鳩5 手放しには喜べないな

鳩1 いやぁ、キレイだ(空を眺めて)

鳩2 やっぱり、上野から浅草へ行く

鳩3 下谷かっぱ通りから見るとスカイツリー

鳩4 すてき

鳩5 すてき

鳩1 浅草はすっかり外国人にも人気の観光地として

鳩2 すばらしいじゃないの

鳩3 上野にも外国人がたくさん

鳩4 アメ横

鳩5 上野動物園

鳩1 美術館に

鳩2 不忍池！

鳩3 東京オリンピックに向けて

鳩4 整備はすすむさ

鳩5 上野駅もおしゃれに：

鳩1 いや、言ったらう

鳩2 東北へ行き帰りする虚空のコンコースだけは

鳩3 あの頃のままさ

鳩4 ぼっかり空いてんだ

鳩5 殺風景にな

鳩1 やっぱり彼らは

鳩2 まださ、まだ取り残されてんのさ

鳩3 時代は変わりに変わったのさ

鳩4 忘れられんのさ

鳩5 上野駅のかつての栄光が

鳩1 上野駅は東北人の心の駅

鳩2 へ上野は俺らの 心の駅だ

鳩3 「あゝ上野駅」で井沢八郎も歌ってたじゃないか

幻聴のように「あゝ上野駅」が小さく流れてくる。鳩たち、上を見上げる。

鳩4 この歌がどんなに東北人の心を励ましたか

鳩たち へ集団列車にゆられて着いた

遠いあの夜を思い出す

上野は俺らの心の駅だ

配達帰りの自転車を

とめて聞いている国なまり：

(楽し気に合唱する)

鳩1 東北人の上野駅に対する並々ならぬ思いを歌った

井沢八郎：

鳩2 青森県弘前市で生まれ

鳩2 なんだい、鳩

鳩3 二度目の東京オリンピックも、いよいよ近づいて

鳩4 不安も懸念も

鳩5 手放しには喜べないな

鳩1 いやぁ、キレイだ(空を眺めて)

鳩2 やっぱり、上野から浅草へ行く

鳩3 下谷かっぱ通りから見るとスカイツリー

鳩4 すてき

鳩5 すてき

鳩1 浅草はすっかり外国人にも人気の観光地として

鳩2 すばらしいじゃないの

鳩3 上野にも外国人がたくさん

鳩4 アメ横

鳩5 上野動物園

鳩1 美術館に

鳩2 不忍池！

鳩3 東京オリンピックに向けて

鳩4 整備はすすむさ

鳩5 上野駅もおしゃれに：

鳩1 いや、言ったらう

鳩2 東北へ行き帰りする虚空のコンコースだけは

鳩3 あの頃のままさ

鳩4 ぼっかり空いてんだ

鳩3 東京都台東区

鳩4 上野は永寿総合病院で死んだ

鳩5 なんと運命なことだ

(「あゝ上野駅」フェードアウト)

鳩1 それで、東北の奴らは上野からどこへ行ったんだ

鳩2 上野駅は停車駅になったのだ

鳩3 え

鳩4 上野駅は停車駅になり、終着駅は東京駅になった

鳩5 のさ

鳩1 仕方がない、仕方がない

鳩2 旧式の在来特急は廃止され

鳩3 新幹線になった

鳩4 もう、上野は俺らの心の駅さ、なんて言わない時

鳩5 代が

鳩4 来てんのにさ

鳩5 誰もみようとしない

一瞬静かになる。列車の通過する音。

鳩1 あ、また呼んでるよ

鳩2 本当だ。上野駅まで北風のせて

鳩3 故郷が鳴いてるよ

鳩4 帰ってこい、帰ってこいって

鳩1 ポーツ！ ポーツ！  
鳩2 またこいつ、すぐ鳴くんじゃない！  
鳩3 まあ、鳴かしてやれ  
鳩4 井沢八郎の様に  
鳩5 彼らもまた上野で死ぬのか？  
鳩1 それは鳩にもわからない  
鳩2 鳩にもわからない：

静かに暗転になる。

## 第六幕 花巻のセロ

上野駅のホーム。オリオが木製のベンチに深刻そうに座っている。酒瓶を右手に持っている。やつれているようだ。うつむいていたオリオだが、ゆつくり顔を上げて語りだす。

オリオ 春が去って夏、夏が去って秋、となりました。お雪さんはあれ以来、僕の家に来てくれることはありませんでした。：聞かぬようにしていた風の噂で、ロック座の舞台にお雪さんが再び立っているとか、立っていないとか：。これほどの絶望がありますでしょうか。恋に関わる女の怨念が三

オリオ、酔いも手伝ってすっかりまいってしまっている。すると一人の女が現れる。ベンチに座り、本を取り出して雄弁に詩を詠むように語る。

セロ 「あなたの方から見たら ずるぶんさんたんたる けしきでせうが わたくしから見えるのは やっ ぱりきれいな青ぞらと すきとほつた風ばかりで す」：『眼にて云ふ』より：（ページをめくる）  
「なぜ辞めたんですか。ぼくならどんな意気地な いやつでも のどから血が出るまでは叫ぶん ですよ」  
：『セロ弾きのゴーシュ』より（ページをめくる）  
「さあ なみだをふいてきちんとたて、もうそん な宗教風の恋をしてはいけない」  
：『春と修羅』より：  
宮沢賢治：（汽車のポーツという音が一つ）

オリオ （興味をそそられたように）なにが宗教風の恋な もんですか。あの人は：  
セロ …あ、ごめんなさい  
オリオ あんた、岩手の人ですか。賢治なんか愛読書にし て  
セロ そうよ。岩手。イーハトーヴ出身なの

世界を渡って、地獄煉獄天国全てを渡り切っても 終わることがないのだと、お雪さんはそう言うて ました。はは：（小さく笑って）お雪さん、女の 怨念など、総じてたいしたものじゃない。情にま つわる怨念は、男も女も同じです

オリオ、小さく泣き出す

オリオ お雪さん、どうです。僕は。小さい男でしょう。 なよなよして、女みたいでしょう。いや、男なん て女よりも弱い生き物ですよ。ううん、怨念でさ え男女の垣根を超えるのだから、男と女の違いな んて根源からないのかもしれない。一度はあなた に恐山の仏様まで重ねたんだ。エミール・デュル ケムの聖俗二元論。やっぱりあなたは聖なるもの で、僕は俗の人間です。お雪さんが幸せならば、 それに越したことはありません。僕はいつも、自 由奔放、傲岸不遜なあなたを愛していたのですか ら。でも、それを言い訳に僕だけが犠牲になろう とするのは美談でこそあれ不条理です。人間のサ ガ悲し、です。では、どうしたらいいのか、と問 うと：（一呼吸おいて）それは分からない……

オリオ そうですか：花巻の人ですか  
セロ イーハトーヴって言って頂戴（きつめに）。

オリオ …あらごめんなさい私ったら：  
別に構いませんよ：

セロ あなたはなぜこのホームにいるのかしら  
オリオ ……  
誤ったことをきいたかしら  
いえ、別に：。僕の恋人が、このホームから出る 列車の行き先の人だったんです。青森の。だから 僕はいつも、このホームに来ると彼女の故郷の風 を感じる事ができました。お国訛りから、足音 まで。冬は雪のシンシンと降る音……

セロ 青森あたりはシンシンなんかじゃききませんよ。  
ビョオオオオオ！ ってですよ  
オリオ そうなんですか。行ったことがないもんでわかり ませんでした。僕んとこじゃシンシン……って感じ だったんですけど  
セロ 岩手も同じ感じでしたから、冬なんか大変でした。 生きるか死ぬかって……

オリオ そりゃあ大変だ。：そんな中を、お雪さんは一人 で生きていたんだ：  
セロ （びくっと反応して）お雪……？  
オリオ …ええ。まあ、今はちょっと事情があって……

セロ お雪？ 青森訛りの？  
 オリオ ……なんか僕、誤ったことを言ったかしら  
 セロ あぁぁ！！（急に取り乱して）  
 オリオ ど、どうしたんです  
 セロ あの女！  
 オリオ お雪さんがどうしたってんです  
 セロ ねえ、今あの女はどこにいるの！  
 オリオ 落ち着いて下さい！ お雪さんとあなたは、どう  
 いった関係なんですか。まずは落ち着いて下さい。  
 ヒステリーにならないで

オリオ、一度セロを落ち着かせベンチに座らせる。セロ、  
 興奮しきつたようだがオリオの促しに頷く。

オリオ いったん落ち着いて下さい。ああ、こうやって女  
 の人をなだめるのも久しぶりです。お雪さんとあ  
 なたがどういった関係か…いや、その前に、あな  
 たがどういった人か教えてください…

セロ （息を荒げて少し落ち着いてから）私はセロ。二  
 十歳のとき、故郷の岩手は花巻から上野駅へ、そ  
 して今は結婚して浅草に住んでいます

オリオ はい

セロ 夫は浅草六区のバーで店主をしています。こちら

に出てきて、仕事帰りに同僚に誘われて入った店  
 で出会いました

オリオ なんだか聞いたことのある話だ  
 セロ 結婚して6年。子供がいなかったのがそうさせた  
 のか、いや、彼は元々そういう人だったのね。

浮気癖と放浪癖がありました。そうして3年前、  
 私は彼と浮気のことで大喧嘩しました。私はもう  
 辛抱たまらないと、故郷花巻へ帰りました。だけ  
 ど本心では、許してくれ、もう二度としないから、  
 君を愛してるんだ、と追いかけてほしかったのか  
 もしれない。この20番ホームで、私が列車に乗ろ  
 うとするとところを、ぐいと腕を掴んで引き戻して  
 ほしかったのかもしれない。だけど、彼がこのホー  
 ムに来ることはありませんでした。それどころか、  
 彼はしめたとばかりに、浅草に新しい女を作って  
 いました。私は失望しました。彼の態度はいつも  
 コロコロ変わって、結局私は浅草に戻ってきました  
 たが、新しい女を恨みながら…彼の心変わりを待  
 ち続けて、花巻へただ帰っていることもできず、  
 だからといって浅草に居場所もなく…そうしてあ  
 る日、ようやく探して当てた彼の愛人の内の一人の  
 名前、出身地。名前はお雪！ 出身は青森！

オリオ ……お雪さん！

出しページをめくり読む。（実は第二幕の「不気味な女」  
 はセロである）

セロ 「月は水銀 後夜の喪主 火山礫は夜の沈殿 火  
 口の巨きな匂ぐりを見ては たれもみんな懼くは  
 ずだ 鉛筆のさやは光り 速かに指の黒い影はう  
 ごき 唇を円くして立つてる私は たしかに気  
 圈オペラの役者です」…

オリオ 「わたくしといふ現象は、仮定された有機交流電  
 燈のひとつの青い照明です」

セロ 宮沢賢治の「春と修羅」…彼が生前に刊行した唯  
 一の詩集。その中の「東岩手火山」という詩。彼  
 は岩手を表す多くの作品を発表したけれど、私は  
 これが好き

オリオ 岩手山…

セロ （立ち上がって雄弁に）「さあ、みなさん、ご勝手  
 におあるきなさい。向ふの白いのですか。雲ぢや  
 ありません。けれども行ってごらんください。まだ  
 一時間もありませんから。私もスケッチをとります…。  
 （スケッチする真似をして）はてな、わたくしの  
 記帳の書いた分がたった三枚になってゐる。殊に  
 よると月光のいたづらだ。（上をみる。すると照  
 明は月の灯りのように薄く綺麗に揺らめいている）

セロ 敬語はよしてよ。あなたの名前は？  
 オリオ オリオだ。オリオン座の、オリオ  
 セロ そう…オリオン座の…

一瞬静寂が流れる。列車が吹き抜ける音がする。照明だん  
 だん暗くなつていき、星空のようになる。本を急いで取り

藤原が提灯を見せてゐる。ああ頁が折れ込んだのだ。さあでは私はひとり行かう。外輪山の自然な美しい歩道の上を月の半分は赤銅（しゃくどう）、地球（アースシャイン）……

オリオ（うっとりとして）なんとも美しい。目の前に雄大な岩手山に、日暮れの夕日がさしかかるのが見えるようだ……

セロ あなた、詩人ね

オリオ 思ったことを口に出すのがうまいだけさ

セロ いいえ、東北の厳しいだけでなく孤独な寒さも、この東京でイメージするには大変な想像力だわ

オリオ あんたもだいぶ学者的だな

セロ 小難しい話が好きなの

オリオ トリは飛ぶとき飛行学で飛ぶが、あんたは飛ぶとき何学で飛ぶんだ？

セロ え？

オリオ いや、僕の会社の社長が言ってたときさ。人は誰しも、自分だけの学問で飛ぶんだって

セロ ふふふ、面白いこと考える社長さんのね

オリオ 僕はいつも、学者になればいいって言ってるんだ。聞かないけどね

セロ そうね、私だったら、言語学で飛ぶわ

オリオ 言語学

セロ そう。言葉の羽で飛ぶの

オリオ 言葉の羽

セロ なんでもかんでも反復しないでよ

オリオ 聞き慣れないもんで

セロ 賢そうな顔して いやあ、そっだからことは

セロ 少し顔色よくなってきた。私最初あなたのこと見た時、幽霊見たかと思ったもの

オリオ 幽霊？

セロ 生気がなくなってさあ。それほど彼女のことがショックだったのね

オリオ そりゃあ、そうさ。あんただったら分かってくれるだろ

セロ 分かるわ。本当に、よくわかるわ

オリオ なんだかあんたは、お雪さんとは正反対の人だ。

あの人は感情的すぎるんだ。いや、論理的な感情表現というか……。だからいつも、苦しめなくていい自分を苦しめている。僕はそれをどうにかして救ってやりたかったんだけど……。（立ち上がって）あの人が故郷に抱いている恐れや尊敬なんかを取っ払って、一度素直にさせてやりたかったんだけど。生まれてからこの方、酒なんかに隠して持っていたんだ。酔っ払ってるふりして、自分でもどうし

セロ わけわかんないこと言ってる

カラン、カラン……とグラス同士がぶつかり合うような、幻想的な音が聴こえてくる。星空のような照明がきらめく。

セロ （客席に向かって雄弁に）「それではもう四十分ばかり 寄り合って待っておいでなさい、さうさう、

北はこっちです 北斗七星は いま山の下のの方に落ちてゐますが 北斗星はあれです それは小熊座といふ あの七つの中なのです。それから向ふに 縦に三つ並んだ星が見えませう 下には斜めに並んだ房が下がったやうになり 右と左には赤と青と大きな星がありませう あれはオリオンです、オリオンです ああ房の下あたりに 星雲があるといふのです いま見えません その下のは大犬のアルファ 冬の晚いちばん光って目立つやつです 夏の蠍とら表です」……

オリオ ……もう少し続けてください。この上野駅プラットフォームの天井が岩手の澄み切った星空に見えてくるまで

セロ 「二十五日の月のあかりに照らされて……

オリオ そうだ、ヨイチさんの言う通り、あのオリンピックが敗戦国の首都にやってくる。先の戦争に敗れ

セロ ひどいのね、そのお雪さん。そんなにあなたに愛されていて

オリオ 分かる気はするんだ。「あなたが故郷を捨てきれないのと同じように、私もこの人を捨てきれないのよ」って……。人の心なんか、そう簡単に変わってたまるか。理解してはやりたいんだが……

セロ でもお雪さんは、きっとあなたのことも十分に愛していると思うわ

オリオ 本当に勝手な人だ

セロ でもそこに惹いてんでしょ

オリオ ……恐山のマリア様だからな（ベンチに座って二人、肩を並べる）

た日本に世界交流への参加という名の希望の光が灯された今、僕だって決して希望だとかなんとかを捨ててはいけないのだ

**セロ** 「薬師火口の外輪山をあるくとき わたくしは地球の華族である 蛋白石の雲は遥にたゝえ オリオン、金牛、もろもろの星座 澄み切り澄みわたって 瞬きさえもすくなく わたくしの額の上にかがやき さうだ、オリオンの右肩から ほんたうに銅青の壮麗が ふるえて私にやって来る」：

カラカラン…と音続く。ゆつくり暗転。

## 第七幕 故郷叙述詩

カラ、カラン…という音は続いている。幻想的な音の中、天井のイルミネーションが今度は澄やかに、美しく光っている。足元にはドライアイスの煙。白い服を着たヨイチが舞台の右側で、薄いピンスポを当てられている。この章では人物はピンスポのみによって照らされる。

**ヨイチ** どうだい。この星空は美しい、函館の満点の星空さ。この景色にや、どんな宝石も知識もかなわねえ。

**ヨイチ・お雪** 「潮かをる 北の浜辺の砂山の かの浜薺 薇よ 今年も咲けるや」

同じく白い服を着たお雪が舞台の右上に現れる。ヨイチとお雪、声を合わせて短歌を詠む。セリフの時のみヨイチと同じように薄くピンスポで当てられる。

**お雪** 潮のかおる北の浜辺の砂山の、あの浜のハマナスの花よ。今年も美しく咲いていることだろうか：（お雪のピンスポ消える）  
**ヨイチ** （お雪の方を見ていたが前を向き直って）啄木座像にの台座刻まれている、函館追慕の情を歌った短歌。とある縁により、青森県上北郡野辺地街の愛宕公園の啄木歌碑にも刻まれている。岩手から函館へ、函館から青森へ…なんとも土地の縁とは不思議なものだ

ヨイチのピンスポ消える。次は左側に薄くピンスポ。青野が立っている。

**青野** まあ、なんと美しい星々でしょう。私の故郷の宮城、三陸沖は世界三大漁場のひとつとも言われて、ひとつはノルウェー沖、もうひとつはカナダ・ニュー

（一呼吸おいて）函館山に登ってみる。恐ろしく美しい夜景が見れる。鳥賊漁の船の漁の光が赤々と輝いて、遠くには青森は大間の灯りも見えるのだ：

**ヨイチ・セロ** 「ふるさとの訛り懐かし 停車場の人ごみの中に そを聴きにゆく」  
同じく白い服を着たセロが舞台の左側に現れる。ヨイチとセロ、声を合わせて短歌を詠む。セリフの時のみヨイチと同じように薄くピンスポで当てられる。

**セロ** 東京で暮らす中、故郷の岩手訛りが聴きたくなつた。東北往きの列車の発着する上野駅、人ごみの中へ入っていく。東北へ帰る人、東北から来た人がいるのなら、必ず故郷の岩手弁が聴けるはずなのだから…（セロのピンスポ、消える）

**ヨイチ** （セロの方を見ていたが前を向き直って）岩手県出身の詩人、石川啄木が上野駅で郷愁の気持ちで歌った短歌だ。函館には啄木小公園というものがある。かつてはハマナスの花が咲いていた大森浜と、その砂山を愛した啄木の座像が、函館山を背中にしよって設置されている。そしてその目は、目の前の津軽海峡を悠然と、眺めているのだ：

**セロ** ファンドランド島沖のグラッドバング、そして三陸沖、石巻の金華山沖漁港。なんでも、親潮と黒潮をぶつからせて、太平洋で渦巻いて見せるんだもの

**セロ** でもあんた、三陸海岸ってのは岩手にだって福島にだって広がってんだ（同じように白い服を着て、左側に胡坐をかいている）

**セロ** 三陸様を独り占めしようたって、あたしが許さないわよ（ピンスポ消える）

**青野** 親潮海流と黒潮海流を…（ピンスポ消える）  
**お雪** （ピンスポ）じゃあ、あんたの故郷の、心臓のやませに誓いなさい。いつかその親潮をかっさばいて、黒潮と三陸沖でぶつかって御覧なさいと。そしたらこの、仏の酒乱のお雪が、あんたの心を浄土につれていきましようよと…

オリオ、何かに気が付いたようにハツとしてあたりを見渡す。しかし静かにピンスポ消えるしばらくの暗闇の後、中央に薄くピンスポされたお雪が立っている。お雪はマリアヴェールをかけており、しばらく黙っている。そうしてふいに口を開く。

**お雪** …「亡き母の 真っ赤な櫛を埋めに行く 恐山に

は 風吹くばかり」：

「下北半島は、斧の形をしている、斧は、津軽一帯に向けてふりあげられている」

私は故郷のことを思い出す。どの記憶もあせきって、はげた青写真にこそなっているけれど…。風のよく吹く、だだっ広い野っばらだったわ。恐山には硫黄の匂いが立ち込めていて、地獄なんて言われるのももしかしたらこの硫黄の匂いと、ゴツゴツした灰色の岩山からじゃなかった。空の景色はきれいだけれど、余りにも浮世離れして殺風景なのよ。水子供養の風車でもなきや、色がないんだから。何本とある卒塔婆をくぐって、スキの穂を結んで、鬼を転ばせるの。いつかあたしも、死んだらこのお山に眠るんだって、思いながら。他にも、あぁ、あったなぁ。仏ヶ浦の大きな岩。如來の首に、一ツ仏、十三仏観音岩、蓮華岩、地藏岩、極楽浜…。あと尻屋崎灯台、塩屋崎じゃないわよ。津軽海峡の道しるべ。アタカと呼ばれる牧草地には寒立馬かんたちまっていう寒さと粗食に耐える馬がね、放牧されてるのよ。いつも思っていたものだよ。東北の短い夏を、せいっぱいに輝かせるあの熱気…。あの匂い、風、全てが懐かしいわ。今でもふとした瞬間に鼻をかすめるの。…だけれども

幼馴染のあの夢この夢

ああ誰か故郷を想わざる

お雪にもピンスポついて、ふたり、静かにお互いの顔を見合わせる。

お雪 誰か故郷を想はざる…その歌、歌っているのは

オリオ 僕の故郷の人です。「誰か故郷を想わざる」は戦

時歌謡曲です。故郷を思う気持ちを歌ったもので戦地の兵士などにもよく歌われていましたが、士気が下がると禁止されていたこともあったそうです。望郷の念は、士気さえ下げてしまうのです。

郷愁・望郷…人間の理性をも超えた、故郷への羨望は一体どれほどまで測ることができなのでしょう。(お雪の方を見て) それにしても同名の、「誰か故郷を想はざる」…その本を書いたのは

お雪 あたしの故郷の人よ。有名になった後も青森訛りの抜けなかった、孤高の詩人。(本を読む)

『私と母とは青森市の浦町の駅の裏の下宿屋の二階で暮していた。』

私は「誰か故郷を想はざる」という歌が好きで、よくそれを歌った。(ページをめくる)

『霧島昇の声がまのびしてくると、蓄音器のハン

も、ねえ。思い出すこともないかしらと思ったり、意外とあるものね。今はただ、懐かしいわ。懐かしいわ…

お雪、静かに目を閉じる。しばらくして本を取り出し、詩の朗読の様に

お雪 誰か故郷を想はざる…

『私は1935年12月10日に青森県の北海岸の小駅で生まれた。しかし、戸籍上では翌36年の1月10日に生まれたことになっている。この20日間のアリバイについて聞き糺すと、私の母は「おまえは走っている汽車の中で生まれたのだから、出生地があいまいなのだ」と冗談めかして言うのだった…』

お雪のピンスポ消える。すると今度はオリオに薄くピンスポが当てられる。

オリオ 誰か故郷を想わざる…(急に歌い出して)

〽都に雨の降る夜は  
涙に胸もしめりがち  
遠く呼ぶのは誰の声

ドルをまわす。ハンドルがキュッキュツという音を立てて、またもとの速度へもどる。

「幼なじみの あの友 この友 ああ 誰か故郷を想はざる」(本を閉じる)

―そして故郷に対しての複雑な気持ちを書いた自叙伝のタイトルに、それを選んだんだ

オリオ・お雪 誰か故郷を想はざる…

二人のピンスポ消える。汽笛の音、一つ。鳩たち、顔だけを袖から出して

鳩1 上野駅がまた鳴いている！

鳩2 帰ってこい、帰ってこい！

鳩3 ポーッ！ ポーッ！

セロ (ピンスポ。横を向いて顔は見えない)「蛋白石の

雲は遙にたゞえ オリオン、金牛、もろもろの星座 澄み切り澄みわたって 瞬きさえもすくなく わたくしの額の上にかがやき さうだ、オリオンの右肩から ほんたうに銅青の壮麗が ふるえて私にやって来る…ほんたうに銅青の壮麗が ふるえて私にやって来る」…

カラコンロン…と星のぶつかる音大きくなり、また静かに暗転。すると暗転中、列車の通過音がする。

## 第八幕 夢をみる

列車の通過音の後、静かに明転すると、そこは上野駅のホーム。木製のベンチにオリオが横たわっている。その横には主治医が立っている。オリオ、静かにゆっくりと目を覚ます。

オリオ ……  
主治医 目を覚ましましたか  
オリオ ……  
主治医 オリオさん、目を覚ましましたか  
オリオ ……夢を見ていました  
主治医 なんの  
オリオ 見たこともない列車が…  
主治医 例えば？  
オリオ 「はやて」っていう名前の…特別急行列車…、東京駅から上野駅に停まり、郡山駅、北上駅、新花巻駅、盛岡駅など、そして八戸駅やら新青森駅、

オリオ ……（目を見開き、静かに呼吸を抑えてはいるが、すっかり正気ではないように）  
主治医 ……  
オリオ 上野駅始発、青森駅行きの寝台特急列車「あけぼの」…

主治医 2014年に廃止されています。  
オリオ 上野駅始発、札幌駅行きの寝台特別急行列車「北斗星」…  
主治医 2015年に廃止されています。その後、後継として上野駅始発、札幌駅行きの「カシオペア」が1999年から運行していましたが、2016年に廃止。その後は新幹線「はやぶさ」が運路を担っています。始発は上野駅ではなく東京駅です

オリオ ……夢でも見てるんでしょうか  
主治医 ……夢でも見てるんでしょうね  
オリオ 僕は、まだまだ希望を持ってなきゃいけない。故郷から上野に着いた時と同じくらいの大きさの希望を…。だって僕は、まだ、まだ若くて、まだ、まだ夢の途中だ…

主治医 ……

主治医 奥津軽いまべつ駅に行き、新函館北斗駅まで…

オリオ ……はて、そんな列車ありましたかな  
主治医 あったんだよ、あったんだ。この目で見たんだ。しかしそれは上野駅始発ではなかった。東京駅始発の…

主治医 オリオさん。（優しく）夢ですよ。それは、夢を見てるんです、あなた。「はやて」なんて列車は…（目を見開き、正常ではない様子で）

オリオ ……お雪さんに、切符を買ってあげようと思ったんです。青森駅行きの…。上野駅始発で、青森駅まで行く特別急行列車「はつかり」の…

主治医 オリオさん  
オリオ ……そしたら、なかったんです。なかったんだよ「はつかり」の切符。おかしいと思いホームに立ってみたが、いくら待っても、停車するのは「はやて」ばかりで、「はつかり」は永遠に来なかった…

主治医 オリオさん。（オリオの肩に手を置いて）  
オリオ ……そりゃそうですよ。だって「はつかり」は、2002年に廃止になったんですから

静寂。

主治医 1958年からの大往生、東北新幹線が八戸まで

オリオ ……ねえ、東京タワー。僕まだ上ったことないんです。

オリオ ……おかしいですよね、せっかくお膝元に住んでいるのに。ああ、そうです。上野から浅草に行く、下谷のかっぱ通り、あそこから見える東京タワーの姿のなんとかっこいいことか。隅田川の通りを歩きながら、いつか上ってみたいとは思っていましたが。何度もヨイチさんに連れて行ってやると誘われましたが…。東京タワー。ねえ、今度オリンピックも始まりますし。東京で、初めて、世界のオリンピックが…。東京で…  
主治医 ……そうですね。オリンピックがまた、東京にやっきますね

オリオ ……（しばらく沈黙して）…また…？

主治医 ……オリオさん。これで東京にオリンピックがやってくるのは、2回目なんですよ

オリオ ……  
主治医 ……あとですね、オリオさん。東京タワーがあるのは、港区です。どうして、この台東区から東京タワーが見えるんです？

オリオ ……  
主治医 ……きつとあなたの見ている東京タワーは、青いでしょ。上野から見る東京タワーは、青いでしょ。きつと、空の色をしているでしょう



オリオ  
……

**主治医** 上野には上野の時間が流れます。浅草には浅草の時間が流れます。墨田時間、新宿時間、または三陸時間、盛岡時間、函館時間：ポッポポッポ、はとポッポ：（鳩たち、柱の後ろから次々顔を出す。そしてすぐ消える）

だからオリオさん、あなたはまだ、上野時間で生きています！ あなたが生きているのは、上野駅の栄光の時間！ それはすべからく時代と逆行しながら、老いてゆく老いてゆく……

オリオ、歩いてホームの柱に手をつけて寄りかかる。静かな空気の中で、一つ一つ声を振り絞る。

オリオ

……僕は……上野駅の金の卵です。就職列車に揺られて着いた……。今でも思い出します。15歳の時、東京への希望を胸いっぱいにつめながら……。どんどん都会になっていく移ろう景色を列車の中で眺めながら……。不安と緊張で張り裂けそうになりながら降り立った、上野駅のプラットフォーム……。東北訛りの人々をかきわけながら歩いた巨大なコンコース、そこには集団就職先の経営者が若者を迎えに来ていて……。僕もヨイチさんに迎えに来ても

**主治医**

（目には薄く涙が浮かび、唇は震えている）  
……1994年、上野駅に設置されたモニュメント「故郷の星」……。美しい、美しい星だ。上野駅の一等星！ 故郷の星、ここにあり！  
……さあ、また夢を見ましようね。私も一緒に見ますから……

オリオ

（薄く唇をかみしめ、静かにうつむく）  
列車の停車する音。たくさんの人が電車から降りる音。そして静かに暗転……

## 第九幕 切符のゆくえ

オリオの部屋のセット。しかしセットの外でお雪と隅田、青野が話している。

お雪

わかってんのよ、あたしだって。そりゃあさ、上野と浅草行ったり来たりしてる人間だもの。上野と浅草じゃ、全然時間の流れ違うんだから

隅田

やっぱり、そうなのね

お雪

上野時間と浅草時間の時差を考えて行ったり来たりしてたんだから。戦前から映画街・演芸劇場街

らって……。変わりません。……僕の上野駅の記憶は、変わりません。僕の中の上野駅は、いつまでも栄光の中にある……。北の行き止まり、上野駅：変わらないんです：ずっと。変わらないいたら：、変わらないいたら……

**主治医** ……そうです。何も変わりません。あなたはただ、上野時間の中で生きています。上野に生きている人間はみな、その時間の中で生きています……。だから幻聴のように聴こえてくるのでしょうか？ 何十年も昔の歌謡曲「あゝ上野駅」が……

オリオ

……

**主治医** オリオさん。上野駅は、何も変わってませんよ。ほら、見て御覧なさい

すると現在のの上野駅の雑踏の音、電車の到着、出発する音、人々の声が聞こえてくる。そしてその中には、16・17番線発車メロディ「あゝ上野駅」が……

オリオと主治医、呆けたように空を見上げる。  
そこには、上野駅にある「故郷の星」モニュメントが突如現れ、美しく輝いている。

オリオ

……仰ぎみれば 故郷の星 ここにあり  
きらめく星 ふれあいの星 わが心をうるほす……

として発展して、昭和の名スターを生み出した六区だけど、もうとつくの昔に浅草東映劇場なんて存在しないし、新劇場だって、浅草スカラ座、浅草宝塚劇場、もうなんもありゃしないわ。取り壊されちゃったり移転したり。浅草六区は映画館や劇場が並ぶ興行街だったけれど、2002年には最後の映画館が取り壊されて、もうその実質はないもの

隅田

ロック座は？

お雪

あるわよお、今も。だからこうして働いてんじゃない

隅田

これは失敬

オリオは、上野から出やしないからね。上野時間で生きている内に時代錯誤してんの。浅草じゃあもう二度目のオリンピックに向けて整備も進んでるってのに、上野じゃあまだ一度目のオリンピックも迎えてないんだもの……。何が「はつかり」よ。そんな列車、とつくの昔になくなってんのよ。でも上野駅からは、今でも「はつかり」が発売したり停車したりしてるのよ。就職列車だって停車してんだから

隅田

お雪

やめてよ、怖いこと言わないで  
新宿じゃ、今は2045年です

青野

お雪 新宿時間は、だいぶ未来ね。ねえねえ、2020年の東京オリンピックは、どうなったのよ

青野 それは：

隅田 お雪ちゃん、やめましようよ。だって上野のあたし、まだ一回目の、1964年の東京オリンピックも迎えてないのよ？ それに2045年を迎えるまで、あたしこの上野で生きてるかもしれないでしょ：

お雪 わたし、オリオに嫌われたかしら（突っ伏して）嫌われてはないわよ

隅田 だといいんだけど

お雪 あんまりあそぶのもかわいそうよ

青野 分かってるわよ

お雪 今は何してるの

お雪 もう、愛想つかして出てきちゃった。だってあの人、あんなにあたしに戻ってきてほしいって言うっておきながら、いざ戻ったら家に帰って来やしない。あたしはたまたま順番が回ってきただけだったんだ。あたしももう若くない。愛に恋に生きるには、もういろいろフカしてんだ。あたしは幸三さんのこと愛してたけど、やっぱり幸三さんは、あたしのことそんなに愛してくれてないんだわ。泣き言言わないの、自分から進んでいった道じゃ

ない

お雪 あたし、オリオのことどれだけ傷付けたか

隅田 そりゃあね

お雪 酔っ払ってるふりなんてしちゃって。雪国生まれの小心者なのよあたし

隅田 純粹だったオリオちゃんに、お酒に煙草にいろいろ教えてさ

お雪 かわいいんだもん

隅田 あんたに人生変えられるくらい、オリオちゃんがどんなに思い慕っていたか

お雪 なんて、あたしオリオのことあんなに変えてしまおうと思っただらう

隅田 オリオちゃんに、故郷を捨てるだの迫ったのは悪い女だったわねえ

お雪 うう：

隅田 あんたは浅草時間に生きてる人間だもの。そりゃあ、上野は俺らの心の駅なんていわれてもピンとこないですよ。オリオちゃんがどれだけ上野駅に情を寄せてるか、故郷にどれだけの思いを寄せてるか、あんたはっ、わかっただけのよ！！

お雪 あたしが悪うございました：

隅田 あたしだって上野に生きてる人間だもの、オリオちゃんの生きてる時間と同じ人間だもの、古臭い

お雪 んのね  
かもね  
もう、煮え切らない女！ あたしそういう女大っ嫌い！

隅田 あんたはどうなのよ。これだけ故郷から呼び出しの汽笛ポッポポッポって鳴らされといて、帰らないの？

お雪 私は、まだ治療があるもの。一度は所属を東京に

青野 決めたんだから、そう簡単には帰れないわ：

隅田 故郷は母のようですからね。いつでも帰ればいいよ

お雪 だけどあたしの方からオリオの元に行くのも気が

ひげんだ

青野 男の元へも、故郷のようにいつでも帰ることができればいいのね

お雪 やめてよ。そうやって責めんの

隅田 そういつて、いつまでもオリオちゃんのアパートの外でウジウジしてんの

お雪 勇気出ないんだ

隅田 おわびの酒瓶抱えたまま、こんな冬の寒い日にこ

こで何時間たったのさ

するとかき消すように列車の音。上野駅の出発アナウンスが聞こえてくる。

お雪 あーあ、ほら。あたしの故郷がまた急かすわ。帰ってこい、帰ってこいって：

隅田 あたしにゃなんも聞こえないけど  
急かさなくたっていつかは帰るわよ。オリオに切符買ってもらったら、今度こそ帰るんだから。意外に懐かしくなるもんだわ。誰か故郷を想はざる

お雪 じゃないけど、本当に望郷の切符って存在するのね。ああ、こうして後悔ばかり。あたしの人生後悔ばかり：

隅田 切符くらい自分で買いなさいよ

お雪 いやだね。オリオが買ってくれて言ったんだ。空にオリオン座が輝くときに、その口約束をあたしは絶対に思い出すと

隅田 そうやって、オリオちゃんが来てくれるの待って

オリオの家。オリオが一人で酒を呑んでいる。煙草をふか

して、ものおもいにふけつていようである。そこへ大窓をガラツと開けてヨイチが登場する。

ヨイチ 函館出身の俺と言えば

オリオ (ヨイチの方を見ず) 頼みますから玄関から入ってきてくださいよ。鍵は開けてます

ヨイチ なんと冷たいんだ。なんと冷たい反応なんだ。(玄関の方へ回り入室する。元気がゆるむようにわざと明るくおちゃらけて) お前は北海道の冷たく突き刺さるような寒さを知らんだろうが、それも知らずなんと冷たい反応をすることよ。なんたる非道だ。そんなことより、玄関の鍵くらいしめておけよ。不用心なのだ

オリオ (煙草を吸うが反応しない)

ヨイチ (オリオの横に座って) …オリオ、事情があるのは分かるが、そうやって一日酒を呑み、煙草をふかし、え？ 生産性というものを今一度考えてみたまえ。以前の君は、そういった人間じゃなかった。意欲に富み、まじめで勤勉、まさに勤労に励む東北人の鏡だったじゃないか。いや、何も酒を呑み、煙草を吸うことに生産性がないというのはない。お前の、その無気力でやる気のない、ボーッと一日を過ごしている姿を見ると、心配でたまら

たのかもしれません

ヨイチ 年だと？

オリオ まだまだ夢の途中だと言いついてきました

ヨイチ そうだ、まだまだ、希望や夢の途中だ

オリオ 今は過ぎ去った日々がなんともむごい。二十歳を過ぎればもう…。俺は二十歳という節目に幻想を抱きすぎたのかもしれません。あとはどこへ向かえばいいのか…

ヨイチ それは、俺についてくればわかる

オリオ ヨイチさんに？ (少し顔を見て小さく鼻で笑う)

ヨイチ 笑ったな、笑った。お前そうだったところは変わらんのだな。そうですとも。俺に任せて、どんなについてこい

オリオ ヨイチさん、東京オリンピックは、成功すると思えますか

ヨイチ ん、いきなりどうした。まあ、初めての試みだからな。失敗もするんじゃないか。だけれども、精一杯やることは大切だ。今の日本国は、それこそ国を挙げてオリンピック事業に傾けているだろう？ それがいい方向に進めばいいんだが

オリオ ……ああ、俺は気が狂ってしまいそうになる

ヨイチ どうした、何かいけないことを言ったか

オリオ いいえ、何も。あなたも夢を見ているんだ。この

んだよ。オリオ、心配してるんだ俺は。お前が元気なら何も言うことはないんだ。仕事も休みっぱなしで、俺がこうして様子を見に来ないと生きてるのか死んでるのかわからん

オリオ クビですか、俺

ヨイチ ……このままだと、今後お前のディスク！ え？ ディスクだ、ディスク。少し砕けて言うてデスク。日本語に直すと机。もっとわかりやすく言うとお仕事。お前のお仕事はない

オリオ ……

ヨイチ 冗談だよオリオ。俺は社長だ。そして同郷のお前には親切にしたいんだ。俺がこうして親切にできる内はいいが、他のやつらが何と言つかわからんなあ、流れるラジオで肩を組み、ともに歌ったろ。あの勤労賛歌「あゝ上野駅」！

オリオ ……雨の外苑 夜霧の日比谷

今もここに優しくうかぶ

君はどうして いるだろうか…

ヨイチ やめる、オリオ。そんな悲しい歌を歌うんじゃない。こういう時はな

〽上野は俺らの心の駅だ

くじけちゃならない人生が…

オリオ くじけちゃならないという具合には、俺は年をとっ

上野の奴らみんな一緒に、同じ夢を…

ヨイチ 夢を見ることはいいことだぞ。寝てても、覚めて

もな

オリオ ……(うつむく)

ヨイチ 戦敗国の日本に、世界のオリンピックが来る。時代が変わった。時代が変わるのなら、人も変わるさ

オリオ ……上野駅も変わっていきますよ。いつか、北の終着駅ではなくなる日が、東北人の心の駅だと言われない日が、来るかもしれない

ヨイチ や、それはあんまり、変わってほしくないもんだなあ (苦笑して)

オリオ ……そうですね、本当にそうだ… (泣きそうな声で) (微笑んで) そうだな、本当にそうだ。オリオ、気を落とすな。情緒が安定しなかったり、意味もなく涙が出たり、心がせわしなかったりするの、お前がたいへん若い証拠だ。たくさん考えて、たくさん心悩まされるといい。夢だって希望だって、どんなに持てばいい。そりゃあ、失敗は怖いさ。

今度のオリンピックだって失敗するかもしれない。だけれど、お前はひるまなくてよい。どんなに失敗したって、お前の永遠の所属は失われない。いつでも思い出せ、そして口にして復してみる。

俺の「人間所屬論」を。お前の故郷は、何があってもお前を待っている。上野駅の始発の汽笛に乗せて、いつでも迎えに来るだろう。だからこそ、心の中に渦巻いているのだろう。何もお前の母親は、息子を故郷に縛らんがために意地悪をしているのではない。お前の心の中をやませ、それは若き心に灯った、荒れ狂った海流を飲み込む、故郷という名の母なのだ。恐れることはない。ま、いわば帰る場所、逃げ場所があると思えばいいのさ。フラットに、おフラットに、ビーフラットにいけばよいのさ

オリオ 俺が本当にどうしようもなくなったときも、迎えに来てくれるんでしょうか

ヨイチ もちろん、どんな時だって、迎えに来るさ。俺がお前を、列車に乗って上京してきたお前を迎えにコンコースに立っていたように。お前は上野駅8番ホームで待っているだけでいい。持っているんだろう？ 望郷の片道切符を…！

オリオ (切符を取り出す)

ヨイチ …俺はいつでも、変わり続けるお前を見ている。お前は、変わり続けるものを、全て直視しなければならぬ。その勇気があったなら、なんも大丈夫だ

呑んだりしている、するとしばらくしてヒールの歩く音、そしてコンコン、と玄関を叩く音。

オリオ …開いていますよ

ギイツと扉を開けて顔をのぞかせたのは、セロ。ビビットカラーのワンピースを着ておしゃれをしている。

オリオ …セロさん

セロ 前に住所教えてくれたでしょ。お雪がもし見つかったら連絡してくれって

オリオ そうだったな。…何の用だ？

セロ お別れを言いに来たの

オリオ 故郷に…

セロ ええ。岩手に帰るわ。もう、これ以上東京での進展はないと思って。愛想つかしちゃった。未練や

名残やらないなんて言えば強がりになるのかもしれないけれど。今日これから、15時台の列車で盛岡まで行くの。切符も買ってあるんだ。向こうに仕事先も見つけたの。もう二度と東京に来ること

はないでしょうから、最後の日、せめてものおしゃれのつもり。どうかしら、かわいいかしらうん、多分…。女の人のおしゃれにはよくわから

オリオ

オリオ …ヨイチさん、俺、あなたに上野駅に迎えに来てもらったあの日から、一度も帰郷していません

ヨイチ おう、知っているのだ

オリオ だからそろそろ、故郷へ帰ってもいいのかもしれないね。帰郷の際の感傷的なむずがゆさを超えて、大人にならなきゃいけないのかもしれないね。二十歳の幻想を超えねばならないのかもしれないね

ヨイチ 存分に、帰ってらっしゃい。帰ってきたならば、また俺が上野駅まで迎えに行くから

オリオ 帰ります。俺、故郷に帰ります。それで、一度全てをまっさらにするんです。そうしてまた東京に来て…もう一度初めから働きますんだ

ヨイチ 勤労の星だ。煌々と輝いている勤労の星が、また夜更けとともに山の頂上に上る

オリオ ああ、この決断をするのに8年かかった。東京で失った年月は、若さは取り戻せるでしょう

ヨイチ いくらでも。いくらでも取り戻せるさ。だってお前は、上野駅の金の卵だもの。くじけちゃならぬんだ。…俺、そろそろ仕事に戻るからな。ま、ディスクの保証されている内に顔を出したまえ

ヨイチ、玄関から出ていく。しばらくオリオ、一人で酒を

ないけど

セロ フフ、やっぱり男の人に褒めてもらうのが一番。岩手の景色、写真か絵葉書でいつか送ってくれよ。

オリオ 盛岡や花巻や八幡平、見てみたいんだ

セロ ええ、いいわよ。私の故郷、見たいのね？

オリオ ふくらみを持たせたこと言うなよ

セロ いいえ、何も？ あんたにもだいぶお世話になったわね

オリオ まあ、別にいいよ。同郷のよしみだ

セロ 同郷の？

オリオ 土地の縁だよ

セロ ふうん…

オリオ 何か腑に落ちないか

セロ いや、随分とあたしのことお世話してくれたもんだからさ

オリオ お前、お世話を何かと勘違いしてないか？

セロ やめてよそういうの。面白くない

オリオ そうか

照明、下手側、部屋の外にいるお雪たちに向けられる。隅田と青野がお雪を押し出している、

隅田 ほら、もうここまで来たんだから

お雪 いやあよう

隅田 そんな、うぶみたいな真似して。女なら、度胸持ちなさい！

青野 ほら、ほら、行きましょ

お雪 わかったわよう

お雪たち、部屋の裏側に回る。照明、部屋の中に向けられる。

セロ ねえ、家があってもいい？

オリオ ……出発までそんな時間ないだろ。最後の東京散策とかしなくていいの？

セロ 優しいお世話ありがとう。いいのよ。東京なんて小さい街、もう十分歩き回ったわ

オリオ じゃああがっていいけど

セロ お邪魔します。お酒臭い。煙草臭い。体壊すわよ

オリオ そんな呑んでないよ

セロ 強くないんでしょ

オリオ そう。だからチビチビゆっくり呑んでんの。それでもアルコールの廻りが早いもんで、なかなか染しめないんだ

セロ 東北人のくせに

オリオ 関係ないだろ

セロ 温まるでしょ、寒い日に呑んだら

オリオ さあな、俺の地元はそこまでしばれる寒さじゃなかったから。それこそシンシンと降る真綿のような…

セロ (何かに気が付いたように) あんた、ぼっちゃんじゃなかったの

オリオ なんのことだ

セロ 僕ちんじゃなかったの

オリオ だからなにが

セロ 自分のこと、僕って言ってたじゃないのよさあ

オリオ 一つの間にか変わったんだ。変わったの

セロ ねえ、もう一回言ってみてよ、俺って (詰め寄る)

オリオ 俺

セロ 言い慣れてないのね！ 面白い

オリオ 聞き慣れないだけだろ

セロ 顔赤くなってる！ (また詰め寄る)

オリオ 近い！

すると突然玄関の扉を開け、お雪が入ってくる

お雪 オリオ！ ごめん！ あたしが悪うござんした！

あたし、あんたに故郷を捨て切れだなんてひどいこと言ったし、あたしの方だって捨てきれずにひ

たもの

オリオ 違います、お雪さん。まず部屋に入って。話をし

ましよう

お雪 いやあよう。だってあんた怒るじゃない！ ノコ

ノコ帰ってきやがってって！

オリオ 怒られんの覚悟で来たんじゃないんですか！

お雪 (部屋に入って) 甘んじて受け入れます…

オリオ それでよし

お雪 はあ…待って、緊張と不安で心が煩わしいわ。素

面でいるのが逆に悪いみたい。酒、酒ないの

オリオ あります (コップを持って行って) どうぞ

お雪 (グイッと呑んで) あと、あと煙草

オリオ あります (持っていて火をつける)

お雪 ありがと

オリオ へい

それを見ていたセロが呆れたように口を開く。

お雪 いいのよ、あたし！ あたしだって似たようなことしたんだもん。うん。やり返されたって文句言

えないわよ。そりゃあ、心の奥底で、あたしの傲慢な部分でさ、それでもオリオはあたしのこと好いたまなんじゃないかって、期待はしてたけど、別にそれを現実にしようなんざ思っちゃいなかった

セロ バッカみたい。ねえ、あんたがお雪？

お雪 そうよ、あたし

オリオ お雪さん、この人…

セロ 私よ、わからないかしら。私、幸三の女房

お雪 …… (ゲツという表情)

セロ あんた以外にもあの人にはいい人たくさんいるんだらうけど。青森のお雪。それだけは知ってたわ。

あたしも亭主のことそろそろ本当に見限って故郷の岩手に帰ろうと思って、お世話してもらったオリオさんの元に最後やってきたのよ

お雪 お世話？ あんた、この人のことお世話したの？  
セロ ええ。それにあたしの故郷の景色を見たいとも言うっていわ

オリオ 好き勝手いうなよ。お世話なんてものじゃない。ただ助言をしたり人並みの気遣いをしただけじゃないか。それに故郷の景色、ただ単に見ただけでもない岩手の風景を見たいと思ったから、既製のでもいいから絵葉書かなんか送ってくれっただけだ

お雪 あんたが敬語使わないなんて、相当仲良しこよしじゃない

オリオ もちろん、同郷の大切な友人だとは思ってますから。でも勘違いしないでください。俺がお雪さんにこうして丁寧に話しかけているのは、あんたの前では紳士でいたいと決めたからだ

お雪 じゃあさ、あたしのその傲慢な期待が、その通りだっと思っていいの？

オリオ (間をおいて) そりゃあ、もちろん…。俺の気持

草だけの時間が流れます。俺とお雪さんでは、生きてる時間が違います。だからこの時間は、俺とあなただけの、一人の生きている時間にしましょう

お雪 …夢はまだ見てるのかい？

オリオ …ええ、まだまだ夢は途中ですよ

セロ そろそろいいかしら。私、あなたと話があるのよ。どこに亭主と女房の間に入った女を快く思う人間がいるかしら。私そういったことを言ってるのよ話ばかりわかった。でもあたしをそんな、穴が開きそうなくらい見つめないでちょうだい

お雪 罪悪感とか、やっぱりあるのかしら

セロ 罪悪感？ ええ、オリオにはやっぱり罪悪感ありますよ。浮気の罪で新宿刑務所に収監されっかも私によ！ 私にはないわけ？

お雪 バカ言っちゃいけないよ。もとはと言えば、あんたが最初に手綱離したんだろ  
セロ あたしが…

お雪 (食い気味に) てめえが勝手に馬の手綱離して放浪してた馬の新しい手綱掴んだだけさ。あの男が手綱なしじゃどうなるかわかって離したんだろ？ それをあたしの前に現れたからって、謝れだの罪悪感がどうのとも言われたってあたしや知りませ

ちは、お雪さんほどたやすく変わりませんよ。そしてこれ…(筆筒から紙切れを一つ取り出してくる)

お雪 これ…

オリオ あの日、幸三が現れた日、あなたにあげようと思っ  
て結局渡せなかったやつです。望郷の片道切符、  
特急「はつかり」青森駅行きです

お雪 オリオお！(嬉しそうに)

オリオ お雪さん、俺にあんたの生まれ故郷、青森の恐山の神話を聞かせてくださいませんか？

お雪 もちろん！ あたしの故郷、あんたに見せてあげるよ。あたしがどんな生き方をしてきたか、手に取るようにわかるさ！(抱き着く) それにしてもあんた、酒臭いよ

オリオ お互い様です。二人とも酔っ払ってんだ

お雪 (離れて少し考えて) …ねえ、オリオ。今度さ、

東京タワー上りに行こうよ。かっぱ通り通ればすぐだしさあ。いつも眺めてるだけじゃ、もったいないよ

オリオ …そうですね。でも、お雪さん。東京タワーは、港区ですよ

お雪 …オリオ…、お前…

オリオ 上野では上野だけの時間が流れます。浅草には浅

んよ。いるならいるって言いやいいんだ。陰湿に不幸な女ぶって…あたしだってねえ、一度あんたが帰って来たってんで捨てられてさあ。じめじめしてたよ。でもね、このオリオがいろいろこんな女のことヨイショして励まして、あたしを恐山の御仏様の後ろ姿とまで言ってくれてさあ

オリオ 別に俺はあの男の元に戻すために励ましていたわけじゃありません

お雪 ああ、酒呑んだら口が回ってきた。だからあんただって、出身は岩手なんだろう？ あたしと同じ北国の人間じゃないか。そもそもって、岩手なら平泉の仏様がついているはずだよ。あたしは恐山の地獄の仏様だけさあ、あんたは奥州平泉の、極楽浄土の仏様がついてんじゃないのかい。恨むなら恨みやれ。あたしや幸三さんのことこそ恨むけど、あんたのことは恨まないからさあ

オリオ お雪さん、見ない間にだいぶべらんめえ口調になりましたね。江戸っ子みたいだ

お雪 同じ雪国の女じゃないか、怨念もなにも、さあ、その表情で表してごらんよ。恨み顔であたしを見てごらんよ

セロ あたしだってしょうもないことだったのはわかるよ。あんな野郎、人生かけるほどの人じゃないっ

て

お雪

だったらそれでいいじゃない

でもね、どうも心せわしないのよ。あの人と過ごした私の、この若い時代を失ってしまうことと同義ですもの。若さに執着したいわけじゃないけれど、上野のホームまたいで上京してきた頃、そして東京で暮らした数年間！ 故郷へ帰りたいけど、帰ってしまったらここで過ごした若き日々を捨てること、失うことになってしまふんじゃないかしらと思つて…。若さも愛も取り戻せないものね。台東区で老いた年月は戻ってこない…。くじけちゃならないなんて具合には、もう年老いてしまったのよ！

お雪

捨てきれない若さをいつまでも持ち続けているのね。みんな阿呆みたいに捨てきれないものばかり！ 故郷も、男も、女も、若さも、時代も…故郷に至っては捨てようとする「忘郷罪」なんて病気にされちゃうし、刑務所入れられちゃうし。たまったもんじゃないわ、捨てるだのなんだのなんて。オリオなんて親潮海流の母親に因縁囁ませられて、さ…。あたしだって何度も後悔したわよ。だけれども捨てられないものだからこそ、っていう因果もあるんだわ

セロ

あなたと私は違う。一緒にしないでちょうだい。あなたは所詮愛人の3、4番目程度だったんでしょうけど、私は妻、一番のその先だったんだから。ええ、そうよ。同郷だからって一括りにしてくれてんじゃないわよ。私あなたと一緒にのつもりはありませんからね。私には、私の故郷があるの。自慢の故郷よ。帰りたいのよ、帰らなきゃいけないのよ（少し興奮したように）

お雪

帰りゃあいいじゃないの。呼んでいるわ。岩手山から吹いてきた風によつて、上野駅が「さあ、迎えに来たぞ。国に帰ろう」って上野中に響き渡る大声で！ あの地下4階から響く列車の轟音が、あなたの耳にも届いているでしょ！

セロ

でもこの東京に、いろんなものを置いてかなくないけないのよ。いろんなもの。残酷だわ。東京なんて。残酷だわ。故郷なんて。あたし、あなたを見たら捨てたはずの亭主を思い出した。よくも思い出させてくれたわね。…お雪、あなたが甘い蜜のような時間を過ごしている間、私がどれだけ地獄を見たか！ 私のせいだけなはずないわ。女の怨念は捨てる、捨てきれぬの問題じゃないのよ！（台所から包丁を取り出してお雪に向ける）

オリオ

お前！

セロ

やっぱり！ やっぱり！ …あたしの方が強かったわね！ あたしの守り星は死を司る冥王星ブルー！ 蠍座の女の怨念の強さを思い知るといいわ…！

お雪

…っ！（血にまみれた切符を天にバツとかざす）

セロ

（興奮しきった様子で）あんた言ったわね。あたしにも仏様が背後にいるって。じゃあ勝負しましよう！ あなたの下半北半島・恐山の、地獄の仏様と、私の奥州平泉の、極楽浄土の仏様、どちらの仏がより強いのか！ さあ、故郷への切符を掲げて！

（二人とも切符を取り出す）私とあなた、どちらの故郷が、自分を強く呼びつけているのか！ さあ、聞きなさい、上野駅からの呼び声を、それを聞いたなら、お互いの因果な怨念も必ず避けられるはずだわ！

寸発入れず赤く光る照明！ 霹靂一声、金切り声のようなつんざく音。そしてぶつかり合った二人の勝敗は…

オリオ お雪さん！

お雪の脇腹から、ぼたぼたと血が垂れる。お雪、悶絶した表情を見せるがセロは刃を抜かない。

静寂を破るように突然玄関の扉を開けてヨイチと隅田が入ってくる。

ヨイチ

…（現場を見て言葉にならない）

隅田

…（ヨイチちゃん…、嘘よね？ …嘘だわよね…？）

オリオ

…（ゆっくり二人の方を見る）

お雪

…（苦しそうに、小さくつぶ）

ヨイチ ……

隅田 ……

オリオ ……はい、お雪さん

お雪 ……お酒とってくれない？ ……気絶しそうで

オリオ ……へい（酒瓶をお雪の元へ持っていく。お雪の体を支え、口へ運んでいく）

ヨイチ ……オリオ、…俺たちはなかなか要領を得んだ…。良ければ教えてくれ…

お雪 ……彼女は岩手出身の…幸三さんの奥さんで…たまに居合わせて…それで、怨念がどうか、なるとかの話になって…オリオはあたしのこと守ってくれたんだ。悪いんだったらあたしとこの女だよ…。だから、オリオのことは責めないでくれ…

オリオ ……お雪さん、傷の具合を見せてください

ヨイチ ……（顔を右手で覆ってぐしゃぐしゃにしている）

そうか…、なるほどなあ…

隅田 お雪ちゃん、血が…

お雪 あたしはいいのよ…。それより…青野、青野はどこ…？ いるんでしょう？

するとバイクにまたがった主治医と看守服を着た青野が窓を開けて出てくる。

二人は真顔でのぞいている。

青野 新宿刑務所の看守、青野です

お雪 ……どうさね、あたしとオリオ、今度こそあなたのところに収監されるかい…？

青野 （静かに首を横に振って）いいえ、オリオさんもお雪さんも、はたまたそこにいるセロさんも、決して収監されません。…新宿刑務所は、空想上の刑務所です。形而上の、またはメタフィジカルのな。しかし新宿刑務所に収監される者たちの罪状は、全て「忘郷罪」です。殺人罪だの、傷害罪だのを犯した人は、新宿刑務所に収監されることはありません。…あなた方は今、それぞれ手元に切符を持っている。望郷の切符を…。セロさんは盛岡駅行き、お雪さんは青森駅行き、そうしてオリオさんは平駅行き…。今のあなた方に、「忘郷罪」は適用されません。よって私は、あなた方を束縛する一切の権利を持ちません

主治医

そして検視の結果、セロさんの死因は刃物に刺されたことによる失血死…ではなく、故郷病の発作であることがわかりました。セロさんの故郷病は厄介で、故郷に戻ろうとする、所属に還ろうとする内部に反して、その実、彼女の外部である身体は東京への妄執や執着、それこそ怨念を断ち切れ

ずにいきました。青野さんとは真逆です。心は故郷

に帰りたいのに、身は東京に残ろうとする。…東京に残ろうとする発作のトリガーはおそらく幸三さんでしょう。そのトリガーを彼女自身、意識的に埋没していたが、いや、結局は耐えきれず彼女自身が掘り起こしたのです。つまり、自分で自分の外部と内部を擦り合わせ、己を曳き殺すトリガーをひいた、自殺行為のようなものです。一応、自殺の意思はなかったようなので診断書には「己の内部の故郷と外部の意思が曳き殺し合ったためにおこる故郷病の発作」としておきました。つまり、オリオさんもお雪さんも、全くの無実です。これは事故です。事故なのです…

オリオ （お雪のそばに控えていたが）…そういったわけにはいきませんよ…。それはあくまでも、新宿刑務所と、新宿総合病院の判断です…。つまりそれらは幻想です…。故郷にまつわる物語なのです。この台東区の呪い、幻覚なのです…

ヨイチ ……静かに…。台東区には魔物が住んでいる…

隅田、吐き気を催したのか玄関から外に出ていく。ヨイチ、部屋の隅でうずくまり考えこんでいる。青野と主治医、窓を閉めて退場する。

青野 ……お雪さん、傷の手当てをします。傷の具合を…

オリオ ……あたしはいいんだってば…。それより、あなた…

お雪 ……あなたもやられたら？ 大丈夫なのかい？ 傷口を見せてごらん…。（オリオの腕を掴んで傷を見る）かわいそうに…、血が出るじゃないか

オリオ ……こんなの、かすり傷です。痛くもかゆくもありません

お雪 ……顔も真っ青で…、手もこんなに冷たくして…。あなたやませったって、ここまで冷たい手は今までなかったよ。…あたしのせいだね、本当に。あなたが、どれだけあなたの人生変えてしま…ったか…。

オリオ ……あなたは、上野に來なければよかったんだよ。ここじゃないどこか、中野区でも江東区でも、とにかく台東区以外の人生を歩むべきだったんだ…。

お雪 ……そうしたら、まずはあたしに出会わずに済んで…はは、あなたが、あなたの家に押しかけに行かなければよかっただけの話だね…。結局あたしのせい、ごめんね…

オリオ ……お雪さん…

お雪 ……わかってんのよ、あなたと惚れた腫れたの関係になつてさ、ずっと気に病んでいたんだ。あなたは気が付かなかったかもしれないけどさ。あなた



はこんな若い子の人生を変えてしまったんだろ  
うなあって、ずっと思ってたのよ…。なんだか、悪  
い気もして…

オリオ …俺は、ずっと、あなたに人生を変えてほしかっ  
た…

お雪 …オリオ…

上野であなたに出会えたことを、感謝します。…  
だってお雪さん、俺は、あなたを心から愛してい  
るんです。ほら、やっぱり…(お雪の血をとめて  
いたマリアヴェール。白いそれは赤く血に染まっ  
てしまっているが、それをお雪の頭にかぶせる)  
俺にはやっぱり見える…あなたの背後に、恐山の  
御仏様が…

外してお雪の肩にかける。立ち上がるとヨイチの方を見て

オリオ

…ヨイチさん、そういうことです…。俺は、  
人を殺しました…。それも、大切な故郷の同胞を…。  
俺に、故郷に帰る資格はありません。(頭を下げ  
て)…ヨイチさん、どうか、お願いします。お雪  
さんを、故郷まで連れて行ってあげてください…。  
そうして俺の代りに、お雪さんの故郷の、下北半  
島を見てきてください…。どうか、お雪さんを、

お願いします…

ヨイチ、部屋の隅でうずくまって黙っていたが、立ち上がっ  
て

ヨイチ

(何も考えていない風に、思い付きの様であるが  
理性は保たれて)  
…なあ、オリオ。俺のさ、実家。函館の、実家は  
さ、山持ってるんだ。先祖代々の山なんだけど、  
さ、ほら、彼女、そこに、埋めちまおう。うん。  
俺、車出すから。俺が埋めてくる。うん、だって  
さ…ハハハ…ほら、お前も行くよ、怪しまれるだ  
ろ? だから、さ、俺車出すからさ…(挙動不審  
に努めて明るく)

オリオ

…ヨイチさん…  
そうと決まれば急げだ。俺今から車を

オリオ

ヨイチさん、それは…

ヨイチ

俺はさ、社長だし、社員のお前は、そりゃかわい  
いさ。けどもさすがに、このまま隠して逃げ続  
けるリスクと、自首して罪を償うリスクと、考え  
たらさ、わかんじゃん。俺は大人だからさ、そりゃ  
、自首しろって言うよ。その方が、お前のためにも、  
今後のためにも…お前はまだ若いからさ、何年か

して出てきても、まだまだ若いさ。それに状況が

状況なわけだからさ、俺だっているいろいろお前のた  
めに証言するし、きっと自己防衛ってんで、情状  
酌量はあるさ。そういうことを全部ひっくるめて  
考えると、やっぱりさ、自首した方がいいんじゃない  
かなとも思うさ。でもなあ…。でもなんだよ…。  
だけれども、それでも、しかし、だが、けれども、  
とはいえ、それでもなお、かと言って、そうは言っ  
ても、ところが、しかれども…

ヨイチ、頭を抱えてまたうずくまる。ヨイチの苦悩を逆に、  
地の底から響くように、「東京の灯よいつまでも」の明る  
いメロデーが聴こえてくる。…若い心のアルバムに…

ヨイチ

お前を上野駅に迎えに行った、遠いあの日を思い  
出すんだ。同じ上野駅でも、東京に夢を馳せ  
た、北国の人間じゃないか。なんというか、その  
妄執が、こういったなんともいえぬ非常時に、心  
の中から、頭のとっぺんへ、ムクムクと沸き出で  
て、お前を、故郷の同胞を守りたいと、出何處の  
わからぬ本能で思ったのだ。まったく…土地の縁  
とはつくづく因果なものだ…。切るにも切れぬ、  
厄介な…親子の縁よりも。理性の縁よりもうんと

強いです！

強いです！ まったく、参った、参った…  
そう言って下さるのはいわ…でも、あな  
たはもう少し自分のことを考えなくては

お雪

(立ち上がってお雪の方を見て) 下北生まれのお  
雪さん、心配にや及びません。俺は函館の人間で  
す。レデーに優しく、ジェントルマン、思い付き  
も早く、行動もスマートに…。同じ故郷の豪雪の  
中生きてきたじゃないですか、同じ台東区を生きて  
きたじゃないですか。今！ 二つの故郷が重な  
り合った！ 二つの故郷が重なりあったとき、俺  
はあの日、函館山の頂上で見た上野駅12番ホーム  
の哀しき因果の果ての糸先を、見つけられた気が  
する！ きっと俺たちの縁は、あなたの流してい  
る、血の縁なんかよりもずっと深い！ そしてオ  
リオ、お前もだ

オリオ

……

オリオ

人間の最も根源的な所属は故郷だ。俺の人間所属  
論。俺は、どんなにリスクをハザードしようとも、  
俺は、俺の学問によって飛ぶ！  
あなたの学問は…

ヨイチ

人間所属論！(誇らしげに)俺はこいつで飛ぶの  
さ。お前も飛べ、お前の学問で…  
ヨイチさん、…この御恩は、決して、生涯一度

も、忘れません。いや、俺は今まで、あなたへの恩を思わなかったことなどない。あなたに、上野駅のコンコースに迎えに来てもらった、あの日から！

ヨイチ さあ、行け。お前が行くべきところは分かっているはずだ。そうして二度と、もう二度と台東区へ戻っては来るな！ なに、今までお前に泣きついていたが、仕事の方なら心配無用だ。俺だって、まだまだ夢の途中なのだ！

お雪 夢の…

ヨイチ そうですお雪さん、オリンピックが、東京へやって来る！ 俺はまだまだ、夢を見なければならんです！ オリオ、お前も夢を見ているはずだ。…さあ、俺も車を取りに行かねばならん。どうか、二人とも、幸せに…。さあ、行きなさい！

お雪 (深く一礼する)

オリオ …お雪さん、まずはここを離れましょう。傷の手当てもしなくてはいけない…。ヨイチさん、本当に、なんと言ったらよいか…。(ヨイチと握手を交わす。ヨイチの手は震えている) …ヨイチさんハハハ！ 函館の間人はな、生まれつき手が震えているのだ！ 先祖代々、北海道のしばれる寒さに耐えて受け継いできた、誇り高き勲章だ。函館

の「隅田！ おい！ 隅田ーッ！」の叫び。そして暗転。

### 最終幕 故郷からの呼び声

舞台は上野駅のプラットフォーム。オリオが一人で木製のベンチに座り、煙草を吸っている。落ち着かない様子である。

お雪 悪いね、オリオ。待たせちゃって

オリオ 一人で行かせてくれなんていうから心配でしょうがなかったですよ。…どこ行ってきたんですか

お雪 酒かっぱらってきたんだ(小さな酒瓶を取り出して)。気つけ薬だよ。酒は多病の特効薬ってね  
オリオ 本当に手癖が悪いんだから…。傷口だって応急処置なんです。少し黙っててください

お雪 早く行くよ！ 列車に乗る前に、あたしがくたばっちゃう…。しかし、誰もいないね。こんなに空っぽな上野駅は初めてだよ

オリオ 時間も時間です。列車なんて、とっくに終わりますよ。やっぱり、今日は…

震えの男はいい男と決まっているのだ！

オリオ 俺は、飛びます。上野から、もっと北の方へ！  
ヨイチ ああ、そうだ。お互い、ここにいるみんな、聞いたらはずなんだよ。あの幻の、北国訛りひしめく夢の終着駅、上野駅で！ 聞いたはずなんだ！

そこへ耳鳴りのように、「あゝ上野駅」が流れてくる  
…どこかに故郷の 香りをのせて

入る列車のなつかしさ  
上野は俺らの心の駅だ  
くじけちゃならない人生が  
あの日ここから始まった…

オリオ 今日上野駅の出発アナウンスが、台東区の眠りを妨げる…。故郷からの呼び声が、轟音で鳴いているのだ！

オリオ、お雪を片手に抱き寄せ、上野駅を透かし、遠くへ故郷を見る！ 列車の通過する轟音。高まる音楽と轟音の中、オリオとお雪、逃げるように退場する。それを見届けるとヨイチ、意を決したように車を取りに行こうと玄関から出ていく。

すると「警察だ！」「動くな！」の複数人の大声。ヨイチ  
オ、うつむく。  
すると列車が遠くから来るような音がかすかにする。オリオ、うつむく。

お雪 オリオ？ オリオ？ どうしたんだい…

オリオ なんでもありません。少し、胸が痛いだけです…

お雪 大丈夫かい…(背中をさする)

オリオ やっぱり、故郷が呼んでいるんです。まるで綱引きの紐を引っ張るように…俺のことを呼び寄せているんだ

お雪 あたしの故郷へ行く前に、まずはあなたの故郷へ行こう。そうしてどちらに住もうか考えようじゃないの

オリオ それいいですね…ゆっくり考えましょう。ゆっくりと…

お雪 無茶させたね

オリオ いいえ、心配いりません。あんたが死んでしまうよりは…(うつむく)

お雪 …岩手にも降りて、平泉の仏様にお参りしよう。そうしようね

オリオ …ええ…

お雪 …恐山にも上って、供養してもらおう

オリオ …ええ…

お雪 …列車きつと来るわよ。あの幻の特急「はつかり」

が…青森への風をのせて…

オリオ …「はやて」かもしれせんよ。だって「はつかり」なんて…(口をつぐむ)

お雪 そしたら、早く着いた方に乗ろうよ。(切符を取り出して) この切符は、望郷の片道切符。故郷へ行く列車になら、なんにでも使えるんだ

オリオ (切符を取り出して空に透かす) …

すると列車の走る大きな音。そして停車する音。アナウンスが聞こえる。「上野駅始発、特急はつかり、特急はつかり…。または、上野駅途中停車、特急はやて、特急はやて…」そこへ車掌の制服を着た一人の女がやって来る。帽子を深くかぶっており顔は良く見えないが、それはセロだった。

セロ 青森駅終点、特急はつかり…または新函館北斗駅終点、特急はやて…、まもなく出発いたします…。切符を拝見いたします…

オリオ …セロさん…

お雪 …あんた…

セロ 「さうさう、北はこっちです それから向ふに縦に三つ並んだ星が見えませう 下には斜めに並んだ房が下がったやうになり 右と左には赤と青と大きな星がみませう あれはオリオンです、

か？

お雪 …笑っているの？

セロ 「ほんとうのさいわい」って言葉があるでしょう…

オリオ 「銀河鉄道の夜」の…

セロ (ポケットから改札紙を取り出して) 切符を拝見いたします…

二人とも、狐につままれたような顔をしているが、切符を差し出す。セロ、パンチをきる。二人の切符を終えると、胸元から一つの切符を取り出して、それにもパンチをきる。

セロ …私もこの列車に乗るんですよ…。盛岡駅で下車する予定です…

オリオ …俺は、平駅で…

お雪 あたしは、青森駅で…

セロ (澄み切った顔で雄弁に)

「僕たちと一緒に行く。僕たちはどこまで行って行ける切符を持っているんだ！」

「どこまでもどこまでも一緒に行く。僕はもうあのさそりのように本当にみんなの幸のためなら僕のからだなんか百べん灼いてもかまわない。…せめて故郷へ帰るなら、わたしは、そういっただそりになりたい…」

オリオンです あの房の下あたりに 星雲があるといふのです いま見えません その下のは大犬のアルファ 冬の晚いちばん光って目立つやつです 夏の蠍とうら表です」…

お雪 オリオン座にまつわる神話伝説…。α星はベテルギウス、β星はリゲル…。海の神、ポセイダンの息子、オリオンはその傲慢さから蠍の持つ猛毒に刺殺されてしまいます。それゆえ、オリオンは蠍を恐れ、夏にあがった蠍座が沈むころ、つまり冬に空へと輝くのでした…。

セロ 夏の蠍とうら表です…(と、不気味にポケットに手を忍ばせる)

オリオ (危険を察知してお雪を後ろ手に隠して) 俺の名前は、確かに母がオリオン…オリオンから取り上げました。ならばオリオンの俺は、その神話伝説を持ち上げる夏の蠍座のあなたに、猛毒をもって刺し殺されたとしたらば、それはまさにやるか前世以前の神話伝説を踏襲する事となるでしょう…。だけれども、お前はさっき、沈んだはずだ…。季節も夏が沈み、冬はとうにやってきている！ 神話は逆転し、こうしてオリオンは空に昇っている！

セロ (亡霊のように) …あなた方は、いま、幸せです

セロ、オリオの顔を一度見て微笑んで退場する。オリオ、泣き出しそうな顔をして崩れ落ちる。

すると「おーい」と遠くから呼ぶ声が。客席脇の小道に、ヨイチと青野が手を振って立っている。

ヨイチ オリオ！ お雪さん！

俺も、同じ列車に乗るんだ！

青野 あたしは仙台駅で！

ヨイチ 俺は新函館北斗駅で！

青野 故郷に帰るのよ！

ヨイチ 俺たちも故郷へ帰るんだ！

二人とも楽し気に笑いながら消えてゆく。ブルブル！という列車の発車音がする。セロ、舞台上方の小窓から顔を出して、そっちの方へ照明。力強く、列車の発車音に負けないくらいの声で

セロ …「さあ、切符をしっかりと持っておいで！ お前はもう夢の鉄道の中でなしに本当の世界の火やかげしい波の中を大股にまっすぐあるいて行かなければならない。天の川のなかでたった一つのほんとうのその切符を決しておまえはなくしてはなら

ない！」

オリオ ……(泣き崩れる)

お雪 ……オリオ、帰りましょう。ほら、呼んでいる…。この切符を持って！ みんなで一緒に、北へ帰りましょう…！

列車の出発する前の、プシューという音が食い気味に入ってくる。暗転。「発車します…」というアナウンスと出発音、ガタンゴトン…と音は続く。そしてゆっくり明転。かすかに仄暗い。オリオとお雪は先ほどまでであったベンチの位置に置いてある、列車の粗末な座席に座っている。(背もたれ型ではなく、簡易的な、在来線のような長椅子)

お雪 (酒を呑んで)…まずは、平駅か…

オリオ その前に水戸駅に停車します

お雪 楽しみだね、あんたがどんなところで生きてきたのか…。早く見たいよ

オリオ お雪さん、血が…

お雪 あんな処置だもん、血くらい出るわよ。大丈夫…

オリオ 向こう着いたら、まずは病院行きましょう

お雪 なんて言って診てもらうのよ。言い訳

オリオ 俺がなんとかしますよ。ええ、俺なんでもできるんです

お雪 あたしのために？

オリオ そういうわけです

お雪 あたしのためにだとかそういうのは、いい加減おやめよ…

オリオ 別に、ためにとかいってわけじゃないんです…。愛している人のために何かをしたいっていうのは

お雪 照れちゃうなあ

オリオ 照れることないじゃないですかあ

お雪 ……(酒を呑む)

オリオ ……だんだん街の風景が変わってきましたね

お雪 上野出てしばらくすると、結構町並みも片田舎っぽくなるもんだね

オリオ お雪さん、今度こそ故郷に帰るんですよ。今はどうでしょう、冬ですから

お雪 こんな時期に帰るなんて、バカだねえ。もっと暖かくなってから帰ってたよ

オリオ 俺の故郷の方は、まだ大丈夫ですよ。でも青森は想像を絶する寒さでしょうね…

お雪 ……

オリオ どうしました？ 疲れましたか？

お雪 少しね…寒いのかもしんない

オリオ 故郷に近づいている証拠です。ほら…(上着をお雪に着せる)

お雪 あんたの方こそ、(オリオの顔を触って) こんなに冷たい顔して。唇も真っ青じゃないか。寒いんじゃないのかい

オリオ 心のやませが、なんだか一段と強くなっているよ  
うな…

お雪 自分の心配しなよ…(上着をオリオに戻そうとして)

オリオ 俺は大丈夫です

お雪 (少し疲れたようにぐたっとなって) ああ…、少し酔っぱらってきた…

オリオ 寝ちゃだめですよ、寝ちゃあ…

お雪 わかっていますよ…。オリオ、お前は若いねえ。そしてお前はいい男だよ。優しくて真面目で勤勉で…、心は太平洋のように広くおだやか…。ちょっと女々しくて嫉妬深いけど、いざってときは男気のある…

オリオ 照れちゃう

お雪 照れることないじゃないの…

オリオ 少し呑んでもいいですか、酔っぱらっておかないと寒くていけない(グイッとだいたいある量を呑む)

お雪 あんまり多く呑まない方がいいよ。それでなくたって弱いんだから…

しばらく無言が続く。電車のガタンゴトン…という音だけ

オリオ そうですよ、お雪さん。俺たちこうして、因果の先に肩並べ合って…

お雪 …もう遠い、遠いところまで来たのね…  
オリオ ええ、上野から、もうだいぶ遠くまで来ましたよ。でもここからです。人生いろいろありますが、ここからです。まだまだ、夢の途中なんです…

お雪 (ぐったりとして) ねえ、あたし、少し歌っていいかい？

オリオ …ええ、歌でも歌いましょう。でも辛気臭いのはいけないですからね。決して、悲しい歌を歌わないでくださいよ

お雪 〱宵の口笛 夜霧にとけて  
僕の浅草 夜が更ける  
鳩も寝たかな 梢の影で  
月が見ている よもぎ月  
あぁ浅草の おぼろ月…

(途中からオリオも小さく口ずさむ)

浅草の鳩も、上野の鳩も、もう寝た頃かね…。僕の浅草も、寝静まっているかね…

オリオ 〱明日も明るい 朝がくる…。そうです。もう寝静まっていますよ。でもお雪さん、台東区へは二度と戻りませんから。懐かしむのはもう少し後にしましょう。今は故郷へ帰るので…

お雪 浅草にいた頃は下北が懐かしかったけど、今はもう浅草が懐かしい…

オリオ 意外にそうだったものなのかもしれませんね…。郷愁なんて、東京だって故郷の一つだったのかも。しれない。人生の中の、一つの所属だったのかも。しれない…

お雪 …水戸はまだかい？  
オリオ …まだです。まだですよ…

お雪 ねえ、あれ歌ってよ…「誰か故郷を想わざる」…

あんなのとこの人が歌ってたやつだよ。それで、あたしのとこの人がよく聴いてた歌…。あれ聴きたいんだ。しかも、歌手と同郷の、あんなの歌ったやつが…そしてそれを聴いてる詩人と同郷のあたし…。不思議だね。時代は変わったけど、やることは同じなのね…。さあ、あたし、その詩人と同じようにあんなの歌を聞くからさあ、歌ってくれよ

オリオ …〱都の雨の降る夜は

涙に胸もしめりがち  
遠く呼ぶのは ああ夢この夢

あぁ 誰か故郷を想わざる…  
今ごろ都…東京も雨が降っているかもしれないね

お雪 …… (ぐったりして目を閉じている)

オリオ …お雪さん、お雪さん…

お雪 ……

オリオ …お雪さん、まだですよ。まだ、水戸にも着いちゃいません…平までは、まだしばらくかかります…。そして青森までは、本当にまだまだなんですよ…

お雪 ……

オリオ、何か自分を落ち着かせるように煙草を取り出し、吸う。煙が充満すると、今度はお雪の唇にそれを吸わせる。しかし、煙はいつまでも出てこない。それを見届けると、オリオはその煙草を戻し、自分ももう一度軽く吸うと静かに火を消す。

オリオ …そうですね、まだしばらくかかりますから、寝ていてもいいかもしれませんね…。その代わり、平に着いたら、叩き起こしますからね…。もうペーソって…。嘘です。冗談です。だから、冗談で終わらせさせて下さいね…

オリオ、お雪の持っていた酒瓶を取り、グイッと一気に呑む。ガタンゴトン…  
しばらくするとオリオ、震えだす

こそ僕を置いていこうとするのですね。僕はいつも追いかけて、追いかけて：そうしてあなた元へ、いつも、いつも：震えてやって来るのは：  
本当の：本当の：気が付いていたはずだ、ええ、あなたは気が付いていたはずだ：あなたの元に：震えてやって来た、本当の銅青：本当の空は：

照明が、星空のように一層明るく、キラキラと点滅して光る。しばらくして、オリオ、力なく目を閉じる。しばらくしてゆっくり暗転。列車の通過音がひとつ、鳴る。

―充分時間をおいて、海の波の音が聞こえてくる。ゆっくり明転。舞台は上野駅と上野の町並みを描いた大きなパネル（このパネルは真中で二分割できる）で前後に分割されており、オリオはそのパネルのすぐ前に体育座りで座っている。時折、波の方に小石を投げたりしている。しばらくしてオリオ、語りだす。

オリオ ……どうです、皆さん。想像して御覧なさい。ここが僕の故郷です。…まあ、皆さんには残念ながら、こうして海の波の音を聞かせてやることくらいしかできませんが…。ゆっくりと、目を閉じてみてください。…（手の平で目隠しをする）…こんなの子供騙しだい、なんて目を開けている方、あなた

び出して行けなかったんです。詳しく言うと、上野駅のホームの木製ベンチで、まあ、力尽きたわけです…。つまりは列車が登場する、あのあたりから！ すべては台東区が見せた、幻のお話だったわけです…。

（人差し指を口元に持っていく）…しっ、静かに…、台東区には魔物が住んでいる…。

（にんまりと微笑んで）といったこんなわけで、まんまと台東区の魔物の呪いにひっかかってしまったのです。…え？ それでは、どうして僕は故郷に近づいてもいないのに、寒さなんか震えて死んでしまったの？ …いい質問です。東京で凍死なんて、そうそうありません。だからね、あれは、僕の心臓のやませが、心の中で渦巻いて…：（意地悪そうににんまりとして）なーんて、ひっかけ問題はやめましょう。もう、やめ。やめにするんです。これもそれも、台東区のみやかしなのです。…僕の死因は、故郷病だとか心臓病とかさういったものではなく、言ってしまえばただのアル中です。急性アルコール中毒。思えば前々から危なっかしい症状は何回かあったんですよ。心臓の動悸、胸痛、呼吸困難：短時間に

もしっかり目を閉じてください。（波の音と風の音が交互に響き渡る）…ほら、一つは太平洋の穏やかな黒潮、そしてもう一つは、やませの吹く音です。…（音がしばらくして止んで、目を開ける）…だめですね、やっぱり、何も浮かんでこない。目を開けていいですよ。こんなもの、本当にただの子供騙しです。音を聞いているだけで、瞼の裏に郷里の風景が浮かんでくる…なんて、それこそ幻想です。何を言ってるんだ、という感じですよ。…さて、僕がこんなにも理不尽に憤慨しているのは、僕は結局、この目で故郷を見ることができなかったからです。だからこうして、（立ち上がって小石を思いっきり客席の方へ投げる仕草。ポチャン、という音）音だけでも聞いて故郷の風景を思い出そうとしてみましたが…（考え込む）

…さて、僕が故郷を見ることがもついに果たせず、ではあの日、どうしてしまったかというところ、まあ、当たり前のことっちゃ当たり前ですが、当然僕たちは電車に乗っちゃいませんでした。本当に、笑っちゃうくらい当たり前です。終電のとっくに過ぎた駅のホームに、一体どういった列車が停車するっていうんです。…実を言うとね、僕たちはあの日、結局は上野駅から北へは飛

大酒煽ったときとか、ひどいとガタガタと震えだすんです。僕は、お雪さんが近くにいると故郷のやませが一段と強く…なんてことを言っていました、当たり前です。お雪さんに大酒煽られてるときに症状が起るのですもん。僕は静かに酒の酔いで死んだわけです…。こういったわけですよ！ なんだか呆れてしまう話でしょう？ 僕は笑ってしまいます。悲しくて？ いや、最高に面白くて！ 面白いです。やっぱり、僕はお雪さんを愛しています。同じ北国と同じ台東区、二つの故郷が重なりあって、やはり僕たちも出会うべくして出会い、死ぬべき場所で死んだのです…。

僕はもう、死にました。平は浜沖で生まれ、台東区は上野で死にました。そしてお雪さんは…「あゝ、上野駅」の歌手、井沢八郎と同じくして、青森県で生まれ、上野で死にました。…土地の縁とは、なんとも不思議で因果なものです！ 血縁と同じようにこうしてグルグル、グルグルと輪廻のように巡り回ってくるのですから…

列車の遠くからやって来るような音が聞こえてくる。寸発入れず、ガラガラと何かが崩れるような音。オリオ、一瞬にして真面目な顔になる。照明もガラッと変わる。それま

での明るい空気がガラツと変わる。

オリオ …そんなこつてどうすんだよ…。だけでも、聞いてくれ。これは本当なんだ。まやかしだらけの台東区で、これだけは本当だったんだ。東京ではもうすぐオリンピックが始まって、俺は上野駅の上京者で、下谷のくっば通りからは大きな青い塔が見えて…これだけは本当だったんだ！ 北の終着駅、上野駅。夢の停まり木、ターミナル…。上野は変わっていくだろう。そして俺も変わっていくだろう。だけれども変わらない…浅草六区の池の灯りやら、鳩も寝たかな梢の影で、ではないが、そういうものが、俺の中で不変の台東区として、本当のことだったんだ！（荒々しく）…そんなこつてどうすんだよ！ ああ、俺は声を大にして叫ぶさ。この上野中に、響き渡るくらいの声で！ 台東区の眠りなんざ、俺が叩き起こしてやる。故郷の幻想ってなんだ、故郷ってなんだ、心の中に埋めようとしても沸き上がってくる東京への妄執、若さってなんだ、人生ってなんだ、愛ってなんなんだ！ 全てが幻の中に飲み込まれ、なんもかもが、答えを導き出す数式を書きなげっぱにして、問だけを置いて故郷に向かって出発する…！ 待つ

オリオ、切符を空へかざす。照明、まぶしいほどに光り輝く。

すると列車の通過する轟音一つとともに、屋台崩し。それまでオリオのすぐ後ろに見えていた上野駅のホームのパネルが上手下手に分割されて勢いよくはける。大道具がみな一斉に崩れ、空には大量の粉吹雪が舞う。

そしてその奥には、マリアヴェールを頭から被り、左手に切符を掲げ、酒瓶をもった酒乱の聖職者、お雪が立っていた！

周りには無数の卒塔婆、恐山の原風景を思わせる。雄大で悲愴にも思えるBGMが大音量で流れてくる。

お雪 いつかその親潮をかっさばいて、黒潮と三陸沖でぶつかって御覧なさいと。そしたらこの、仏の酒乱のお雪が、あんたの心を浄土につれていきましょうよと！

オリオ、お雪の元へ駆け寄って

オリオ エミール・デュルケムの「聖俗論」をも呑み干し、台東区の望郷の一番星、本州最北端のみなしご、パンチ穴の空いた故郷への片道切符を左手に掲げ、酒瓶を右に抱えた…

てくれよ、上野駅！ 待ってくれよ、俺の人生！ 風にのせて、わからないまま全て故郷へかっさらっていかないでくれ！

（かき消すように一つ、列車の通過する轟音！）お雪さん、俺はきつと今から地獄へ落ちます！ あなたと同じところへは、行けそうにない。だから俺はこうして、俺という名の学問で、親潮と黒潮をぶつからせてんだ！ 全ての問をこの世に残して…。

特急「はつかり」なんてのはとっくの昔に廃止になってることも本当だが、俺は本当に、その列車の切符を買ったんだ！ そして…（胸ポケットから切符を取り出し）昔々の、とうに有効期限の過ぎた切符が、使えるわけがないんだ。俺はそれを必死に考えまいと、望郷の片道切符だなんだいって自分をごまかしていただけなのだから…。そしてあの日、実際には列車に乗ることは叶わなかったのだから…。（少し溜めて）

…しかしこうして、仕舞いこんだはずの切符を見てもみると…  
——右隅に、開くはずのないパンチ穴が空いていた！

あんたはお雪…！ 奥州の怨み子、酒乱のお雪だ！

照明が、四方八方からまぶしく二人を照らす。オリオ、お雪の傍にあった卒塔婆を一つ勇敢に高く掲げる。

お雪 ああ、聞こえるわ！ 故郷からの呼び声が！

上野駅の、北風にのって…！

BGMの高鳴りとともに列車の通過する轟音。暗転にさしかかりBGMも次第にフェードアウトしだすと幻聴のように「あゝ上野駅」のメロディが…。そして完全な暗転とともに音楽も全て消える。

台東区には魔物が住んでいる。そして今日も上野駅では大音量の出発アナウンスが空虚なコンコースから外へ飛び出し、台東区の眠りを妨げる。故郷からの呼び声が、轟音で鳴いているのだ。

（了）

1999年生まれ、福島県出身。  
文学部在学。  
月蝕歌劇団、新宿梁山泊に出入りし  
戯曲を書くに至る。

優秀賞

# 転職生

本橋 龍

## 書籍

「誰か故郷を想はざる」  
著者：寺山修司  
出版：KADOKAWA  
「寺山修司全歌集」  
著者：寺山修司  
出版：沖積社  
「津軽」  
著者：太宰治  
出版：KADOKAWA  
「春と修羅（愛蔵版詩集シリーズ）」  
著者：宮沢賢治  
出版：日本図書センター  
「銀河鉄道の夜」  
著者：宮沢賢治  
出版：角川書店  
「セロ弾きのゴーシュ」  
著者：宮沢賢治  
出版：PHP研究所  
「眼にて云ふ」  
作者：宮沢賢治

## 楽曲

「浅草の唄」  
作詞：サトウハチロー  
作曲：万城目正  
歌唱：藤山一郎  
JASRAC Code No.000-4893-3  
「リンゴの唄」  
作詞：サトウハチロー  
作曲：万城目正  
歌唱：並木路子  
JASRAC Code No.094-2043-6  
「あゝ上野駅」  
作詞：関口義明  
作曲：荒井英一  
歌唱：井沢八郎  
JASRAC Code No.069-8034-1  
「誰か故郷を想わざる」  
作詞：西城八十  
作曲：古賀政男  
歌唱：霧島昇  
JASRAC Code No. 046-0157-2  
「東京の灯よいつ迄も」  
作詞：藤間哲郎  
作曲：佐伯としを  
歌唱：新川二郎  
JASRAC Code No.055-0132-6



## 登場人物

イナサ：アルバイト。売れない俳優。

ヨアラシ：アルバイト。演劇をやっている。

アサゴチ：社員。現場の人。イナサの元カノ。

アラシマ：社員。現場の人。オイテと同期。

シマキ：社員。メンテ班。ツムジと同期。

タカニシ：社員。メンテ班。アルバイト雇用。

ヒカタ：社員。メンテ班。シラハエと同期。

シラハエ：社員。メンテ班。

シナト：途中で入社してきた。

オイテ：社員。部長。

ツムジ：社員。営業。

面接官

とある田舎の、田園の只中に急にがある会社の中。金曜の夜、定時はとうに過ぎていく。

三つのエリアがある。

・休憩室↓テーブルとイスがいくつか。奥が更衣室（ハケ）に続いている。

・仕事場↓事務機が一台雑に置かれている。プラスチックケースの中に大量のケーブルが入っている。

・喫煙所↓吸い殻入れがある。

○客入れ時

休憩室、ツムジが一人でスマホ弄ったりしてる。

仕事場でヨアラシとシマキがケーブルを綺麗に八の字巻する作業を淡々と熟している。それぞれ、アイフォンで別の音楽を流して聞いている。

開演時間になると主催が挨拶を始める。ちょっととした作品の紹介、上演中の諸注意などを喋った後に、次のことを喋る。

主催

最近考えるのが、鳥とか海を見るとときめきがあるじゃないですか。何でかなって考えた時に、何かこう、鳥とか海って全く、異国に繋がってるじゃないですか。そういう

ことがあるよなって。ちょっとロマンチックなことを考えながらこの脚本を書きました。

：というようなことを喋った後、ゆるりと上演をスタートする。

①

面接官とイナサ、それぞれ椅子を持ってきてエリア外のことか二人が対面になるように置く。シーンを始める。

面接官 どうも、お待たせしました。

イナサ あ、どうも、

面接官 風すごいですね、

イナサ そうですね、

二人、少し風の音を聞く。

イナサ あ、よろしく願います、

面接官 よろしく願います、イナサさん、

イナサ あ、はい、

面接官 おいくつですか？

イナサ あ、25です、あ、すいません、これ、履歴書、

面接官

あ、はい、あ、じゃあ見させて頂きます、

イナサ

はい、

面接官

あ、俳優。テレビとか映画とか、出てるんですか？

イナサ

あ、すいませんそれ、なんか、そんな大層なものじゃないんですけど、まあ一応映画とか、あ、自主制作のあれですけど、ちょこちょこ出たり、

面接官

へー、凄い。じゃあ、あれだ、夢を追いつつ、アルバイトで生計を立てて、

イナサ

あ、夢っていうか、まあ、はい。

面接官

あー、動物好きなんですか？

イナサ

あ、はい、そうですね。まあ、

面接官

はいはい…

イナサ

…あのー、動物…、僕何と言いますか、人とのコミュニケーションが苦手な方でして。

面接官

あ、今も別であるのー、会社みたいなところでアルバイトしてるんですけど。

イナサ

はいはい

面接官

ええ。や、全然いいところなんですけど。何と言いますか、全部、作り物のように思えてきてしまっ。いるだけでしんどくなってく

イナサ  
面接官

えー、うちの仕事って、動物たちのケージの掃除がメインになってくるんですけど。ただ、勿論、動物だけと接してれば良いって訳ではなくて。  
あ、はい、  
うちがそのー、動物と人の笑顔が宝物、っていうのを経営理念にしてまして。人と動物のふれあいを事業として行ってる訳なんです。なので、うちのスタッフであるかぎり、動物

を見に来るお客さんへの対応っていうのもそのー、大切に考えて頂きたいんですね。

イナサ

あ、はい、あ、

面接官

そういったことは大丈夫ですか？

イナサ

あ、勿論、はい、

面接官

…うちで働いてもらう人には必ずしてる話があります。あのー、イメージして欲しいんですけど。あなたは洋服屋さんに、服を買いに来ました。中には二人の店員が、売り場の服を畳んだり、作業をしています。あなたが店内に入ると、片方の店員は作業の手を止め、

イナサ

あなたの方に笑顔を向け、元気に、いらっしゃいますと。挨拶してくれました。対してもう

面接官

片方の店員は作業の手を止めずに、あなたの方も全然見ずに、他の店員の声を聞いていらっ

イナサ

しゃいませと、繰り返しました。では、あなた

面接官

は。何か聞きたいことがあった時に、どちらの店員に声を掛けますか？

イナサ

…あー、

面接官

…あ、

イナサ

…あ、

面接官

…あ、

イナサ

…あ、

面接官

…あ、

イナサ

…あ、

るんですよ。なんか、笑い声とか、凄いで、刺さるっていうか、その点動物はいいなあって。僕なんか、動物と接してる時の僕は凄いで、良いよねって友達、友人に言われて。昔から。

なんか、そういうった仕事は経験ないんですけど、ちょっと、やってみたいなって。あ、これ動機みたいな感じなんですけど。

面接官

…はいはい、

イナサ

…あ、すいませんなんか、結構ばーってしゃべっちゃって

面接官

いえいえ。…そうなんだ。

面接官

えー、うちの仕事って、動物たちのケージの掃除がメインになってくるんですけど。ただ、

面接官

勿論、動物だけと接してれば良いって訳ではなくて。

イナサ

あ、はい、

面接官

うちがそのー、動物と人の笑顔が宝物、っていうのを経営理念にしてまして。人と動物のふれあいを事業として行ってる訳なんです。なので、うちのスタッフであるかぎり、動物

イナサ

…え、そんな、あれですかね、

面接官

…あー、

イナサ

…あの、

面接官

…あ、や、ごめんなさい。なんか…や、すいません、帰ります

イナサ

…え、

面接官

ごめんなさい、(荷物持ったり)

イナサ

…え、

面接官

…え、

イナサ

…え、

面接官

…あ、いえ、え、ご期待に添えなかった感じですか？

イナサ

いえ、…あ、じゃあ、

面接官

あ、はい、

イナサ

…あ、

面接官

…あ、

イナサ

…あ、

面接官

…あ、

イナサ

…あ、

面接官

…あ、

イナサ

…あ、

したら十年後もこうやってケーブルを巻き続けているなって。ずーっと。八の字巻で。こう、ヨアラシ  
ヨアラシ ……あー、  
シマキ ……こう、…こう、(巻き続ける)

タカニシ、来る。

タカニシ (めっちゃでかい声で) かれーーす  
シマキ ういー、  
ヨアラシ お疲れ様でーす  
タカニシ どんな感じでしょうか！  
シマキ えー、…無限です！

タカニシ なるほどです！ ……こっちはあがらせて頂きました  
シマキ おー、なるほどですー、

タカニシ、エリアにあるもので遊んだり。

タカニシ あがりませんか、  
シマキ あー、あがっちゃってもいいけど、  
タカニシ もう乾杯しちゃってるって。  
シマキ 待って、じゃあこれ終わったら。  
タカニシ ……じゃあ俺も一本巻くか！

ツムジ んーん、全然、  
シラハエ あ、ちょっと見てきますね

ヒカタ、来る。

ヒカタ もうすぐ来ると思いますよ、手伝いいらないって言うってたんで。  
シラハエ あ、  
ツムジ あ、本当？ ……あ、ヒカタちゃん今日来ないの？  
ヒカタ すいません、明日もあるんで、(更衣室に行く)  
ツムジ えーめっちゃ残念、まあヒカタちゃん遠いからね、あっしは明日、オフなんで。最高です。

アサゴチとアラシマが通る。二人とも帰るところ。

ヒカタ 花火大会は来るんですか？  
ツムジ うんそれだけ。  
ヒカタ お、じゃあその時に。  
ツムジ ねー  
シラハエ (二人に) お疲れさまでーす  
アラシマ お疲れー

シマキ 巻いちゃいやしょ、…ヨアラシさんもそれ終わったら、終了で。  
ヨアラシ あ、はーい、

仕事場にヒカタ来る。

■ヒカタ 何か手伝いありますか？  
■シマキ あ、大丈夫っす、今巻いてるの終わったらあがろう言ってるから、  
■ヒカタ あ、じゃあ先あがります、お疲れさまでした  
■其々 (挨拶)

シラハエ、帰り支度をした状態で休憩室を通る。  
※■と●と▲の付く科白は同時進行で進む。

●シラハエ (ツムジに) お疲れさまでーす  
●ツムジ あ、終わった？  
●シラハエ はい、  
●シラハエ タカニシくんとかも？  
ツムジ はい。あ、シマキさんはわかんないけど。あ、  
シラハエ どうかな、行った方がいいかな、  
ツムジ 先行けば良かった  
シラハエ あすいません待たせちゃって、

アサゴチ お疲れさまですー  
ツムジ お疲れさまです、あ、お二人、あの一、海峡で飲んでるんですけど来ませんか？  
アラシマ おー、あーちょっと無理だわ、  
ツムジ あー残念、

アラシマ あ！ あれ、オイテさんがあれ、朝からずっとなんか、「今夜は誰かと飲みに行きたい」ってずっと言ってたよなんか。うわ言みたい。うわ言みたい(笑) じゃあ誘ってみよ誘ってあげて。もう。  
ツムジ わかりました  
アラシマ あ、シラハエさん、スピーカーって直りそう？  
シラハエ あ、ちょっとまだ解んないですね、色々弄ってはいるんですけど、  
アサゴチ あ、そしたら私別の案件で抑えてるやつダッシュで運べば使いまわせるっぽいね。

シラハエ あー、え、大丈夫ですかそれ、  
アサゴチ うん、まあ、なんとでもなるわ  
シラハエ えー、すいません、  
アサゴチ んーん、

ヒカタ、更衣室から戻る。

ヒカタ お疲れさまでーす

アサゴチ お疲れさまです

アラシマ 、「おう、……あ、あのさ、新たななる風って明日でしょ

ツムジ お、新たななる風、明日っすね、

アラシマ おー、楽しみだ。…あ、じゃあ、

ツムジ はーい、

二人、去る。

ツムジ くー（アラシマ格好いいの意）

ヒカタ くー

シラハエ 、「ひゅーひゅー（無理に乗っかる）

仕事場、シマキ作業を終える。

シマキ うし、じゃあお先です（去る）

タカニシ お、容赦なく置いていくー

シマキ おつかれっしたー

二人 （挨拶）

ヒカタ お疲れさまでーす

ツムジ お疲れー

シラハエ お疲れさまー

ヒカタ、去る。

仕事場、ヨアラシも作業を終える。

ヨアラシ …あ、すみません、お先に。

タカニシ あ、ヨアラシくんさ。ちょいちょいちょい、

ヨアラシ あ、はい、なんでしょう、

タカニシ 君は家帰ったらいつも何してるの

ヨアラシ …あーなんですよ、

タカニシ アニメ見てんの？

ヨアラシ え（笑）、や、アニメは見ないっすね、

タカニシ あそう

ヨアラシ はい…あでも脚本みたいのを書いたりしてま

すよ、ちょこちょこ、

タカニシ あ、なんだっけ、演劇だっけ、やってんだっ

けそういうの、

ヨアラシ まあ、一応、全然、大したあれじゃないです

タカニシ けど、

ヨアラシ ヨアラシくんさ、服とかちゃんと洗ってる？

タカニシ はい？

服とか洗ってる？ ちゃんと、柔軟剤とか使っ

てる？

ヨアラシ え、え、なんすか、

タカニシ いや、ヨアラシくん臭いからさ、ぶっちゃけ、

ヨアラシ （笑って）ええ、あ、すいません

タカニシ や、なんか仕事終わって、汗とかかいて臭いのはしょうがないけどね、あなた朝からだか

ら。

ヨアラシ あ、マジっすか、

タカニシ それでなんか、周りの人の、モチベーション？ 下げたりしたら良くないでしょ。それは。あ

んまし。

■ヨアラシ …あはい、

●ツムジ なんか面白い話して

シラハエ え、面白い話、

シラハエ、「うーん」「あー」とか言いながら悩む。

タカニシ や、俺も結構汗かく方だけど、その辺めっちゃ

気使ってるから。洗濯の頻度増やすとか、柔

軟剤使うとか、汗かいた時ボディペーパーみ

たいので拭くとか。そういうとこちゃんとし

た方がいいよマジで。

ヨアラシ はい、

タカニシ

なんか、バイトといえど身だしなみとかある程度ちゃんとしなきゃじゃん。どんだけ仕事

やっててもさ。そういうとこだかんね本当。

解った？

ヨアラシ あ、はい、

タカニシ うん、

シラハエ あ、逆にツムジさんは、面白い話ないですか？

ツムジ ないから聞いているんじゃーん（笑）

■シラハエ あ、そりゃそうか、そりゃそうか（笑）

●タカニシ なんか喋れや！（お尻叩く）

ヨアラシ あっつ（笑）さーせん、さーせん。

タカニシ 行っていいよ、

ヨアラシ あ、すみません、ありがとうございます。

ヨアラシ、去る。タカニシも作業が終わったところで去る。

シマキ、休憩室に来る。

シマキ お疲れさまでーす

シラハエ お疲れさまでーす

ツムジ お疲れー、タカニシくんは？

シマキ あ、もうすぐ、

ツムジ 早くー

シマキ え結局どこになったん？

ツムジ 海峽

シマキ またー、誰が好きなのあそこ

ツムジ なんかギボさんあたりがそのライン作ったよ

シマキ ね、海峽ライン

シマキ あそっか

オイテが来る。カメラを持っていきなり皆を撮ろうとする。

オイテ はい！ はい！

シマキ あ、お疲れさ、あ、

シラハエ あ、

オイテ はい、7足す6、引く、9、は！

間

■シラハエ …あ、4、

●シマキ 4、

オイテ あれ、あ間違えちゃった、あ、(撮る)あ、撮っちゃった、いいか、はは、あの一小難しい計算からの2のやつだったんだけど、ま逆

タカニシ お疲れさまでーす(更衣室行く)

其々 (挨拶)

オイテ あの、入ってくるとこのこういう(マイムで表す)

ツムジ あー、

シラハエ へー

シマキ いいっすね、

ツムジ うん、いい、

シラハエ うんうん

オイテ ね！

タカニシ更衣室から戻る。

タカニシ (ツムジらに) 行く？

ツムジ ああ、

オイテ …あれ、どっか行くの

ツムジ あ、なんか一応、飲みみたいなの、

オイテ へーいいなあ、どこ行くの？

■ツムジ 海峽です

●シマキ あ、海峽に

オイテ へーそっかあ

ツムジ はい

オイテ いいなあ、

にいいか。梅佳代的な。…お！ お！ シマキくん！ シマキくん、、(シマキ1人撮ろうとする)

シマキ お、お、

オイテ 笑ってーめっちゃ笑ってー

シマキ …(めっちゃ笑う)

シマキ いいねいいねいいね、、

オイテ はい！、チーズ、、、、

間、

オイテ ……あれ？ ……あ壊れちゃった、、

シマキ …あ、

ツムジ え大丈夫ですか、

オイテ ……わかんない、あ、でも、

ツムジ え、明日用のやつですか？

オイテ うん！ 花火見ながらあのープロジェクターで投影しようと思って。

ツムジ 屋上そんな映せるとこありましたっけ

オイテ うん、あの一入ってくるとこの、

タカニシ来る。

間。

ツムジ え、オイテさんは今日は、

オイテ あ、俺何もない！

ツムジ あ、じゃあ、良かったら、、…一緒に、

オイテ え？ や、いいよいいよ！ あんまね、年寄りがあるするのはね、

ツムジ いやいや年寄りって(笑)全然若いじゃないですか

●シラハエ いやいやいやまだまだあれじゃないですかー

▲シマキ 何言ってるんすか！ まだ、

オイテ いやいや、でも、本当。皆で楽しんできて下さい。

ツムジ えーめっちゃ残念ー、じゃあオイテさん本

当、今度、行きましょ

ツムジ うん、行こ行こ、

オイテ やったー、あ、じゃあ、いつてきまーす、

ツムジ うん、みんなまた明日。ツムジさん、花火の時。

オイテ 其々 (挨拶)

其々 (挨拶)

オイテ以外去る。オイテ、カメラを弄る。

オイテ ……(カメラのフラッシュが光る)あ、撮れた、

ヨアラシが来る

オイテ あ、お疲れさま

ヨアラシ お疲れさまです

オイテ あ、ヨアラシくん写真撮っていい？

ヨアラシ あ、写真、

オイテ あのーみんな撮ってて。明日用の。

ヨアラシ あ、はい、

オイテ ……あい、(撮ろうとする)あ、笑顔ください、

ヨアラシ ……

ヨアラシ、引きつった作り笑い。オイテ、撮る。

オイテ ありがとうー

ヨアラシ あ、じゃあお疲れさまでした

オイテ あ、お疲れー

ヨアラシ、喫煙所に行き、パソコンを出し何かを打ち込む。

たまに煙草吸ったり。

オイテ、椅子に座りカメラをチエックする。

イナサ、エリア外に歩いてくる。缶コーヒーを飲んでいる。スマホに着信があり、出る。

イナサ ……あ、もしもし、

アサゴチ もしもし、あ、ごめん今大丈夫？

アサゴチ、電話しながら別のエリアに現れる。

イナサ あ、うん

アサゴチ 今日会社いなかったね、撮影とか？

イナサ や、何も。

アサゴチ そっか、え、ちゃんと働いてる？ お金大丈夫？

イナサ ……まあなんとか。

アサゴチ そっか、明日は来るの？

イナサ うん、行く。

アサゴチ そっか、花火大会は？

イナサ なにそれ

アサゴチ 知らないんか、明日近くで花火大会あって。

うちの屋上で見れるの。

イナサ へー、こんな時期にあんだ、

アサゴチ うん、毎年やってるよ

イナサ そうなんだ、

アサゴチ え行く？

イナサ 行かないかな

アサゴチ あっそ、

間

アサゴチ ……あのさ、私会社辞めることにした。

イナサ ……え、あそうなんだ、

アサゴチ うん、

イナサ ……え、何かあったんですか？

アサゴチ ……うん、まあ、いつか辞めようってのはずっ

と思っはいたんだけど。ちょっと。あって。

良い機会かなって感じなんだけど。

イナサ うん

アサゴチ ……

イナサ ……え、

アサゴチ ……なんかね、失恋した。私、

イナサ ……あ、え、(笑)え、……そうなんだ、……あ

アサゴチ そっか、

アサゴチ それだけじゃないけど、本当、

イナサ ……アラシマさん？

アサゴチ ……まあ、そう。

イナサ そっか、そっかあ、

アサゴチ 意外でしょ

イナサ うん、……全然わかんないわ、

アサゴチ ね、私もなんでそうなったのかよく解らない

んだけど。なんかね、多分、仕方なくそうなっ

た。

イナサ ……うん、

アサゴチ よく仕事終わりに飲みに行くんだけど。二人

で。帰りにさ、なんか、抱き締められたり

するのね。なんか、おでこにキスされたり。

最初はなんもなかったんだけど。なんか、

うわーってなってきた。

イナサ うん、

アサゴチ 後なんか、私とアラシマさんが付き合ってる

んじゃないかって何かからかわれるようになって。

なんか、それもあって私もそういう気持ち

ちに流れてったなって気がするんだけど。で

も、その後色々話聞いて。なんか、あの人

特定の女性についていうか、色んな人にそう

いうことするタイプなんだって。

イナサ ……(笑)最低じゃん、そんなん、

アサゴチ うん、ね、まあだから、無理だなんて。

イナサ ……

アサゴチ でも本当、この年で何やってんだらう、って

間

思う。

イナサ …なんか、

アサゴチ うん、

…なんでそんなことになるかな、ね、

アサゴチ …

アサゴチさんはさ、会社入って、とても、会社の為に、誠実に、謙虚に、頑張ってきたんだって思うんだ、や、俺そんな知らないけど。そうなんだろうなって、思う。

アサゴチ …や、どうかなあ、

イナサ それなのにさ、なんなんだろう、意味わかんないわ、

アサゴチ …ありがとう、

イナサ …、そっか、会社辞めるんだ、

アサゴチ うん

イナサ …え、会社辞めて、どうするんですか

アサゴチ まだ決めてないけど。なんか、ワーホリでも

行ってこようかなって思ってるけど。1年くらい。

イナサ …そうなんだ。

アサゴチ 帰ってきてからは、また働かないとだけだね

イナサ …そっか。

間。

イナサ …あのさ、なんか、もう一回さ、付き合っ

アサゴチ てみませんか、俺たち、

アサゴチ …え？

イナサ あ、や、うん、

アサゴチ …あー、

イナサ …それは、あーえー

イナサ ごめんなんか、こう、託けた様なタイミングで、なんか、でも、うん、そう、…いや、俺、アサゴチさんのことめちゃくちゃ好きなんだわ、もう、めちゃくちゃ好きです、

アサゴチ …え？

イナサ (笑)、あの、返事は、全然、後とかでもいいので。

アサゴチ …

休憩室にアラシマ来る。

アラシマ うす、

オイテ あれ、どうしたの、

アラシマ 忘れ物。

オイテ ああ、

アラシマ ふー、大変。

オイテ なにが？

アラシマ 色々。

オイテ (笑)、明日、花火見てくの？

アラシマ あー、あそっか、明日か、

オイテ 明日だよ

アラシマ 年に一度の、社長が、乙女の顔する日だ

オイテ そうそう(笑)

アラシマ そっかあ、もうそんな時期か、

オイテ ね。

アラシマ 年度の締めですね。…まあ酒だけ飲んでこう

オイテ かな

アラシマ あそう、

アラシマ …今これ、社内俺らだけ？

オイテ あーそうね、うん、

アラシマ お、おっしゅー！

アラシマ、走って見えないところに行く。

アサゴチ …風強いね。

イナサ あ、ね。

アサゴチ 何か飛ばされてきそう

音楽、映像が流れる。

②

テロップで「翌日、朝。」と出る。

休憩室にシナトが背中向きに座っている。仕事場にタカニシが寝ている。シラハエ来る。髪がぼさぼさ。シラハエ、シナトに気づきじろ見る。

シラハエ おはようございます、おはようございます、す、

シナト、全く反応しない。シラハエ、仕方なくそのまま通り過ぎ、喫煙所に来る。灰皿がない。

シラハエ …うわー、

シマキが来る。

シマキ おはようっすー、

シラハエ あ、おはようございます、え、めっちゃ早いじゃないですか、どうしたんすか、

シマキ オールオール。

シラハエ あ、結局、え、じゃあ帰ってないんですか、うん

シラハエ うえー、寝てないんですか？ 大丈夫ですか？

シマキ ビデオ個室でちょっと

シラハエ あ(笑)：誰が残ってたんですか？

シマキ タカニシさんとツムジさんと、

シラハエ あーいつもの、タカニシさんは？  
仕事場で寝てる

シラハエ あ、  
(置いてあった煙草とって) これもらっちゃっていいかな、

シラハエ あー、いー、んじゃないっすかね、あ、どうかな、わかんないっすけど、

シマキ あれ、灰皿は？

シラハエ ヒカタさん掃除してるんじゃないっすか、

シマキ ああ、(煙草吸う)

シラハエ やっちまったあ、うわあ、

シマキ え(笑) 何が？

シラハエ 灰皿清掃、やらせてしまっ

シマキ え、凹み過ぎじゃない

シラハエ や、いつもやって頂いて、

シマキ あー、…風めっちゃ強くなかった？

シラハエ はい、何か台風来てるらしいっすよ、

シマキ へー、この時期に。

シラハエ はい、何か結構エグいらしくて。

シマキ 花火大丈夫かね、

シラハエ あー、そっか、

ヒカタ、灰皿を持って来る。

ヒカタ おはようございます

二人 (挨拶)

シラハエ ごめん、灰皿、またしても、

ヒカタ 全然。好きなんです。寧ろすいませんシラハエさん早く来たのに、

シラハエ いやあ、

ヒカタ (財布出して) なんか、飲みます、？

シラハエ あ、大丈夫です

ヒカタ 今度、本当、全部やるんで、

ヒカタ いえいえ、…あ、お二人、見ました？  
休憩室、

シマキ え？

シラハエ あ、あの、

ヒカタ 女の、

シラハエ はいはい、

ヒカタ あれ、新たな風かな、

シマキ だよ、

シマキ ●シマキ あ、休憩室にいたの？

ヒカタ あ、はい、なんか、、、座ってて、

シラハエ うんうん、

シマキ …や、座るでしょそりゃ、

シラハエ いや、なんか、なんかただならぬ感じで、

ヒカタ ていうかこんな早く来ます？ 8時前には

シマキ ましたよ既に

シマキ 時間間違えたんじゃね、

ヒカタ 私声かけたのにシカトされて、

シマキ ー

シマキ ●シマキ あー私も、

ヒカタ え、何なの、

シマキ ちょっと見てこよっかな、

ヒカタ あ、じゃあ私も行きます、

シラハエ あ、じゃあ私も、

シマキ …おー、メンテ班謎の団結力を見せるう、

ヒカタ あ、じゃあタカニシくんも呼ば、

ヒカタ おおっ、

三人、去る。シマキ、直ぐに仕事場に来てタカニシを叩く。タカニシ、よく解ってないが半分寝た状態で付いていく。四人、休憩室に来る。シナトに少したじろぐ。タカニシ、椅子に座り寝る。

シマキ あ、なんか、

ヒカタ ちょっと、声かけて、



シマキ 、、あ、おはようございます、  
シナト ……  
シマキ あ、すみません、  
シナト ……  
シマキ ……え、あの、ちょっと、

シナト、急に立ち上がる。三人驚く。シナト、イヤホンを外し振り向く。

シナト (大きい声で) わあ、びっくりしたっ  
其々 (驚く)

シナト あ、すみません、あー、びっくりしたあ、  
いるからあ、

シラハエ ……あ、すみません、  
シナト あ、いえ、あ、おはようございます、  
其々 挨拶

シマキ あ、それ、なんか聞いてたんっすね、  
シナト あ、これ、はい。…あ、もしかして呼んでく  
ださってました？

シマキ ああ、まあ、  
シナト あ、すみません、  
ヒカタ 中途の方ですか？  
シナト あ、はい、今日から、働かせて頂きます、

シナト どこ、えー、転々と、  
シマキ 転々と、  
シナト とりあえず南のほうから来たと思うんですけ  
ど、

間。

ヒカタ ……あー、なんか、(シラハエに) 面白い方で  
すね、

シラハエ えーねー、(笑)  
シマキ ……え、なんか、そういう、ギャグ的な、  
シナト あ、違います違います、

シマキ あー、  
シナト あ、でも私お笑いとか凄い好きで。芸人さん  
とか。…。(1人で笑い出す) え、皆さんお笑  
いは好きですか、

シマキ ……あ、まあ、  
シマキ はい、  
シラハエ うん、  
●シラハエ ……(笑) 私最近あの人好きで、…あれ、…  
シナト ……なーかーやーまーきんにくんです！  
パワーっ！…。(笑)

あの人なんていうんでしたっけ…。(笑)

ヒカタ あ、シナトさん、  
シナト あ、そうです、  
ヒカタ あー、凄い、早いですね、  
シナト あ、すみませんなんか予定より早くついてし  
まって。

ヒカタ 何時ごろ来たんですか？

シナト あー、何時、時計見てなかったなので、なん  
か、まだ外暗かったと思うんですけど。

●ヒカタ ……えーそれ早過ぎじゃないですか、

シナト ……いやいやいや(笑)  
ヒカタ あ、すみません、  
シナト あ、や、…お住まいってどちらなんです  
か、  
シナト あ、なんか、今なくて、

間。

シマキ (笑)

ヒカタ え、ないってどういう、  
シナト 色々転々としてるものでして、

ヒカタ え、え、(笑) 昨日はどうしたんですか  
シナト あ、昨晩は近くの、桃太郎っていうとこで、  
●シマキ ビデオ個室やん  
●ヒカタ ……え、その前はどこにいたんですか、

ヨアラシ喫煙所に来る。パソコンを弄る。

●ヒカタ えー、

●シラハエ おー、

▲シマキ や、

シナト トウースっ！ ハァーッ！

シナト ……(手叩いて笑う)

ヒカタ ……(笑) ちょっと面白すぎますシナトさん、

シナト あ、すみませんちょっと、

シマキ ……え？

シナト ……シナト、走り去る。

シマキ え、どこ行った？

シラハエ トイレですかね、

ヒカタ ああ、

シマキ ……あー、あれだ、やばい人だ。

ヒカタ ……(思いだし笑います)

三人、何となく椅子に座る。

イナサ、喫煙所に来る。

イナサ うす、  
ヨアラシ うす、

イナサ ……(煙草吸う)

ヨアラシ あ、イナサくんこれ、忘れないうちに、(バックから漫画「わにとかげず」を出し渡す)

イナサ あ、はい

ヨアラシ や、古屋実えぐいね。ジワジワくるわ、あ、きた？

ヨアラシ きたきた。俺これ「シガテラ」より全然きたあーヨアラシくんも深海魚みたいな顔してるもんね、

ヨアラシ ちょいちょい(笑)やなんかでも俺の為の話なんじゃないかと思ってしまうって、

イナサ あ、俺も、(バックから漫画「空が灰色だから」)はい

ヨアラシ え、どうこれどうこれ俺ちょっと駄目だったこれ、

ヨアラシ あーだよなー、イナサくんそうなんだよなー、あれでしょ？ 絵が駄目でしょ、

イナサ まあ

ヨアラシ イナサ氏ね、解らないよ君は、まあまあまあ、そうねー、や、これはだからわざと

こういうタッチにして、こう、現代性というか、今の、カオス感とか敬白さを、表してるんですよ、

イナサ まあわかるけど、

タカニシ起きる

タカニシ んー、(伸び)

其々 (おはようの挨拶)

タカニシ え何これ、何してんの、

シマキ ……さあ、

タカニシ ……煙草、

タカニシ、去る。流れで三人も去る。ヒカタは直ぐ仕事場に現れ、パソコンを弄る。

イナサ ヨアラシくん今日なんかいい匂いするね

ヨアラシ あ、そう？

イナサ なんかつけてるの？

ヨアラシ や別に。

イナサ あそっか、

ヨアラシ ……でもさあ、イナサ氏はこれあんま挑戦がないよ。や、すげえ良かったけど。もっとチャ

イナサ レンジしてかないと

あー、

ヨアラシ ちよっとさ、お互いなんか、ガチ目に行き過ぎてるからさ最近。次なんかもっとしよーもないので行こうよ。

イナサ しよーもないのってどういうの、

ヨアラシ 俺だから次はさ、板垣恵介の、あの一「刃牙」の作者の。刃牙以外のやつ持ってくるわ。

「メイキャッパー」っていう刃牙の手前に書いてたのがあるんだけど、

タカニシ、喫煙所に来る。

タカニシ ういーホモカップルー、

其々 (挨拶)

タカニシ (漫画に気づいて) 何これ何これ、(とる)これ、あれっすか。萌えのやつっすか、萌えのやつっすか、先生、

ヨアラシ あ、はい(笑)なんか、

タカニシ (ヨアラシに) 先生これがいいんすか、

ヨアラシ ……あー、や、これ、あの、女の子が、可愛いじゃないっすか(笑)

タカニシ ……(笑)萌え？ 萌え？

ヨアラシ あーはい(笑)、カーっとくる、こう、

タカニシ (笑) 気持ちわるいわ！(漫画ばらばらする。)

イナサ あ、俺、(去ろうとする)

ヨアラシ あ、俺も、

タカニシ ……や、これは？(漫画)

ヨアラシ あ、良かったら、

タカニシ いらねーわ(投げる)

ヨアラシ あ、さーせん(笑)

二人、去る。そのまま更衣室まで来て其々着替える。

タカニシ、煙草を吸う。

シマキとシラハエ、仕事場に来る。

シマキ ……完全に休みモードだな、(ヒカタの横から

パソコン覗いて) え今日どんな感じっすか、

午前中にシフト説明会があります

ヒカタ あそっか、

●シラハエ あー

シマキ それって一昨日受けた人はいいの？

ヒカタ あ、シマキさんそっか、…あれ、でも今日出勤の人は一昨日の受けなくてってなってませんでしたっけ、

シマキ 俺今日懺悔出勤だから…先週の。寝坊の。

ヒカタ

あーなるほど、あ、だからスケジュールにいないんだ、

シマキ  
ヒカタ

まあでも花火見に来るつもりだったし。今日やりますかね、

シマキ

さあ

ヨアラシ

俺さ、ずっと書き溜めてる台本があつて。

イナサ

へー、

ヨアラシ

それめっちゃ良い感じで。戯曲の賞に出すつもりなんだ、

イナサ

いいじゃん、

ヨアラシ

それやる時さ、イナサくん出てよ

イナサ

あー(笑) 内容次第かな、

ヨアラシ

えー(笑) そっかぁ、先行くわ、

イナサ

あ、うん、

ヨアラシ、去る。イナサは着替えが終わると休憩室の椅子に座ってぼーっとする。

アラシマが来る。大量のケーブルが入ったケースを持つてる。

アラシマ

おはようございまーす

其々

(挨拶)

アラシマ

これ昨日のバラし分でーす

シマキ

……はい

アラシマ

後あのー、(巻きの汚いケーブル)これ巻いたのどれか解る? …多分昨日の最後の方で巻いてた人だと思うんだけど。

シマキ

あー、俺かな、あー、どうだったけな、

アラシマ、持つてたケーブルをほどいて巻きなおす。

アラシマ

最近ケーブル巻き結構汚いからさ、現場でやり直したりしてんのね、そっちも忙しいと思うけど、ちょっと気使ってくれと助かるわ、

シマキ

あ、はい、

アラシマ

(巻き終わって) はい。よろしくー

シマキ

あ、すいませんでした、

アラシマ、去る。

アサゴチ、休憩室に来る。

アサゴチ

おはようございます

イナサ

おはようございます

間

アサゴチ

あ、昨日はごめんなんか、急に、

イナサ

あ、いや、俺も、…あ、辞めるってこと、もう言ったの? なんか、

アサゴチ

アラシマさんにだけ、昨日の帰りに。

イナサ

あ、そっか、

アサゴチ 社長とかにはまだ。そっから会長とかそれぞれ部長とか、後お得意先とか、色々挨拶したりしなきゃだわ、

イナサ

大変だね、

アサゴチ

ね、なんか。…ずっとやってたからさ、色々考えるよ、

イナサ

…あのさ、昨日のやつって、あ、や、全然後で良いんだけど、

アサゴチ

…、ごめん、ちょっと、まだ掛かるわ、

イナサ

全然、なんか、ごめん、余計な負担増やした感じで。

アサゴチ

や、ちょっと、真剣に考えたいんで、

イナサ

あ、ありがとうございます、

間。

と考えらんないわ、

アサゴチ まあ、男の人はね、女の人は子ども作ろうって考えたらリミットがあるから。

イナサ 、、ごめん、俺あんましそういうの解んないんだけど、リミットってどれくらいなんですか、

アサゴチ 、、でも、30前半とかじゃないかな、一般的には、

イナサ え、そんな早いんだ、

アサゴチ そうだよ(笑)

イナサ 、、そっか、

アサゴチ 色々考えること多いんだよ。や、そういうの本当、くだらないなって思う、けど、そういうことも、あるよなっていう、

イナサ 、、

アサゴチ

、、なんか、例えばイナサさんと付き合ったとして。そのことを喋れる人と、喋れない人がいる。イナサくんのことを紹介できないって人がいる。

イナサ 、、ごめん、ちょっとよく解んないんだけど、、

アラシマ、来る。

アラシマ アサゴチさんそろそろー、

アサゴチ あ、はい、、、じゃあまた

イナサ 、、

アサゴチとアラシマ、去る。

仕事場にヨアラシ来る。其々挨拶。

ヒカタ あ、ヨアラシさん、

ヨアラシ はい、

ヒカタ

今日十時くらいからシフトの、なんか仕様がかわって。その説明会が、十時くらいからあるので、それでアルバイトの人も参加って感じなんで、

ヨアラシ

あ、はい、

ヒカタ

よろしくお願いします、あのここでやるみたい

ヨアラシ

あ、はい

喫煙所にシナトが来る。

シナト あ、おはようございます

タカニシ

、、おざまーす

シナト、煙草ケースからシャボン玉を取り出し、吹き始める。

シナト はい、

タカニシ 、、あ、それなんすね、

シナト 、、あ、はい

タカニシ 、、えなんでそれ？

シナト や、なんか、こう、唾えたくは、なるじゃないですか、なんでか。

タカニシ ああね、

シナト なので、これー。え、これ良くないですか実は。(煙草指して)それ癌になるっていうじゃないですか、恐ろしくも。私癌はちょっと、

シナト NGだなんて。NGだなんて。

シラハエ 、、あー、ロックっすね、

シナト、悪い顔をして親指を立てる。

チャイムが鳴る。

シナト あ、行かなくては、

シナト、去る。休憩室のイナサも動く。

### ③

テロップ「10時、シフト説明会」と出る。

仕事場にイナサ、ヨアラシ、アサゴチ、アラシマ、タカニシ、ヒカタ、シラハエ、シナト、其々パイプ椅子などを出し、モニターのある方向に向いて座る。オイテがモニターにパワーポイントの画面を出し、ページを飛ばしながら説明をする。シラハエはウトウトしている。シマキは隅でケーブルを巻いている。

オイテ

という感じで。ざっくり言うと、今後インターネットで、各自シフトを確認できます、という話です。、、シフトについての話は以上です。えー、ここまでで質問のある方いらっしゃいますか、えー、大丈夫ですかね、何かあれば個人的に言ってください。、、最後に、(パワポのページを送る)せっかくお集まりいただき直接話す機会を持ちましたので、ペンディングになっていた改善提案事項についてお話しします。(パワポ) えー、はい、2月26日、マチダナオキさん、今日はいないんですが。マチダさんからの改善提案です。社用車によ

る自宅からの現場直行時、現在運転手だけがタイムカードを切りますが、同乗者も同じ時間でタイムカードを切る。ご検討お願いします。えーこれについてなんですが、(パワポ) えー、はい。通勤に要する時間は労働時間としない。現在この原則を貫こうとしています。えー社用車での現場への直行の際、運転者は運転していかないといけないので、業務です。これはもう、これまで通りです。同乗者は、同乗するかどうかは自由です。現場で落ち合うことも可能です。そして同乗者は、助手席や後部座席で寝ていても、おにぎりを食べていても、漫画を読んでもOK。業務時間ではないからです。えー、まあ、そういうことなのですが、何か質問はありますか、

アラシマ、手を上げる。

オイテ

はい、あのー運転する上で、助手席に座る人っていうのは結構仕事を任せちゃってるんですね、周り見てーとか、降りて見てーとか、そこでそのー、やってること自体が仕事じゃないっ

オイテ

てするのはどうかないと思うんだけど、なんかそういうの任せること自体やめるってことなんですかね、

これはあのー、直行時の、自宅から社用車での直行時の話なので途中で拾った場合だけだ

と思うんですけど

途中で拾った場合です、それは、頻度としては、そんなに多いことな

んですか、

まあありますね、

あのー労働管理できるのであれば、そのーやっ

てくれた時間から、管理者が、やれば良いと

思います、その時間から、

仕事としちゃって良いってことですか

仕事としちゃって。例えば二人拾ったと。二

人のうち一人は助手席で、色々、やってもらっ

たら、そのやってもらった時間から、仕事と

する、かは、業務管理をする人の判断で、

現場で決めちゃっていいってことですか、

はい、そのー、何を仕事として何を仕事じゃ

ないとするか。その判断は、なんというか、

はっきり、ここから、って風にはできないの

で、ある程度、現場の、業務管理する人の個

人の判断に任せるしかないかなって思います。

わかりましたありがとうございます。あ、ついでにもう一ついいですか、

あ、はい、

アラシマ シフトの件なんですけど、個人のスマホ使っ

て見た場合の、そのーネットの、通信料みた

いのって補助があった方がいいんじゃないか

と思うんですけど。

ああ、(笑)なるほど、えー、はい、一応こ

れ、見なきゃいけないものではないので。見

てもいいよってものなんです。なので、補

助とかは考えてないですね。

見なくていいならそもそもなくていいんじゃないですか、

オイテ ……そうでしょうかね、必要って人もいるから、

…まあでも、そういう意見があったってこと

で、検討します。

アラシマ はい

オイテ えー、はい、他に質問は、大丈夫ですかね、

はい、あ、じゃあ、ついでというか。紹介なん

ですけど、…じゃあ、(シナトを手招きする)

間。

シナト 何か、でもこれ学校みたいですね、なんか、

オイテ ……あー、

シナト えー、ではみなさんは、そういうふう川だと云われたりしていたこのぼんやりと白いも

…(波々出る)あ、こんにちは、

今日から、中途入社という形で一緒に働くこ

とになった、シナトさんです、

あ、よろしくお願いします、

(挨拶)

はい、よろしく願います、何か、新たな

る風ってね、シナトさん来る前皆が、シナト

さんのこと新たな風って呼んでて。

あ、そうなんです、

シナト シナトさんが来たことで、この会社の風通し

が、さらに良くなればなって、思います。何

か、解らないこととかあったら、気兼ねなく

言ってください。

あ、ありがとうございます

のがほんとうはなにかご承知ですか。

感じですかね。…はい、以上で終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

シラハエ、目が覚める。

皆其々お辞儀する。

シナト

…大きな望遠鏡で銀河をよっく調べると銀河は大体何でしょう。…いいえ、星ではないんですね。それらは実は、営みなのですね。つまり、この大きな銀河をよく見ますと、もうたくさんの小さな家々の明かりなんです。一つ一つに生活があるのです。一つ一つが、何らかの形で、生計を立ててる訳なんです。

ヒカタ　あ、椅子片づけちゃっていいですか？  
オイテ　あ、うん、ありがとー  
皆其々片づける。

シラハエ

…あ、あのう、  
はい。ありがとうございます。あ、いいよ、戻って。

オイテ　…あ、なんか、せっかく何で、写真撮って

アラシマ　いいですよ？　あ、写真撮ろう、皆で。

オイテ

シナト

あ、はい、  
という感じで。えーで、すいません最後にな

ヒカタ　いや、一瞬一瞬、パッと、(カメラ準備する)

アラシマ　このままでいいやん、  
オイテ　いいから、あ、シマキくんも！　入って、

オイテ

ヒカタ

食べ物飲み物用意しています。いや、本当、仕事終わりに見る花火は格別なんです。  
あ、なんか、台風で中止の可能性があるみたいなんです、  
あ、え、そうなの、まあ、様子を見てって

タカニシ　でかい人後ろになります？  
オイテ　あ、うん、そんな感じで

集合写真みたく並ぶ。イナサとヨアラシ、入らず端っこに

オイテ

いる。

ヒカタ

二人も入りましょ

●シマキ　いいっすね(笑)

オイテ　お、じゃあそうしちゃうかな、

ヒカタ　うける(笑)

オイテ　(タイマーセットする)よし、十秒、

タカニシ

めんどくせーな入れよさっさと、

二人、入る。

オイテ、前にねっ転がる。皆、各々ポーズしたりしなかったり。  
間。

タカニシ

(後ろにいたヒカタに)や、あんた前だろ、

ヒカタ

あそっか、(前に)

オイテ

…あ、良い感じ、

ヒカタ

え、オイテさんも入りましょ

オイテ

俺はいいよ、

●ヒカタ

えー皆で撮りましょ

オイテ

入りましょ入りましょ

●シマキ

えー、じゃあ、あれか、

オイテ、机を持ってきてカメラを乗せ、タイマーをセットする。

④

其々　(笑ったり)  
アラシマ　漫画かよっ

オイテ

俺どこ入ろうかな、

タカニシ

オイテさん前にねっ転がって、

■ヒカタ

(笑) あーそうしましょそうしましょ

チャイムが鳴る。テロップ「12時、昼休み」  
休憩室。ヒカタ、アサゴチ、シラハエがテーブルでご飯を食べてる。

イナサが端っこでイヤホンをつけて音楽を聴いている。

喫煙所。ヨアラシがパソコンに何か打ち込んでいる。仕事場。シマキがケーブルを巻いている。

ヒカタ …でもアサゴチさんがここいのレアですよ

ね、

シラハエ そうだ、

アサゴチ あ、そうだねー、昼休みは、

ヒカタ や、私本当、アサゴチさんと一回じっくり話

したいんですよ、

アサゴチ あ、本当？

ヒカタ や、マジで今度一回飲みに行きましょ、

アサゴチ あ、うん、行こう、

是非是非ー

シラハエ おー

アサゴチ 私もヒカタさんと話したいと思ってて。

ヒカタ え、なんですか、

アサゴチ ヒカタさんよく海外行ってるよね、

ヒカタ あ、まあちょこちょこ、

アサゴチ や、私も今度どっか行こうと思ってるから、

■シラハエ へー

●ヒカタ えーいいですね、どこ行くんですか？

アサゴチ まだ全然考えてなくて。え、ヒカタさんどこ

が良かった？ 行ったところで、

ヒカタ この間ニュージーランド行って。堪らないで

すよ。あそこ。

アサゴチ へーニュージーランド、

ヒカタ はい、めっちゃ大らかで。ニュージーランド

の動物って天敵がいらないから全く逃げないん

ですよ。鳥がめっちゃいるんですけど。車来て

も逃げないから道路とか死骸だらけで。

うえー、

■シラハエ え、それは嫌だな(笑)

●アサゴチ まあでもすぐ慣れるんで。

ヒカタ 慣れたくねー

アサゴチ シナトが来る。オイテのカメラ持つてる。皆のことを撮る。

シナトが来る。オイテのカメラ持つてる。皆のことを撮る。

シナト ニュージーランドってキウイがいるとこです

よね

ヒカタ あ、そうです、

アサゴチ キウイって鳥だっけ？

ヒカタ そう、なんか、こんな感じのに細い嘴が生え

た、

アサゴチ あー

シラハエ へー

キウイは鳥だけど飛ぶことを辞めたんですよ。

シラハエ …あ、飛べないんですね、

ヒカタ そうそう、天敵がいらないから。他にも飛べな

い鳥が色々いるんですけど。コウモリも歩い

てるんですよ。

●シラハエ へー

▲アサゴチ あー、面白そうだなあ、今度調べてみよう。

ヒカタ や、なんか日本の動物皆人のこと怖がるじゃ

ないですか、こっちがどんなに優しくしよう

としても。猫とか。

シナト (イナサに) 写真撮ってもいいですか？

イナサ …あ、はい、

シナト (撮る) ありがとうございます。イナサさんっ

てコウモリみたいですわね、

イナサ え、そうですかね、コウモリ、

シナト はい。知ってます？ コウモリってあの逆さ

にぶら下がってる状態が、人間のねっ転がっ

てる状態と同じような感じなんですって。意

味わかんなくないですか(笑)

イナサ へー、意味わかんないっすね、

シナト 失礼しましたー(去る)

間。

デブですもん私、

■シラハエ デブではないだろ、

●アサゴチ えーぜんっぜん、何言ってるの？

イナサ、更衣室に入る。

ヨアラシ、パソコンを置き、煙草を吸う。

ヒカタ や、私本当、私マジ痩せないとなんだよなあ

アサゴチ 本当大丈夫だから、

シラハエ 本当、何言ってるんだか、

アサゴチ シラハエさんも綺麗じゃん、

シラハエ はーっ、いやいやいやいやいや、私なん

て、うんこですから、うんこ！ もう、ゴ

ミ、下呂、もう、カス、カスです、やーも

う本当、なんで生まれできたのやら、ねえ、

、

ヒカタ  
オイテ (声だけ) あ、ごめん、ちょっと声落として

もらっていい？ 電話中で。

シラハエ あ、すいませーん、

ごめんねー

間、

ヒカタ 、、はははー

シラハエ いやー、あ、先行きまーす、

シラハエ、去る。仕事場に行き、スピーカーのメンテナン  
スをする。たまに音出したり。

ヒカタ びっくりしたあ、

アサゴチ (笑)

喫煙所にタカニシとアラシマが来る。

タカニシ ういー

ヨアラシ あっす、(去ろうとする)

タカニシ あ、ちよいちよい、(ポケットからお菓子を

出し渡す) プレゼント

ヨアラシ あ、どうも、

アラシマ あ、じゃあ俺も(お菓子を渡す)

ヨアラシ あっす、

ヨアラシ、去る。パソコンを忘れていく。

二人、煙草を吸う。

ヨアラシ、休憩室に来る。イナサを探す。

ヨアラシ 、、

ヒカタ 、、あ、どうかされました？

ヨアラシ あ、いや、、あ、イナサくんいませんでし

た？

ヒカタ あー、あれ、さっきまでいたんですけど、

ヨアラシ あ、

ヨアラシ去る。

ヒカタ 、、今めっちゃいい匂いしませんでした？

アサゴチ しましたー

ヒカタ 、、アルバイトの人っていいよなあ、なんか

危機感とかないんですね、

アサゴチ ああ、まあ、あの人たちはあの人たちで、

色々あるんじゃないかな、

そっか、そうですよね、

アサゴチ 、、ごめんちょっと、

ヒカタ あ、はい、

アサゴチ、去る。

アラシマ これさっきの子のじゃない？

タカニシ あ、そうかもっすね

アラシマ (開く) おー、台本？

タカニシ あーなんか演劇？ やってるみたいな、

アラシマ へー、凄いや。、えちよっと読んでみようぜ

タカニシ お、いいっすね、

アラシマ じゃあ俺こっち読むから。これ読んで。

タカニシ はい

アラシマ じゃあこの辺からね、(咳払いとかして)

「服とか洗ってる？ ちゃんと柔軟剤とか使っ  
てる？」

タカニシ 、、

ヨアラシ、仕事場に来る。端っこに座る。

アラシマ ここ、

タカニシ 、、「なんですか？」

アラシマ 「君臭いから」

アラシマ 「え、あ、すいません」

「や、なんか仕事終わって、汗とかかいて臭

いのはしょうがないけどね、あなた朝からだ

から。」どんな話やこれ、

タカニシ これ、ちょっと見ていいっすか、

アラシマ ん(渡す)



ヨアラシ (シマキに) : 手伝いましょうか、  
シマキ あ、大丈夫です。 : 何となくやってるだけな  
んで

ヨアラシ あ、なるほど(笑)

アラシマ トイレ。  
タカニシ うい

アラシマ、去る。

シマキ ……演劇? でしたっけ?

ヨアラシ あ、はい、

シマキ あれっすか、ロミオー、ジュリエットーみた  
いな、

ヨアラシ あ(笑)、そういうのでは、ないんですけど、  
シマキ え、どんな感じなんですか、

ヨアラシ どんな感じ、

シマキ ちょっとなんかやってみてよ、

ヨアラシ えー、できないっすよ

シマキ なんか、ちょっとでいいから、

ヨアラシ いやいや、あ、でも、この、こうやって今

喋ってるのを、そのまま書いて、のっけるみ  
たいな感じっていうか、

シマキ へー、あれっすか、リアルな感じってことで

すか

ヨアラシ あ、まあ、

シマキ へー、面白そうだな、

ヨアラシ や、全然、しょぼいっすよ。

シマキ そっか(笑)

シナト、仕事場に来る。

シナト (シマキとヨアラシに) 写真撮ってもいいで

すか?

シマキ ああ、はい、

シナト (撮る) ありがとうございます

シナト、シラハエの作業を覗く。

シラハエ お、わ、お疲れさまです、

シナト お疲れさまです、あ、すみません、見てもい  
いですか

シラハエ あ、全然、

シナト :

シラハエ ……あ、触ってみます?

シナト あ、はい。

シラハエ これ、ま普通にスピーカーなんですけど。あ  
のー、ここにプレイヤーとか繋いで、あ、

なんかプレイヤーもってます?

シナト あ、はい、(出す)

シラハエ えー、繋いで、なんか曲かけてもらっても

いいですか?

シナト、曲を再生する。シラハエ、フェーダーを上げる。

『近道したい』(アニメ「ぼのぼの」ED。歌、作詞:須  
賀響子 作曲:山川恵津子)が流れる。

シナト おー、

シラハエ こんな感じで。…これ何の曲ですか?

シナト ぼのぼののEDです。

シラハエ あ、ぼのぼの、で、まあ、これ(フェーダー)

下げると、音が消えるっていう。

シナト (下げる)なるほどー、あ、すみませんお邪

魔しました。

シラハエ あ、いえ。

シナト、去る。

休憩室にアラシマ来る。

アラシマ ……え? ああ、

仕事場にオイテ来る。

オイテ ……シナトさんいない?

シラハエ あ、さっきまでいましたけど、

オイテ どこ行ったか解る?

シラハエ あ、さあ、

シマキ どうかしたんですか?

オイテ や、カメラ持ってたちゃって、

シマキ ああ、

オイテ もー、

オイテ、去る。

其々 (挨拶)

オイテ、去る。

アラシマ　なんかモニターに関しては検品の方法を変えてもいいのかなって、現場の人たちで話して。もっと良い方法がある気がするんだよね。今作業場がちょっと暗いじゃん？

ヒカタ、突然泣き出す。

アラシマ　うん、例えばさ、懐中電灯みたいなもの、結構明るいやつ、検品用にいくつか置いといてさ、こう、照らしながら、(泣いているのに気付いて)、え、泣いてる、？

ヒカタ　違います、

アラシマ　え、ちょ、え、どした、

ヒカタ　や、違くて、ごめんなさい、これ、違います、これ、真水なんで、

アラシマ　え、大丈夫？

ヒカタ　大丈夫なんで、

アラシマ　え、どした？ マジで、

ヒカタ　、、、や、あの、この間の、ああいう持

アラシマ　…あの娘どう？ あのー、名前が出てこない、

新しい風、

ヒカタ　シナトさん、

アラシマ　あ、シナトさん、大丈夫そう？

ヒカタ　まあ、

…そっか、最近入って直ぐ辞めちゃうじゃん、なんか、その辺うまくね、なんか、やっぱり年近い子たちがね、まあそんな無理に仲良くって話じゃないけど、まあ、良い感じにいたらね、良いんだけどねー、

ヒカタ

アラシマ　え、大丈夫？

ヒカタ　あ、はい、

、うん、あ、後さ、なんか最近モニターにさ、結構指紋ついてる時あって。あれ誰の検品なんだろうなあ、バイトの子たちかもだけど、あの辺も、もう少し気使ってやってって欲しくて。

オイテがシナトを探しながら休憩室を通る。

オイテ　お疲れさまでーす

ち帰りみたいなの、持ち帰られ、みたいな、ああいうの、初めてで、

アラシマ　え、初めて？

ヒカタ　あ、や、あの、その、行為自体が初めてってことではなくて、ああいう、ラフなやつが、ワンナイトみたいのが初めてで、

、ああ、

アラシマ　(めっちゃ泣き出す) わぁー、

、、、うわぁ、や、ちょっと、マジで、(笑)

ヒカタ　ごめんなさいい、、、

アラシマ　ちょ、、、一応会社だから、、、

ヒカタ　、、、そうですよね、そういうう、行為も、

あれですもんね、、、社会ですもんね、ある種、

え、何？

アラシマ　恋愛とか、セックスだって、社会ですもんね、ある種、

アラシマ　や、何言ってるの、、、

ヒカタ　だから、人と人がすることですから、、、ちゃんと私の考えを伝えるべきだったなっていうか、報道相がたりなかったなっていうか、、、あ、ゆとりのやつでちゃったなーっていうか、、、なんか、すいませんでした、、、や、ごめん、なんだ、なんだこれ、、、

アサゴチ、戻って来る。

アサゴチ　え、大丈夫ですか、

アラシマ　あ、や、なんか、

アサゴチ　え、何かあったんですか、

アラシマ　、、、まあ、、、説明が難しいんだけど、、、

ヒカタ　、、私が、、社会に、順応できてないだけ

なんで、、私、、社会不適合者なんで、、

アサゴチ　ヒカタさん大丈夫？ 、一旦トイレ行く？

ヒカタ　はい、いいえ、あ、自分で行きますんで、、

大人なんで、、(アラシマに) すいませんお

話しの途中に、取り乱してしまって、、失

礼しましたあ、、、、

ヒカタ、泣きながら去る。間。

アラシマ　、、

アサゴチ　どうしたんですか

アラシマ　や、、なんか、この間ちょっと飲みについて、何かちょっと色々あって、まあ、

アサゴチ　…そういうのなんか、本当気を付けた方がいいですよ、

アラシマ ね(笑)、なんなんだろ、  
間。

アラシマ …や、なんかさ、俺は、そういうの、なんか、どうでもいいんだけどなあ、本当。…なんかそういう流れになっちゃうんだよなあ、自然と。

アサゴチ どういうことですか(笑)

アラシマ や、なんか、俺はどうしたとかないんだけど、こう、求められると行っちゃうっていうか。うん、

アサゴチ …え、求められるんですか？

アラシマ うん、や、そんな直接言われる訳じゃないよ。なんか、シグナルを出すから。や、俺そういうの感じる才能が多分凄くて。あ、こいつ今ムラムラしてんだなあ、とか、察知して。そこから流れっていうか。来るから返すだけっていうか。それで、なんか、あー、良くないわ、良くない。

アサゴチ あー、

アラシマ そっか、報連相か、や、反省です、

アサゴチ 私もシグナルを、出していました？

イナサ はい、なんか、

アラシマ あー、全然、いいよ。俺はいいけど。したらオイテさんに相談してみてもらえる？

イナサ あ、はい、

アラシマ …うん、そっか、へー、結構大変かもだけど、現場は万年人手不足なんで、

イナサ あ、はい、

アラシマ …ごめん名前なんだっけ、

イナサ あ、イナサです

アラシマ あ、イナサくん、イナサくんあれだっけ、アサゴチさんと、大学が一緒なんだっけ、

■イナサ はい

●アサゴチ あ、はい、

アラシマ へー、

チャイム鳴る。

アラシマ あ、(アサゴチに) じゃあ、行くか

アサゴチ あ、はい、

二人、去る。

仕事場。シラハエと、タカニシがパソコンを持って来る。

アラシマ …え(笑)…俺なんかあったけ、あれ、  
アサゴチ …あー(笑)

アラシマ え、待って、え、全然覚えてない、え、なんかあった？ したらごめん、あ、辞めるのってそれがあれしてたり、んなわけないか(笑)

イナサ、思わず出てくる。

イナサ …

アサゴチ …

アラシマ びっくりしたあ、

イナサ …あ、お疲れさまです

アラシマ …お疲れさまです、

イナサ …

間。

アラシマ …(アサゴチに) え、(笑)

イナサ …あ、や、あのお、俺、僕、現場の方の仕事興味あって。や、だから、そっちの方って、バイト、行けたりしないですか、っていう、…ああ、あ、そうなんだ、

タカニシ (ヨアラシに) これ、忘れてたべ

ヨアラシ …あ、すいません、(受け取る)

タカニシ (伸びする) んー、やっかあ、

雷が鳴る。

■タカニシ びっくりしたあ、

●シマキ うえーい、…え、結構近かったな、

オイテが突然駆け込んでくる。

オイテ みんな、あ、お疲れさまです、

其々 (挨拶)

オイテ 花火中止、

タカニシ …ほーい

⑤

テロップ「退勤時間が過ぎたが、台風の影響でバスや電車が止まり、皆会社を出ることができなかった。」  
外から強い風の音がする。シマキ、仕事場でケーブルを巻いている。

喫煙所、イナサがぼーっとしてる。休憩室、アラシマとタ

カニシとシナトとシラハエが酒飲んだりお菓子食べたりしてる。

タカニシ や、だから、最終的には、起業したいんすよ、

シラハエ おー

タカニシ うん、

アラシマ 何すんの、

タカニシ や、何かとかは全然考えてないっすけど、俺多分人の上に立つべき人間なんで。

■アラシマ 何言ってるんだよ

●シラハエ えー(笑)

タカニシ や、マジで、ってより、誰かの下でっていうのが向いてないんすよ多分。だから、いつかそういう風になって話してるダチも多いんで。

へー

アラシマ

え、バカにしています？

アラシマ

まあしてるけど

タカニシ ちょいちよいちよい、や、なんか、人って其々役割があると思うんすよ。多様性。え、解る？これ。だから、シナトちゃんがボケたこと言ってる。俺がなんでやねんって突っ込んで。シラハエがおーとかわーとか言ってる。其々役割があるわけじゃん、な？ シラハエがさ、突っ

込みやろうったって絶対良い成果出せないわけ。

■シラハエ  
●アラシマ

シナト まあね、

タカニシ 私ボケたこと言ってないですけど、

、うん、な？ だからそういうことなの。そういう役割なのよ、じゃあじゃあ、俺ボケるから、シラハエ突っ込めよ？

あ、はい、

シラハエ

タカニシ (何かボケる)

シラハエ (突っ込むが、明らかうまくいってない)

アラシマ

(爆笑)  
うけちゃってんじゃない、てかお前(タカニシ)

のボケも大概だし、

タカニシ

あれ、おかしいな、

アラシマ

まあね、あれだよ、みんな違って、みんな

良い

タカニシ

おおっ

アラシマ

わ、アラシマさんともいいこといいますねー、

糞適当に言ったんだけど、

やーいい言葉ですよ、みんな違ってみんな良

い。その通りだ。

アラシマ

え、でもえっぐいさ、めちゃくちゃえぐい性

シナト

犯罪者とかは良くないよ。

や、違うんですよ。そう思った、みんな違って、みんないいなあと思えたその人なんです

よ。他者に対して、良いなって思えた時、きつ

とその人に転生してるんですね、

タカニシ

え、どういことどういうこと？

だから、生き物なんて皆自分じゃないですか、

でも、他者のことも、自分と思える瞬間がきつ

とあるんですよ、それがきつと愛ってやつな

タカニシ

んですよ、

アラシマ

だからこういう役割なんです、この人は。

シナト

(笑)  
そっかあ、そういう役割か、

タカニシ

…あのお、アラシマさんってこれからどうするとかありますか？ この会社に永住する感じ

阿ラシマ

なんすか？

あー、

間。

仕事場、シマキ、巻き終わったケーブルを重ねてタワーを作る。

以降巻いたケーブルをタワーの上に重ねていく。

四人、去る。

仕事場にヒカタ来る。

ヒカタ

なんでそれやってるんですか

シマキ おうびびっくりしたあ、  
シマキ なんでそれやってるんですか、え、もう退勤  
ヒカタ してましたよね

シマキ あ、うん、…なんで、や、やることなかつ  
シマキ たから、

ヒカタ 飲み会参加しないんですか？

シマキ ああ、うん、なんか。…え、ヒカタさんは？

ヒカタ ……

シマキ ……

間。

ヒカタ 私も巻いて良いですか？

シマキ あ、ご自由に。

巻き始める。

喫煙所にびしょ濡れのヨアラシが頭をタオルで拭きながら  
駆け込んでくる。

ヨアラシ うおー！ フー！ 最悪、

イナサ うおお、え(笑)

ヨアラシ 駄目だ駄目だ、バス全く来ない、

イナサ 言ったじゃん(笑)

ヨアラシ 帰れないわこれ、えきつ、どうしよ、え

イナサ どうする？

イナサ あ、あれは？ あの、国道沿いの。ビデオ個  
室、

ヨアラシ 満室満室。

イナサ あマジか、

ヨアラシ え、他の人は？

イナサ なんか会社泊まるかとか言ってる、

ヨアラシ あそうなんだ(笑)

オイテ、休憩室に来る。散らかってるゴミを片づける。余つ  
てたお酒を飲む。

シナトが戻ってくる。

シナト あ、これ、すいません、(カメラ渡す)

オイテ おお、あ、忘れてた、

シナト 残念です、花火、

オイテ ねー、

シナト 私見たことないので、

オイテ え、そうなん、すね、

シナト いいもんですかやっぱり。

オイテ 良い、うーん、まあ、あ、でも、綺麗だ  
ね、うん、

シナト へー、

オイテ なんか、会社で見るってのが、良くて。

シナト へー、

オイテ なんか、皆、見てる人がさ、見たことない顔  
して。会社なのに、仕事の感じじゃない顔す  
るっていうか、

シナト うん、

オイテ だからね、俺はさ、こう、花火見てて、で、  
花火に背を向けてみるのね、…、そうするとこ  
う、…、向こうの、道にいる人とか、遠くの方  
の、別の会社の、屋上にいる人とかのね、顔  
が見えるのよ、…、皆キラキラしてて、…、目が。  
そういう人たちの顔をね、花火見ないで。見  
るのがさ、あー…いいなあ、…、なるのよ、  
…、そしたら、その、花火見てる人たちはオイテ  
さんの視線がちらつくわけですね！

シナト あそっか、嫌だね、

オイテ わー、その時のオイテさん、花火が、後光み  
たいになって、…、凄いい！ 仏様みたいだ！

シナト 嫌だなあ、…、そうなんだ、

オイテ へーそうなんだ、…、見てみたかったなあ、あ、  
写真とかないの？

シナト あ、去年のやつ、ビデオ撮ったのあるよ、確

か。

シナト え！ 見せて見せて！

オイテ ちょっと探しておきます、

シナト お、サンキュー

オイテ あの、一応敬語ね、

シナト あっと失敬、あ、私あれだ、二次会に行かな  
くては、

オイテ え、二次会？

シナト、去る。

ヨアラシ、パソコンを開き弄る。

ヨアラシ ……あれ？ ……あれ、…、つかしーな、…、え、

イナサ 何？

ヨアラシ ……や、あれー？ ……

イナサ え、どしたん？

ヨアラシ ……や、台本のデータが、なんか、なくて、

イナサ え、書いてたやつ？

ヨアラシ うん、…、え待って、…、え、なんで？ 消えた？

イナサ バックアップとかないの？

ヨアラシ ない、……あ、(頭抱える)

イナサ え？

ヨアラシ ううわ、…、タカニシだ、

イナサ え、

ヨアラシ や、さっき、、、ううわ、マジか、、、タカニ

シに消された、

イナサ え、さすがに、

ヨアラシ や、絶対そうだわ、、、は？

意味わかんねえ、、、

イナサ 、、

ヨアラシ 、、(行くこうとする)

イナサ え、どこ行くん

ヨアラシ 殺してくるわ

イナサ 、、

ヨアラシとイナサ、去る。

ヒカタ これを巻き続けた先に何があるのでしょうか、

間。

シマキ あ、ちょっと見てて。

ヒカタ はい？

シマキ ちよっ、離れてて、いくよ、

シマキ、ケーブルのタワーをドロップキックで倒す。

ヒカタ 、、なにしてんすか、

シマキ 、、俺さっき「あ」って言ったじゃないすか、

ヒカタ え、はい

シマキ あれ、気付いちゃったんですけど。俺、多分

このまま生きてても、、このまま生きてても、

大した成果上げられないんだなって。

、、はあ、

タカニシとアラシマとシラハエ、来る。

アラシマ 三次会だ三次会！

タカニシ 仕事場で飲んじゃうバターーン

シラハエ (笑)

アラシマ (ヒカタに気づいて) あ、

タカニシ ういー、しけてんなあ、台風のごとく飲もう

ぜ、台風のごとく、

シマキ めちゃ飲んでるやん(笑)

ヒカタ お疲れさまです、

アラシマ お疲れ、

シナトがアサゴチ連れてくる。

ヨアラシ、皆いるので少し怖気づく。

アラシマ うおびっくりしたあ、

タカニシ あ、ホモカップルやん、飲むか、飲むか一緒

に、

ヨアラシ 、、あのお、タカニシさん、

タカニシ え？

ヨアラシ 、、え、これ(パソコン)消しました？

タカニシ え？

ヨアラシ や、台本のデータ

タカニシ あー、うん、

ヨアラシ え(笑)何ですか？

タカニシ うん、やだって俺のごとく書いてんじや

ん、

、、や、

ヨアラシ え、何？ でした？ どうかした？

ヨアラシ 、、や、タカニシさんが、僕のパソコンの、デー

タカニシ タを、消してしまったので、

アラシマ え、そんなことしたん？

タカニシ や、ちゃうちゃう、なんか、この人俺の言っ

たことかまるまる全部、なんか書き起こし

てて。他の、社内のこととかめっちゃ。ヒカ

タが喋ってたこととか、アラシマさんのこと

シナト 先輩！ 確保してきやした！

アサゴチ あ、お疲れさまです、

タカニシ お！ でかした！

アラシマ 、、

タカニシ っしやーもう腹割って話しましょうよ！

、、あれだ、恋バナしちやいましょ恋バナ！

■シマキ おーいいねいいね、

●シナト いいっすね！ 中学生の合宿のごとく話しま

しょう、

タカニシ や、アサゴチさんのそういう話とか俺めっちゃ

聞いてみたかったんすよ、

■シマキ あー、

●アサゴチ えー(笑)

タカニシ や、恋愛とか全く興味なさそうじゃないっす

か、

シマキ 確かに、

アサゴチ 、、

間

タカニシ 、、え、なんすかこの空気

ヨアラシとイナサが急に入ってくる。

ヒカタ

とか、めっちゃ勝手に、全部書いて。全部。え、

タカニシ

うん、や、そんなんさ、駄目っしょ、著作権著作権。

ヨアラシ

や、なんで勝手に消すんすか、勝手にやんのはおかしいじゃないですか、

アラシマ

え、お前それで消したの？

タカニシ

はい、や、真面目な話さ、え、それ書いてたやつ、演劇？かなんかわかんないけど、人前でやるわけでしょ？ そんなんあれやん、会社のイメージダウンでしょ、……や、ていうかそもそも、全然面白くなかったもん、それ。面白かったらまだしもさ、そんな、なんか、個人的なさ、そんなん誰も見たくないかんね。そんな悪口書き溜めたようなやつでさ、そんなんやってどうすんの？ そんなさ、遊びみたいなさ、あなたの自己満に我々巻き込まれてさしょーもないでしょそんなん、

アラシマ

、、まあ、でもそれ、勝手に消すのは、どう、

タカニシ

や、だから、まあ悪かったなって思ってますけどお、俺的には寧ろヨアラシくんの為っ

間。

オイテ、休憩室を出る。

タカニシ

え、何？

イナサ

だっておかしいだろ、勝手に好き勝手やって、会社とか関係ねーわ、あんたらのがよっぽとガキだろ、俺らだって俺らなりに生きてんだからさあ、あんたらの思うように、俺らを当てはめんじゃねーよ、

アラシマ

、、や、ちょっと落ちっこ、

アサゴチ、アラシマにビンタする。

アラシマ

、、え？、なんで？

アサゴチ

オイテ、来る。

オイテ

あ、皆いる！ あのさ、集合写真、上手く撮れてなかったから、もう一回、え、どうかした？、

アサゴチ

あ、オイテさん、私、退職しようと思ってます。

ていうか、だって、本当、まあ俺、演劇？とか全然解らないけど、俺もバンドやってたから表現的なことは解るんすよ、なんか、あんな感じじゃ駄目だと思う。そういうことじゃないって。あんまそういうことって誰かに言ってもらえることもないじゃん、まあだから、

タカニシの胸倉掴む。

タカニシ

、、いやいや(笑)ちよっとさあ、ちよっとー！掴まれてるんすけどお！

ヒカタ

すいません外でやってもえませんかそういうの

アラシマ

(止めに入って)まあまあまあ、一回落ちっこ、一回、

タカニシ

や、そんなマジになんたって、いくつだよ、ガキじゃないでしょ？ ちゃんと謝るから、

アラシマ

うん、一回落ちっこ、会社だからねここ、

イナサ

、、なんだそれ、バカじゃねーの、

タカニシ

、、あ？

イナサ

、、ヨアラシくん殴っていいよ、殴っちゃえよそんなやつ、

オイテ

、、あ、はい、え？

アサゴチ

突然すいません、皆さん今までありがとうございました、

間。

シナト、急にスピーカーで「近道したい」をかける。

シラハエ

え、シナトさん？

シナト

えー、歌います。

毎日がとてつもらなくて

いつだって負けそうになるの

恋をしていても遊んでも

なんだか先が見えないよ

目を開いたらすぐ魔法みたいに

幸せが訪れるといいよね

たまには近道をしたいだめかしら

苦労はしないでのんびり過ごしたい

どこかで近道をしたいだめかしら

常識なんて誰かが決めた事

H m :

力強く歌う。一番を歌い切ったところで音を止める。

シナト お耳汚し、失礼しました。：あ、続けて頂いて。

シナト

間。

⑥

テロップ「夜中、」

シナト以外皆、寝ている。仕事場にイナサ、ヨアラシ、シマキ、ヒカタ、シラハエ、アサゴチ、休憩室にオイテ、アラシマ、タカニシ。  
シラハエが起き上がり、喋り出す。

シラハエ

ソフト説明会の時、私がうとうとしてる時に聞いた、シナトさんの、銀河の話はみんなは聞いていなかったそうなので、夢を見たのかなと思っただけですが。この夜のこれは、みんな、同じように聞いたそうなのです。

モニターに花火の映像が映る。シラハエ、床に座りそれを見つめる。

シナト、エリア外に脚立を立てて登る。ヨアラシのパソコンを持って。それを見ながら喋り出す。

一回くらい見てほしかったな思って。お前もがんばれよな。」

シラハエ「あー、私も演劇やってたんですよ、会社の人誰も知らないですけど。公演行きたかったんですけど、行ったらやりたくなっちゃうんで行けませんでした。」

オイテ「飲み会とか、なんで何か、悪口とかばっかになっちゃうのかねえ、みんな其々がんばってるんだから、そんな悪いことないのにね」

アラシマ「俺なんか、芸術？ アートみたいのとか全然解んないんだよね。高卒だからか、なんかそれは正直凄いコンプレックスなんだわ」

前説「最近考えるのが、鳥とか海を見るとときめきがあるじゃないですか。何でかなって考えた時に、何かこう、鳥とか海って全く、異国に繋がってるじゃないですか。そういうことがあるよなって。」

シナト、パソコンを閉じる。

シナト

大きな望遠鏡で銀河をよく調べると銀河は

タカニシ「や、俺も結構汗かく方だけど、その辺めっちゃ気使ってるから。そういうとちょっととした方がいいよマジで。」

シマキ「気づいちゃったんですけど。俺もかしたら十年後もこうやってケーブルを巻き続けてるなって。ズーっと。八の字巻で。こう、」

ヒカタ「新しく人が来たりして、その人の出身地とか聞くの好きなんですよね。その人がどこで生きてきたかとか聞くのわくわくしませんか？」

イナサ「ここだけの話、俺アサゴチさんと大学のころ付き合ってたんだよね。：や、会社の人にばれたらなんか、申し訳ないわ、アサゴチさんに」

アサゴチ「はい、大学のころの。あー、どうか解らないですけど、アラシマさん一回喋ってみたら面白いかもですよ。や、解らないですけど」

タカニシ「俺バンド辞めるわ。もうやりきってたかなくて。や、ヨアラシくんも色々やってんじゃない、だから言っとこう思って。なんか、

大体何でしょう。：。。。いいえ、星ではないですね。それらは実は、営みなのです。つまり、この大きな銀河をよく見ますと、もうたくさん小さな家々の明かりなんです。一つ一つに生活があるのです。一つ一つが、何らかの形で、生計を立ててる訳なんです。この天の川を本当に川だと例えるなら、その一つ一つの小さな営みはみんなその川のその砂や砂利の粒にもあたるわけです。そんなら何がその川の水にあたるかと云いますと、それは吹き抜ける風なのです。背後から、髪の毛を掻き分けて通って行ったその風なのです。そういうことなのです。

シナト、脚立を降り、去ろうとする。

シラハエ

あ、あのお、

シナト

あ、おはようございます。

シラハエ

あ、おはようございます、どこ行くんですか？

シナト

あ、帰ろうかなって。

シラハエ

あ、え、まだ始発動いてないですよ、まだ風も強いし、

シナト

あー、まあ、なんとか、



シラハエ えー、死んじゃいますよ。寒いし。

シナト まあ大丈夫っすよ、

シラハエ はぁ、え、どこに帰るんですか？

シナト あー、えー、タスカロラ海床の北のはじめの方に、

シラハエ 、、え、なんすか？

シナト や、冗談です。…あの、では。

シラハエ あ、はい、お疲れさまでした、

シナト お疲れさまでした。(行く)

シラハエ ……あの！ 月曜日も来ますよね。

シナト ……

シラハエ 朝の30分って結構きついんですけど、社内

の清掃のことでオイテさんがちょっと言われているの前に聞いて、私も、、あ、シナトさんはあのー、フロント周りの掃除になって、私が付いて教えることになってるので、、あの、、そういうことなので、

シナト あ、はい、よろしくお願いします。…では、

シナト、去っていく。

シラハエ、ふと気づき、灰皿を掃除することにする。

テロップ「朝。」  
イナサが喫煙所にいる。アサゴチが来る。

アサゴチ おはよう、

イナサ あ、おはようございます、

アサゴチ ……台風行ったね。

イナサ うん。

間。

アサゴチ 花火、今夜やるんだって

イナサ あ、そうなんだ、…一緒に見に行くかい、？

アサゴチ 、、うん、いいよ、

イナサ あ、本当、やった、

間。

アサゴチ あのさ、あれ、、いいよ。

イナサ ……ん？

アサゴチ や、だから、付き合っってやつ、

イナサ 、、え、、え、マジで、

アサゴチ うん、マジで、

イナサ ……、えー、

アサゴチ え？

イナサ や、絶対駄目だって思ってたから、えーそっか、、マジか、

アサゴチ え待って、そんななら私ももうちょっと考える、、

イナサ や、違う！ や、ごめん、ちょっとテンパってるだけ、、え、でもなんで、、何故でしょうか、

アサゴチ や、、色々考えたんだけど、解んなくて、まあでも、解んないもんだよなって思っ。まあ、何かあったら、その時考えようっていう、、あそっか、、え、でも本当大丈夫？ 俺普通にフリーターだし、、

アサゴチ 私ももうすぐ無職だけだね、

イナサ あそっか、、、そしたら猶更俺がさぁ、、、

アサゴチ え、俺就職しようかな、、え、その方がいいよね、？

アサゴチ あー(笑) や、私に聞かれても困るわ、

イナサ あそっか、、え、本当大丈夫かな、、

アサゴチ もういいよ、

音楽。

タカニシ、起き上がり、皆のを見まわす。

イナサ え、俺のどこがいいの？ 俺なんもないよ、

アサゴチ あー、なんだろ、、でも多分、イナサくんが、一番面白い。

イナサ や、俺より面白い人いくらでもいるでしょ、松ちゃんとか、松ちゃんのが何億倍も面白いでしょ、、

アサゴチ や、一番ってそういうことじゃない、一番って多分一杯ある。

イナサ ……なるほど、、アサゴチさんってたまに凄

アサゴチ いこと言うよね、、

間。

イナサ え、でも本当に大丈夫？

アサゴチ (笑)

完。

1990年生まれ。さいたま市出身。  
 高校の頃銀杏BOYZを聞いた瞬間から「自分は何かを成し遂げられる」と信じて疑わない。  
 同時期に部活にて演劇を始め、唯一自分ができると判断し現在まで続ける。  
 2009年、尚美学園大学に入学。若林一男教授の下演劇を学ぶ。  
 2013年に大学を中退。実家から家出し、そこから自身の創作ユニット「栗☆兎ズ」で劇作活動を本格的に始める。  
 2016年、江古田に居住し活動の拠点である「栗☆兎ズ荘」（木造二階建ての一軒家。後のウンゲ荘）を構える。  
 2017年、ユニット名を「ウンゲツィーファ」に改名。改名後最初の公演「動く物」の戯曲が平成29年度北海道戯曲賞にて大賞を受賞。

## 選 評

### 審査結果

大賞 『バージン・ブルース』 大池 容子（東京都）

優秀賞 『酒乱お雪』 伸 由樹生（神奈川県）

『転職生』 本橋 龍（東京都）

### 審査員

桑原 裕子（KAKUTA主宰）

斎藤 歩（札幌座チーフディレクター）

土田 英生（MONO代表）

長塚 圭史（阿佐ヶ谷スパイダース主宰）

前田 司郎（五反田団主宰）

### ※第1次審査通過作品（作品名50音順）

『酒乱お雪』	伸 由樹生（神奈川県）
『小説家の檻』	斜 田 章 大（愛知県）
『新在り処』	相 馬 杜 宇（神奈川県）
『チキン南蛮の日々』	國 吉 咲 貴（埼玉県）
『転職生』	本 橋 龍（東京都）
『バージン・ブルース』	大 池 容 子（東京都）
『はるまつあきふゆ』	松 岡 伸 哉（福岡県）
『ほたる ふたりの女優のために』	キタモトマサヤ（大阪府）

## 桑原裕子

(KAKUTA主宰)

この度初めて北海道戯曲賞の審査に参加しました。戯曲を読む力というものが自分にあるのだろうか、審査する側に立って良いのかと恐縮しつつも、それはいつでも、どの審査員の皆さんも等しく抱える葛藤であろうと思ひ、開き直って臨みました。

独自の着眼に富んだ内容や、オーソドックスながらも丁寧に書き込まれているもの、中には超力作で読むのに苦労する作品もありましたが、それぞれに面白く読みました。

大賞が決まらない年もあると聞いていた北海道戯曲賞、毎年これほど高い水準の作品が揃うのかと驚いたのですが、今年は例年以上に充実したラインナップだったそうです。ゆえに審査会では審査員が各々違う作品を推すところから始まり、豊かに意見が交わされる有意義な時間を過ごすことができました。

『酒乱お雪』とにかくすさまじい筆力と分量！A4紙面にぎっしりと書き込まれた望郷のたぎり、には辟易しつつも圧倒され、感心しながらうんざりもし、長引く高熱にうなされるような感覚で読破するのになかなかの体力を要しました。でも、作者の年齢でこれほど知識や情報を持つ

どこかにAIが到達し得ない人間の生身を、ずっと探して読んでしまいました。

『新在り処』は、片麻痺の空き巣泥棒という設定にまず惹かれ、どうその体が物語に影響してくるのかを気にして読んでいましたが、そこが生きていたかというところ、さほど重要な要素に思えなかったという印象です。

騙されたふりをして他人を息子として迎え入れる老婆と、いつしかその態にのっかり心を許していく男のやりとり、特にラストシーンは胸をつかまれる切なさがありました。ただ、化かし合いが行き過ぎていいのか、お互いの嘘をあまりにも違和感なく請け負ってしまうので、「嘘の中にある真の気持ち」を探すお話なのに、本来の設定がぼやけてしまい、余計に迷子にさせられてしまった気がします。

『チキン南蛮の日々』チキン南蛮の霊が摂食障害の少女を救うというのは、かなり奇をてらった設定に見えて、実は人よりも動物よりも、自分の体から吐き戻された食物の方がまだ自分をわかってくれるかも……というのが、作者のものすごい絶望から来ている発想だなと思ひ、その哀しみと恐怖に震えながら読みました。ところがそんな奇妙な設定ならではの可笑しさが随所にあふれているので何度もぶつと吹き出し、最後はチキン南蛮が降霊テクでばかばかしくも切ない東野圭吾『秘密』ばりの感動を呼び起こして、(ちょうど読んでいる頃チキン南蛮が名物の宮崎県にいた

て描けること、またその情熱に胸を打たれてしまいました。そして、俳優ならば思わず口に出してみたくなる不思議で魅力的な台詞や、いくつかの迫力あるシーンにときめきました。それでも土地や星や鉄道の解説がしつこすぎやしないかと思ひますし、机上では成立しているけれど、実際に上演するにあたって俳優の体を通したときにどうか、という想像はどこか別の場所においてきている気もします。

勇気を持って刈り込み、もう少し整理した上で一度上演してみるとまた見えてくるものがあるのではと思う一方、整理なんてくそ食らえとこの勢いで書き続けてほしい気もします。とにかく、この熱をぶつけた新作を描いて、ぜひまた読ませてほしいです。

『小説家の檻』うっかり最初に「小説家の鑑」と読み、長らく勘違いしながら拝読していたのですが、後で思えばどちらも皮肉に成立するような、檻に囲われた小説家の鑑の物語。「究極の本を一冊作れば誰も他の本を読まなくなる」というような裏地の主張に「え？そうかな」と冒頭からノレなかった感はあるものの、展開するリズムの心地よさ、次へ次へと興味を引くストーリーテリングに力があり、飽きずに読み進みました。それにしても人が都合よく死にすぎなのと、登場人物が類型的で薄っぺらく感じてしまった点は、「AIが描いたから」というオチで納得すべきなものでしょうか。

のもあって)おいしいチキン南蛮を食べて成仏させたくなる、愛しい読後感がありました。

私は候補作の中でこれがいちばん「好き」な作品でしたが、本だけで充分楽しめ、小説にしても良さそうで、脳内で広がる景色の方がもしかすれば舞台に乗ったときより面白いのではと感じてしまったところで、戯曲賞のいちばんとして強く推すことにためらってしまいました。でも、とても面白かった。

『ほたる ふたりの女優のために』取り残されてしまった女二人の、関西弁ならではのどこか諦めた明るさが漂うやりとりには、ひたひたと川の水が満ちてゆくような寂しさがあり、染みるものがありました。

変わらぬ風景の中で二人の距離だけが徐々に近づいていく様子も心地よく、また美しく見てとれたのですが、「私大嘘つきや」と先の展開を匂わせる台詞があることで、その先に大きなどんぐんがえしなぞを期待して読んでしまっただけに、結末はやや物足りなさがありました。ささやかな思ひの揺れは魅力的に描かれているので、むしろそのような「匂わせ」を置かずとも、充分に惹きつけられたように思ひます。

『はるまつあきふゆ』ありふれた設定ながら細やかな心の行き違いが会話で描かれており、また時代の交差も練られて描かれていて、好感を持って読みました。ただどうし

でも引っかけたのが、子供時代に両親を亡くしたことがなぜ20代の今、怠惰に生きる理由になっているのかという点で、母の日記を見つけるまでに長い時間が経っているのに、その部分が空白に見えてしまったことでした。日記を見つけて、母を知ることで自分自身を見つけるといふ物語を置くために、作者が登場人物たちの人生に流れる「時間」を都合よく抜き取ってしまった気がします。その抜けた部分にこそ豊かな時の流れを感じられたら、この作品はもっと光を放つのではないのでしょうか。

『転職生』 名前の覚えづらさと、最初のキャスト紹介に性別表記がなかったこと、男女の描き分けが後半になるまでわかりづらいこと（それ自体は別に良いと思うのですが）から、誰が誰なのかを判別するまでにだいぶ時間がかかってしまい、何度も行ったり来たりして読む作業が少々つらかったのです。ただそれは、舞台上見ればすぐにわかることかと後で思い至りました。

退屈に見える彼らのルーティンワークと、ベルトコンベアを流れるように三方所の空間を行き来する人々の流れを重ねながら、個々の関係性が見えてくると徐々に面白くなりました。はじめは淡々とした無個性に思えるやりとりも実は細かく描き分けされており、低体温で進んできた時間が「新しき風」の存在によってうねりだすが、いい。

そのうねりに行き着くまで、芝居を見る人が彼／彼女ら

か。それだけ力がある戯曲が集まったということは、今戯曲賞においても、演劇の未来にとっても、同じフィールドに身を置く私自身にとっても刺激的で、幸福なことだと感じます。皆様、おめでとございます。

## 斎藤 歩

（札幌座チーフディレクター）

全体として

私はこの戯曲賞の審査員を引き受けて5年目になるのだと思います。今回は前年までと比べて、最終審査に残った8作品のレベルが上がっていたように感じました。前回までは「これが大賞になるんだろうなあ」とか「大賞はないんじゃないかな？」と感じたまま審査会に臨み、ほぼその通りの結果となっていたように記憶しています。ところが、今回は事前審査で初めて「A」と記入できる作品に出会え、しかも、他の審査員とは明らかに意見が違うだろうなあ、「今回は初めて意見が割れるのではないか」と予想し、その通りの最終審査会となり、とても楽しかったです。

好き・嫌いの話にまで至り、最後の決戦投票も票が僅差で割れたのは初めてではなかったでしょうか。特に、「きつと皆は推さないだろうなあ」と私が予想した『酒乱お雪』

に対し興味を持続できるかというところで、序盤につかみがほしい気はしますが、戦略を匂わせず狙いを捉えて描ききる、力のある作家だと感じました。

『バージン・ブルース』 LGBTをテーマにしたいいわゆるモダン・ファミリーのアットホームな話かと思わせておいて、めまぐるしい走馬燈から時をさかのぼる旅が始まり、ジェンダーも激しく入り乱れて思いがけぬ場所へ連れて行かれる時間は、愉しいものでした。登場人物たちの持つ体のビジュアルを想像すると生理的にうろたえてしまう感覚はありますし、その挑発的な台詞のいくつかは物議を醸すかもしれないと思います。ただ、どの性に対してもあえて等しく差別的に描く、という作者の挑戦を感じ、また個々のキャラクターの愛らしさは最後まで失われておらず、彼らに幸あれ、と思いながら人生を追いかけることができました。

彼らが自虐と挑発を込め「化け物」「出来損ない」と自らを呼ぶのもわかるのですが、そこまでその言葉を繰り返して投げかけるのであれば、哲学部出身の彼らなりに、この言葉の行き着く独自の終着地をもうひとつ掘ってほしかった気はします。

読んでも面白いし、この舞台を観てみたいと強く感じたので、今作を大賞に推しました。

北海道戯曲賞で大賞と優秀賞2本が出たのは初めてだとを最終審査会に挙げてくれた下読み担当の皆さんには感謝します。

### 『酒乱お雪』

実に荒っぽく、懐かしい匂いのある戯曲ですが、並々ならぬエネルギーと遊び心、そして食欲な知的好奇心を感じ、惹かれました。近年、等身大の台詞が多い中、こういう戯曲が欲しいと感じていたまさにストライクゾーンに来た戯曲でした。今、このような戯曲を上演しようとしても長台詞を吐き続ける身体性を現代の俳優が伴えるか疑問ですが、本当に好きな戯曲でした。最初、時系列が無茶苦茶だなあと感じながら読み始めたのに、すぐに引き込まれました。私は演劇には「ケレン味」が欲しいと思っています。近年そうした新作になかなか出会えることがなく、ケレン味だらけのこの戯曲が素敵でした。「ケレン味」だけでなく、東北出身の小説家・詩人たちの引用も的確で、「長い」という審査員が多かったのですが、私は一気に読み進められました。確かに、構成が下手だったり不要なセリフや場面が満載で、手直しが必要な部分も多いと思うのですが、今回の8作の中では今後の伸びしろが期待できる唯一の作家だと感じ、5年間北海道戯曲賞の審査員を続けさせていただいてますが、初めて「A」という評価をつけて最終審査会に臨みました。審査後に、まだこの作家が若く、経験もほとんどないという話を聞いて、さらに楽しみになった作

家でした。こういう作品に大賞を出す戯曲賞が北海道にあってもいいのではないかと、私は思うのですが、私以外の審査員の共感を得られませんでした。それも納得はしていません。確かに粗すぎる。でも本当にうれしかったです。それにしてもタイトルはもっと工夫が欲しいです。

#### 『小説家の檻』

ゴーストライターとAIというアイデアによるプロットだけで書かれた戯曲のように感じて、それ以外に面白みを感じることができませんでした。「究極の本を読めばそれ以外に本は不要になる」とか、「本は人を殺せる」という理屈に今一つ共感できず、テレビ局という社会装置を都合よく、しかも安易に配置していたり、出版社の前のバス停で偶然ゴーストライターに出会ったり、「きいろいくも」という本が裏地の父の作品だったとか、都合が良すぎるように感じました。

#### 『新在り処』

この作品、開演してすぐに観客に「男」が空き巣だとわかるだろうか？台詞も設定もあまりいいとは思えませんでしたが。この男に脳疾患から来た「麻痺」を伴わせる必要があるのだろうか？という疑問も残りました。作家が「麻痺」を伴って生きることの困難さを表したかったのでしょうか。ちょっとよくわかりませんでした。すいません。

で才気もあり、実に面白いのですが、何か引っかかっていました。何が不満なのか判然としないまま、この作品にだけ「B」という判定をつけて審査会に臨みました。審査員との議論の中で、判然としないものが少し見えた気にもなり、やはり、台詞や場面展開の巧みさなどは他の7作品と比べると圧倒的であったため、最終的に大賞となったことにも納得がいますが、もう好き嫌いの問題なのかもしれない。オッパイとかおちんちんとか、人と異なった個性に対するコンプレックスが性の部分にのみ突出していることが気に食わないのかもしれない。

#### 『はるまじあふまじ』

かなり早い段階で「波留」が「夏生」の実母で、「冬美」が叔母であるとわかったのですが、それが露になる過程が実にじれったく感じて、複雑に入り組ませる必要があったのだろうか？と感じました。それが例えシンプルになったとしても、あまり面白みを感じませんでした。

#### 『ほたる ふたりの女優のために』

二人の女優のために、というタイトルにある通り、二人の女優を魅力的に見せようとしたのかわかりませんが、予定調和だらけに感じました。善人ふたりが慰めあう構図で、驚きがないんです。ほのぼのとしたムードの中にあっても、人間の具体的な毒とか嘘とか、ある年齢になった女性にはあるのではないかと思うのですが。

#### 『チキン南蛮の日々』

この作品を推す審査員が複数名いましたが、私は魅かれませんでした。「チキン南蛮の地縛霊」という突飛なアイデアや、ピースケというインコが関西弁を覚えて帰ってくるという設定など、面白い部分もあるのですが、短編のプロットとしては成立しそうな気もしますが、本編戯曲としては物足りず、最後まで審査に残ったのですが、私は他の作品の方に票を投じました。

#### 『転職生』

まず、人物名が覚えづらく読むのに苦心し、三か所に誰がいて誰がいなかったのかという表まで作って読み、「あ、この人は女性だったのか！」と気づいては読み直したりしました。社員・アルバイト、被雇用者としてしか生きられない現代の若者の閉塞感を描いているのか、東京のような都市で演劇を志す者たちの生感をそこに持ち出して、おそらく作家の実体験がもとになっているように読めるのですが、私には作家の視座とは異なる他者の視座も必要ではないかと感じてしまうのです。確かに上手く構成されていて達者だなあとは思いますが、最後の最後まで強く推す審査員も居ましたが、私は手を挙げませんでした。もっと変なものをこの作家には期待してしまいます。

#### 『バージン・ブルース』

力のある作家だと感じました。面白く読めました。達者

## 土田 英生

(MONO代表)

大池容子さんの『バージン・ブルース』が大賞になった。おめでとうございます。読み始めてすぐに言葉選びのセンスを感じ何度も笑った。ラスト、回収の仕方にやや不満は感じただけでそれもそこまで大きな問題ではない。私が審査会の時に最後までこだわったのが「性器が伸びていく」「きれいなおっぱいを持っている」など、この作品の中で描かれている「出来損ない」たちが、性にまつわるものに偏ってしまっている気がして、そうした設定が突き抜けたフィクションとして成立するところまでいっていないのではないかとということだった。他の審査員メンバーからの説得で納得はしたものの、読み返してみるとそこに関してやはり引っぱかりは感じる。

昨年の受賞者である本橋龍さんの『転職生』は、また去年の『動く物』とは全く趣の違った群像劇だった。さらに本人の体験などもあるのか、ディテールや台詞にしっかりと体重が乗っていて迫力があつた。群像を描きながらも物語に軸は用意されていて、イナサとアサゴチの恋愛もよかったし、特にイナサの「ヨアラシくん殴っていいよ」という台詞には不覚にも泣かされた。

伸由樹生さんの『酒乱お雪』については、審査会が最も

盛り上がった時間だった。まだ全体の構成も荒く、無駄な台詞や説明も多い。これをそのまま上演するのはかなりハードルは高いだろう。しかし、とにかく作者が書いている時の勢いや想いが全編に溢れていた。東北という地域をあえて一つの概念にまで昇華させ、その《東北》が背負わされてきたもの、担ってきたものを、かつては東北からの玄関口であった上野の変遷まで含めて描いている。これからもっと書いてもらいたいと思った。

そして、私が最も推したのは國吉咲貴さんの『チキン南蛮の日々』だった。まず、『笑い』としてとにかく面白かった。ピースケという荒唐無稽な設定を据えつつも、加奈子という人物がとてよく分かるという気がした。その加奈子がハマる佐山くんのクズぶりも、ピースケの奔放ぶりも配置としていいし、何より無償の愛を注ぐチキン南蛮と、一見ハッピーエンドに見えて解決していない辛さも含めて私はとてもいいと思った。

斜田章大さんの『小説家の檻』は設定はともいいし丁寧に描かれていると思うのだけど、そもそもその人物設定や物語が、やや説得力に欠けている。物語を読むと吐いてしまふ裏地のモチベーションに納得ができず、究極の本をつくれればその本以外誰も読まなくなるといふ論理もそのまま受け入れられなかった。もっと登場人物の背景をしっかりと作り込むといいのではないかと思う。

たいなかった。

## 長塚圭史

(阿佐ヶ谷スパイダース主宰)

私などが戯曲を審査するなどということは大変烏滸がましいようにも思いましたが、二十年以上上演劇に携わってきた者として、純粹に演劇として奥行きを持って立ち上げる喜びを頼りに審査しました。当然好き嫌いもあったのですが、何れにしても全体的に驚くほど面白く読むことが出来ました。大賞作品一本と優秀作品が二本。該当者なしという年も多かったこの戯曲賞では異例のことだと聞きました。明るいですね。以下選評は敬体をやめまして、常体で書きます。敬体には自然と気遣いのようなものが生じてくるくらいがありますでしょう。

私は大賞に本橋龍さんの『転職生』を推した。正規社員とアルバイトの立場、演劇というもののへの偏見など、作者の実体験に依る視点から、少しずつ視野を広げ、よほど関心を抱かなければおよそ実態のないような社内の人々の営みに、淡い輪郭を浮かび上がらせた。異なる価値観を携えた転職生・新しい風の登場で、指令を失った蟻の隊列が少しずつ乱れてゆくように、それぞれ淡い輪郭の中に、本音を垣間見せた。構成も口語体のダイアローグもバランス良

松岡伸哉さんの『はるまつあきふゆ』は読みやすい作品ではあった。台詞も自然で、描写も上手だと思うし、時間の違う家族が重なり合うように展開するのもいい。ただ、見つけた日記で本当の母に出会うというには、そこに事情がなさすぎた。

相馬杜宇さんの『新在り処』はややもどかしさの残る作品だった。空き巣である男が認知症である老婆に息子と間違えられるという落語のような設定はいいと思うけど、ドラマポイントが明確ではない。老婆との関係を通しての男の変化や、老婆が最後まで男を本当に息子だと思っていたのか、もしくは勘違いだとわかりつつも泊まって欲しかったのか、物語の軸となるポイントが見えないのもあった。男が息子の振りをする前半の笑えるはずのシーンも、もう一工夫あってもいい。

キタモトマサヤさんの『ほたる ふたりの女優のために』は、これから何が始まるのかと期待させるオープンニングもいいし、二人の中年女性が抱える寂しさは心に沁みる。ただ、二人の関係の変化をもっと見たかった。最初からある程度の和解放が感じられてしまっていたり、(シーン2)の最後でアズミが「:そうや、ワタシ大ウソつきや」(実際の台本では「大ウソつき」となっていて、ワザとだとしたら私には意味が理解できていないけど)という台詞で、期待してしまっただけの事情が後で出てこないことなども

く、視点も極めて一貫しており、応募作の中で最も切れ味が良いという印象を受けた。

『酒乱お雪』に込められた異様な気迫は、審査会でも一番の話題となった。明らかに書きすぎてしまっただけのもの、読後の爽やかさは、「親潮上空を吹きすさぶやませが、オリオ、お前の心にも吹いているのかい?」という懐かしくもキレの良い台詞を怒涛のように浴びた後だからだろうか。丁寧に削ぎ落とせば飛躍的に伸び上がるポテンシャルを感じた。まるでカラーージュかと思わせるほどに、昭和を忍ばせるノスタルジックなポエジーが溢れた。作者の伸由樹生さんは十九歳で、これが初戯曲とか。平成という時代を丸々飛び越えてやってきたようであった。次の作品を読んでみたい。

斜田章大さんの『小説家の檻』は作者の脳内にあるプロットの世界を出なかつた。後半畳み掛けるように死んでゆく登場人物たちに、信じられる動機を感じ取れなかつた。裏地という人物の登場はあまりにも都合が良いが、憎悪が多量の嘔吐となる点について、実に気持ち悪いのだが、私は好感を持った。

國吉咲貴さんの『チキン南蛮の日々』。私はかなり愉快に読んだ。特にインコのピースケの造形は、インコを実際に飼っていたこともある私としては見事だと。インコは想像以上に人間に懐き、思わぬ言葉を記憶・再生し、しかし

もちろん鳥類ゆえその心の中はどこまでも真っ暗な闇なのだ。ただチキン南蛮はまだしもインコも俳優が演じることが考えると、どうしても戯曲で読む以上の面白味を脱せそうもなく、推しきらなかつた。

キタモトマサヤさんの『ほたる ふたりの女優のために』。関西弁のポテンシャルを感じた。漫才のような丁々発止のやりとりの中に、裏腹な感情、また疑心暗鬼を孕むことが出来るのではないか。ただどちらの登場人物も動機が茫洋としていた。ゆえに掛け合いもいま一つ盛り上がらない。動機をしつかりと掴んでおけば、そしていつ何があったのかをもっともっと鮮明にしておけば、その場面を直接描かなくとも、もっとスリリングになったのではないか。また「ふたりの女優のために」という副題が適当であつたのか疑問が残る。

『新在り処』は、いまひとつ何故こうした事態が生じてしまっているのかスッキリしないまま読んだ。作者は如何なる意図を持ってこのシチュエーションを作り出したのか。息子でないものを息子と思ひ込むコメディとして紡がれたのだとしたらかなり仕掛けが甘いのである。聞けばこの作品は作者の相馬杜宇さんが実際に障害を抱えてしまったことで、元々発表していた作品を改めて書き直したのだそうだ。そう聞くとまた読み手の心持ちも揺らいでくるが、それでもたった三人しか登場しない登場人物に、もっと魅力

## 前田司郎

(五反田団主宰)

私見だが、というか、これから記す全ては私見に過ぎないが、今回は、大賞に申し分ない才能を感じる作品が複数あつた。大賞に値する実力を感じた作品のどれが大賞に推すかという、審査員の、作家としての趣味が垣間見えるような議論ができたと思う。嬉しかった。

僕は『酒乱お雪』『転職生』『バージン・ブルース』の三作品にそれを感じ、『バージン・ブルース』を一番に推した。

候補作8作品に細かく触れていく前に、前提を述べておきたい。毎度のことであれだが、言っておかないと気がすまないので申し訳ない。

これから他人の作品を偉そうに評価するが、僕自身は自分の作品に対する他人の評価にあまり耳を貸さないようにしている。我がことのように真剣に評価しているつもりでも、やっぱり我がことではない。自分を評価できるのは自分だけであり、そのことに一番時間や労力を割けるのも自分だろう。そして、その評価が左右する人生は自分のものだ。なので、僕の評価など話半分で聞いてもらいたい。自分が面白いと思うならそれで良いと思う。ただ、自分の作品を信じるためには作品をとことん疑う必要があると思う。

を与えられなかつたのか。

松岡伸哉さんの『はるまつあきふゆ』。やはりプロットの域を出られなかつたのではないか。ひとつの場所で時間を混在させる手法は新しくはない。せめて家族や家庭が孕む折々の時間の濃密な匂いを、いつも漂わせてほしかった。ダイアログも人物の複雑な関係を表しきれてなかつた。時間が共有される居間のイメージが、ト書き上も台詞に於いても、いまひとつぼやけたままであつたことも気にかかつた。

大賞となつた大池容子さんの『バージン・ブルース』を私は大賞には推さなかつた。満遍なく饒舌になり過ぎてはいないか。ただこの作品は当て書きだつたそうで、だとすれば、私が粗っぽく感じた台詞は、案外小気味良く乗り越えられたのかもしれない。思い切りのいい大胆な展開と設定は大きな魅力だつた。またマイノリティーへの荒唐無稽ながらも明るい光の当て方に好感が持てた。それでもダイアログにもう少し魅力を感じられたらという最初の思いは変わらなかつた。

この選評が疑いぬくための一助にはなれば望外の幸いである。

『酒乱お雪』僕はこれを一番目に推した。圧倒的な質量、密度に、読む前から気圧されてしまった。「これ読むの嫌だなあ」と思い読み始めたが、読んでみると、ハツとするセリフ、展開に多く出会つた。物語りに素晴らしい跳躍も認められ、面白かつた。ただ長い。作者本人にも制御し切れていないように見える情熱が、こちらの体力を奪う。語り過ぎる。よく喋る、話の面白い人と飲んでいる感じ。それが二次会三次会と続き、朝になってしまいくったり疲れて始発で帰る感じ。最初の店で完結できるように、まとめて欲しい。

作者ばかり喋りすぎてはいけないと思う。観客も喋りたいたいのだ。

それとは別に、オリオとお雪の出会いが雑ではないだろうか。あれならばあえて書く必要もないように感じた。最初から知り合いにしておいても不自然はない。

しかし圧倒的で野放図な才能を感じた。審査会で作者の年齢を知ってびっくりした。洗練されて欲しい気もするし、このまま行って欲しい気もする。書いていけば、放つておいても上手くなるので、小さくまとまらず好き勝手書き続けて欲しい。

『小説家の檻』 アイディアは面白いように思った。AI

という話題はトレンドには違いないから、みんなが書くだろう。よっぽど優れたアイデアじゃないと抜きん出られないだろう。で、僕はアイデアの優劣は劇作にとってどうでも良いと思っていて、なのでその点に関しては評価する能力が僕にはない。

出会いが雑だと思った。偶然に頼り過ぎ。偶然出会った人になぜか自分の小説を読ませ、実はその人は、主人公と運命的な繋がりがあるという偶然。

細部が雑に感じた。いろいろ突っ込みどころが多すぎて、シリアスな物語にそぐわない。また、登場人物を簡単に殺しすぎだと思う。結構みんなすぐに自殺するのは、書き手の都合のように思える。

描きたい絵があって、それをただ描くのでは、自分のアイデアは越えられない。プロット通り書いても、自分の想定内で、一人の人間が考えたことなど高が知れているのではないだろうか。プロットを曲げるような力を、登場人物から引き出したい。

『新在り処』 お婆さんに可愛らしさを感じた。嫌な感じはしなかった。

学生というキャラクターの造形が雑だと思った。コメディリリーフとして出てきたのかも知れないが、面白いとは思えなかった。面白がらせようという意図を感じてしまったからだと思う。

り（加奈子に肩入れしているので、完全に俯瞰してみているわけではないが）、加奈子よりは客観的にみているはず。なので、この佐山の造形がどうも気になったのだ。

ところが、加奈子の目線で見てみると、加奈子は完全な主観で物語り上にあるから、恋人の佐山との関係において、視野が狭窄していて、その一面しか見れていないのかも知れない。そうなると佐山の描写はこれでも理に叶っているということになる。

なるほどなあ、と思ったが、それでもやっぱり、僕はこの作品を評価できなかった。音の面白さはあったが、浅いように思えてならなかった。

僕は作家はやはり、作品に対してある程度、批評的に距離をとるべきだと思っているからだろう。この辺が審査員の趣味が出たところと言えるのじゃないだろうか。

『転職生』 僕はこの作品も二番目に推した。会話にセンスを感じる。実はこの作品だけは、審査する前に作者が誰か判っていた。たまたま東京で上演されたのを見たからで、作者の本橋くんは去年の北海道戯曲賞の大賞をとっており、そのとき以来交友もあるからだ。

出来るだけバイアスを受けないために、作者の名前やプロフィールを見ないで審査することになっているが、これは例外と言える。

で、今回の作品も面白いのだが、前回大賞を受賞した

お婆ちゃんの造形も綺麗過ぎるように感じた。少女のような老婆という理想の姿が見えて、生々しさを感じなかった。障害の描写は生っぽかったが、別に障害持ってなくても良いなと思った。

何か「泣かせたい」「笑わせたい」という作者の意図が透けて見えるように感じ、その意図に登場人物を従えさせているように感じた。

僕は登場人物が作者にケンカを売り、互角の戦いを演じている戯曲が好きだ。作者に従順な登場人物は物語を円滑に進めてくれるが、仕事している感じで、生き生きしていない。

『チキン南蛮の日々』 僕はこの作品をまったく評価できなかったが、桑原さんと土田さんはとても評価していて、長塚さんもある程度評価していた。歩さんも僕と同じで評価していなかった。こんなに意見が割れることははじめてで、面白いことだと思った。

議論を進めるうちに、僕はこの話を「チキン南蛮の霊」の目線で読んでおり、評価している他の皆さんはどうも登場人物の「加奈子」の目線で読んでいたことが判った。

僕は加奈子の恋人の「佐山」の造形が、薄っぺらいことが気にかかっており、ある種の男性のステレオタイプのような描かれ方をしている嫌だった。

チキン南蛮の霊は出来事に対して、第三者的な立場にお

『動く物』と比べると、熱量のようなものが劣っているように感じ、一番に推すことはしなかった。本作は、『風の又三郎』（宮沢賢治）のパロディである『転校生』（平田オリザ）のパロディになっている。ここでいうパロディはかいかいや滑稽を狙ったもの意ではなく、純粹な引用の意。風の又三郎の物語は、ある種の物語の典型となっていて、僕の類別に寄れば『赤毛のアン』や『カッコーの巣の上で』や『今を生きる』などなども、同じパターンだ。つまり、或集団に誰かがやってきて、その集団（多くは古く凝り固まっている）を変え、去っていく（アンは去らないけど）。もし、意識的に『転校生』を引用したのだとしたら、志が低いんじゃないのと思ってしまった。同じ類型の他の作品を越えるものを作る意欲で書くべきではないか。『転職生』というタイトルからも、何か小粒な印象を受けた。多分これは僕の個人的な考え方に由来するものだから、審査においては排除すべきなのだが、どうも引き留ってしまっ

た。 前作『動く物』の印象が強かったこともあり、どうもそういうバイアスを取り払うことが出来ず、一番には推せなかった。

全く何の予備知識もなく読んでいたら、もう少し悩んでいた可能性はある。

内容にもう少し突っ込んだ話をする、登場人物の名前



が全てフィクションナルものになっているのはいただけな  
いと思った。どういう効果を狙ったものか判らないが、卑  
近な出来事の中にもドラマがあり、みんな生きているのだ  
ということが、この話の肝だと思って読んだが、奇妙な名  
前が、観客である自分たちが生きる世界と、劇世界との地  
続きな感覚を阻害しているように感じ、入りづらかった。  
どこか他人事に思え、テーマにそぐわないのではないか。  
これも趣味の問題か。結局審査員の趣味の問題なので、賞  
に普遍的な価値などない。

『バージン・ブルース』 僕はこの作品を一番に推した。  
タイトルを見て「やばいの来たな」と思い、男性二人が娘  
を育てているところから「ああ流行りに載ったのね」と、  
思ったが、載ってなかった。こちらの想像をどんどん裏切  
り、その裏切りが心地良く、最後まで面白く読んだ。

ただ面白いだけの戯曲でもなく、「なぜ女性だけが子供  
を産むのか」「普通とはなんだろう」とか、普遍的で重い  
問いかけが、上品に、物語の裏の方に隠れているように感  
じ、とても好感が持てた。作者の主張をずっと聞かされる  
タイプの作品には辟易とするが、主張は常に裏に回ってお  
り、それも断定ではなく問いかけのような形になっている。  
品性を感じた。

会話が上手いので物語が地に足ついており、観客も一緒  
に、物語の突拍子もない飛躍についていける。

のではないか。

となると、登場人物たちの身に起きた出来事も、それに  
起因する悲しみも、観客に向けたもののように、僕には思  
われてしまう。何のために悲しんでいるのだろうか。登場  
人物が観客のために存在してはいけないと思う。

『ほたる ふたりの女優のために』 状況は何か、面白く  
なりそうな雰囲気を感じたが、最初から最後まで二人の距  
離が変わらないので、読んでいて気持ちが悪くなかった。  
サスペンシ的な要素よりも、二人の人間の距離を描くべき  
ではなかったか。

出会いが雑だと思う。偏屈だから、頭がおかしいからと  
いう理由では納得がいかないほど、二人の距離が急に近す  
ぎる。距離が徐々に近づいていくその階調を描くためには、  
最初から近い距離にさせるのは得策ではないのでは？

二人の掛け合いも最初から成立して、漫才のように軽快  
だが、当然、漫才ほど面白くはない。我々は漫才師ではな  
いので。

二人の孤独な女が、いかにして軽やかな会話を交わすに  
いたったか、その道程を追体験させて欲しかった。

あえて難をいうのなら、歌に頼っているようなところだ  
ろうか。歌がなくても全然なりたつものもったいないと感  
じた。僕も歌や音楽に憧れや嫉妬を感じるが、我々のセリ  
フもそれに負けていないと信じるようにしている。

あとやっぱりタイトルはもう少し考えた方が良いんじや  
ないだろうか。

『はるまつあきふゆ』 プロットの組み立ては上手だなと  
思った。

ただ、登場人物の悲劇を利用してはいないか。みんな悲劇  
に囚われすぎている気がする。内省や時間の経過がもたら  
す、個人の心情の良い変化が無視されているように感じる。  
冒頭で、爪切りと新聞紙の挿話がある程度の時間を割い  
て語られるが、最後まで聞いてみると登場人物の動機、行  
動に納得がいかない。なぜそこまで新聞紙にこだわったの  
か？ 得心が行くとすれば、その行動は観客に向いていた  
という解釈だ。観客を面白がらせようと思っていなければ  
そんな理不尽な行動や言動にはでないように思えた。

露骨に言えば、冒頭で笑いを取って物語に没頭してもら  
おうという魂胆のようなものが見えた。それが悪いわけ  
はない。そこに登場人物である二人の女性の他に、観客と  
いうものが確かに存在していることを暗示してしまうのが  
問題だ。それは、この芝居には常に、登場人物の他に、観  
客というものが居ますよというルールの提示に他ならない

## 平成30年度希望の大地の戯曲「北海道戯曲賞」の概要

### (2) 第2次審査会

- ① 開催日 平成31年2月12日
- ② 開催場所 公益財団法人北海道文化財団会議室
- ③ 審査員  
桑原 裕子 KAKUTA 主宰  
斎藤 歩 札幌座チーフディレクター  
土田 英生 MONO 代表  
長塚 圭史 阿佐ヶ谷スパイダース主宰  
前田 司郎 五反田団主宰
- ④ 審査結果  
大賞 『バージン・ブルース』  
優秀賞 『酒乱お雪』  
優秀賞 『転職生』

### 4 大賞受賞作品『バージン・ブルース』リーディング公演

開催日時 平成31年3月24日(日) 14:00開演  
会場 扇谷記念スタジオシアター ZOO  
作 大池 容子(うさぎストライブ)  
演出 前田 透(劇団・木製ボーイジャー14号代表)  
監修 斎藤 歩(札幌座チーフディレクター)  
出演 山野 久治  
松橋 勝巳  
上総 真奈(ELEVEN NINES)  
横尾 寛(平和の鳩)

### 1 募集期間 平成30年7月17日～9月21日

### 2 応募内容

- (1) 応募数 120本(昨年度122本)
- (2) 男女別 男-76名、女-44名
- (3) 年齢別 10代-2名、20代-34名、30代-29名、40代-29名、50代-17名、60代-7名、70代-2名
- (4) 都道府県別 東京都-49名、神奈川県-13名、北海道-12名、大阪府-9名、埼玉県-6名、千葉県-4名、京都府-4名、兵庫県-4名、福岡県-4名、愛知県-3名、静岡県-2名、岐阜県-2名、岩手県-1名、新潟県-1名、茨城県-1名、富山県-1名、和歌山県-1名、高知県-1名、香川県-1名、熊本県-1名

### 3 審査会

#### (1) 第1次審査会

- ① 開催日 平成30年12月21日
- ② 開催場所 公益財団法人北海道文化財団会議室
- ③ 審査員 5名(氏名非公開)

第2次審査会に選出する8作品を決定。

第1次審査通過作品(作品名50音順)

『酒乱お雪』	伸 由樹生	(神奈川県)
『小説家の檻』	斜田 章大	(愛知県)
『新在り処』	相馬 杜宇	(神奈川県)
『チキン南蛮の日々』	國吉 咲貴	(埼玉県)
『転職生』	本橋 龍	(東京都)
『バージン・ブルース』	大池 容子	(東京都)
『はるまつあきふゆ』	松岡 伸哉	(福岡県)
『ほたる ふたりの女優のために』	キタモトマサヤ	(大阪府)

希望の大地の戯曲

# 北海道戯曲賞

平成30年度受賞作品集

---

発行日 平成31年3月

発行 公益財団法人北海道文化財団

〒060-0042

札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F

TEL 011-272-0501/FAX 011-272-0400

印刷 中西印刷株式会社

---